



# 滋賀県立大学 2022年度

## 講義概要(シラバス)

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

# 目 次

1110121	英語	A (活性化コース)	(人文)	木村 紀子	前期	・ ・ ・	1
1110122	英語	B (活性化コース)	(人文)	木村 紀子	後期	・ ・ ・	3
1110131	英語	A (活性化コース)	(人文)	Matthew Thornton	前期	・ ・ ・	5
1110132	英語	B (活性化コース)	(人文)	Matthew Thornton	後期	・ ・ ・	7
1110141	英語	A (活性化コース)	(人文)	佐久間 思帆	前期	・ ・ ・	9
1110142	英語	B (活性化コース)	(人文)	佐久間 思帆	後期	・ ・ ・	11
1110151	英語	A (活性化コース)	(人文)	西澤 裕一	前期	・ ・ ・	13
1110152	英語	B (活性化コース)	(人文)	西澤 裕一	後期	・ ・ ・	15
1110161	英語	A (活性化コース)	(人文)	森田 真	前期	・ ・ ・	17
1110162	英語	B (活性化コース)	(人文)	森田 真	後期	・ ・ ・	19
1110331	英語	A (応用コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	前期	・ ・ ・	21
1110332	英語	B (応用コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	後期	・ ・ ・	23
1110341	英語	A (応用コース)	(人文)	真島 アマンダ	前期	・ ・ ・	25
1110342	英語	B (応用コース)	(人文)	真島 アマンダ	後期	・ ・ ・	27
1110351	英語	A (応用コース)	(人文)	Ashley Stevens	前期	・ ・ ・	29
1110352	英語	B (応用コース)	(人文)	Ashley Stevens	後期	・ ・ ・	31
1110361	英語	A (応用コース)	(人文)	Alexandra Jane Burke	前期	・ ・ ・	33
1110362	英語	B (応用コース)	(人文)	Alexandra Jane Burke	後期	・ ・ ・	35
1110371	英語	A (応用コース)	(人文)	Karl Hedberg	前期	・ ・ ・	37
1110372	英語	B (応用コース)	(人文)	Karl Hedberg	後期	・ ・ ・	39
1110531	英語	A (充実コース)	(人文)	西澤 裕一	前期	・ ・ ・	41
1110532	英語	B (充実コース)	(人文)	西澤 裕一	後期	・ ・ ・	43
1110541	英語	A (充実コース)	(人文)	真田 満	前期	・ ・ ・	45
1110542	英語	B (充実コース)	(人文)	真田 満	後期	・ ・ ・	47
1110551	英語	A (充実コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	前期	・ ・ ・	49
1110552	英語	B (充実コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	後期	・ ・ ・	51
1110561	英語	A (充実コース)	(人文)	Janeth Hori	前期	・ ・ ・	53
1110562	英語	B (充実コース)	(人文)	Janeth Hori	後期	・ ・ ・	55
1110571	英語	A (充実コース)	(人文)	Christopher Garth	前期	・ ・ ・	57
1110572	英語	B (充実コース)	(人文)	Christopher Garth	後期	・ ・ ・	59
1110741	英語	A (展開コース)	(人文)	西堀 彰子	前期	・ ・ ・	61
1110742	英語	B (展開コース)	(人文)	西堀 彰子	後期	・ ・ ・	63
1110751	英語	A (展開コース)	(人文)	Ashley Stevens	前期	・ ・ ・	65
1110752	英語	B (展開コース)	(人文)	Ashley Stevens	後期	・ ・ ・	67
1110761	英語	A (展開コース)	(人文)	近藤 佑樹	前期	・ ・ ・	69
1110762	英語	B (展開コース)	(人文)	近藤 佑樹	後期	・ ・ ・	71
1110771	英語	A (展開コース)	(人文)	真島 アマンダ	前期	・ ・ ・	73
1110772	英語	B (展開コース)	(人文)	真島 アマンダ	後期	・ ・ ・	75
1110781	英語	A (展開コース)	(人文)	坂本 輝世	前期	・ ・ ・	77
1110782	英語	B (展開コース)	(人文)	坂本 輝世	後期	・ ・ ・	79
1130090	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文a)	山本 洋紀	前期	・ ・ ・	81	
1130100	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文b)	亀田 彰喜	前期	・ ・ ・	83	
1130110	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文c)	山本 洋紀	前期	・ ・ ・	85	
1130120	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文d)	亀田 彰喜	前期	・ ・ ・	87	
1130200	情報科学概論 (人文b)	亀田 彰喜	後期	・ ・ ・	89		
1130210	情報科学概論 (人文a)	山本 洋紀	後期	・ ・ ・	91		
1130220	情報科学概論 (人文c)	山本 洋紀	後期	・ ・ ・	93		
1130230	情報科学概論 (人文d)	亀田 彰喜	後期	・ ・ ・	95		
1150350	人間探求学 (人間関係) 学科教員	前期	・ ・ ・	97			
1150460	比較住居論～住まいがたえる世界のくらし～	藤木 庸介	前期	・ ・ ・	99		
1201980	政治学 松本 浩延	前期	・ ・ ・	101			
1201990	政治学 (国際政治を含む) 松本 浩延	後期	・ ・ ・	103			
1203110	法学概論 (国際法を含む) 坂田 雅夫	前期	・ ・ ・	105			
1400305	カウンセリング論 松嶋 秀明	前期	・ ・ ・	107			
1400330	環琵琶湖文化論実習 (人間関係) 学科教員	通年	・ ・ ・	109			
1400510	教育学概論 杉浦 由香里	前期	・ ・ ・	111			
1400520	教育観察実習 杉浦 由香里	前期実習	・ ・ ・	113			
1400530	教育心理学 大谷 宗啓	前期	・ ・ ・	115			
1400540	教育制度論 渡辺 雅幸	後期	・ ・ ・	117			
1400555	教育方法論 本宮 裕示郎	前期	・ ・ ・	119			
1400610	形成論演習 杉浦 由香里	通年	・ ・ ・	121			
1400650	現代ジャーナリズム論	後期	・ ・ ・	123			
1400670	現代社会福祉論 中村 好孝	後期	・ ・ ・	125			
1400685	国際社会論	前期	・ ・ ・	127			
1400710	現場心理学 松嶋 秀明	前期	・ ・ ・	129			
1400840	行動論演習 松嶋 秀明	通年	・ ・ ・	131			
1400860	高齢者行動論 城 綾実	前期集中	・ ・ ・	133			
1400880	コミュニケーション論 高梨 克也	前期	・ ・ ・	135			
1400920	産業心理学 武田 悠衣	後期	・ ・ ・	137			
1400980	質的データ解析論 櫻井 悟史	後期	・ ・ ・	139			
1401025	労働・社会政策論	後期	・ ・ ・	141			
1401040	社会学演習 大野 光明	通年	・ ・ ・	143			
1401050	社会学概論 丸山 真央	前期	・ ・ ・	145			
1401060	社会学史 中村 好孝	前期	・ ・ ・	147			
1401100	社会心理学 (人間関係) 谷口 友梨	後期	・ ・ ・	149			

1401110	社会精神医学	久保田 泰考	前期集中	...	151
1401125	地域社会調査実習	塚本 礼仁	通年	...	153
1401130	社会調査方法論	大野 光明	後期	...	155
1401140	社会調査論	中井 治郎	前期	...	157
1401180	社会変動論		後期	...	159
1401190	社会問題の社会学		前期	...	161
1401340	生涯学習論	原 未来	前期	...	163
1401520	心理・発達・行動学実験演習	松嶋 秀明	通年	...	165
1401540	心理学基礎	谷口 友梨	前期	...	167
1401560	生活経営論/	山田 歩	後期	...	169
1401575	生活と教育	植田 一夫	後期	...	171
1401710	生活法	山中 稚菜	前期集中	...	173
1401720	政治経済学		後期	...	175
1401822	卒業研究・論文	(人間関係) 学科教員	前期研究	...	177
1401824	卒業研究・論文	(人間関係) 学科教員	後期研究	...	179
1401875	社会運動論	大野 光明	前期	...	181
1402240	哲学概論A	鞍田 崇	前期集中	...	183
1402250	哲学概論B		前期集中	...	185
1402360	統計学基礎	高梨 克也	後期	...	187
1402400	日本社会論	櫻井 悟史	後期	...	189
1402460	人間関係論演習	学科教員	通年	...	191
1402471	人間関係論演習	学科教員	前期	...	193
1402475	人間関係論演習	学科教員	後期	...	195
1402481	人間関係論基礎演習	学科教員	後期	...	197
1402501	人間形成論A		前期	...	199
1402502	人間形成論B	植田 一夫	後期	...	201
1402530	人間行動論	高梨 克也	前期	...	203
1402540	人間文化論A	中井 直也	前期	...	205
1402550	人間文化論B	櫻井 悟史	後期	...	207
1402560	人間文化論C	宮本 雅子	後期	...	209
1402570	認知心理学	上野 有理	後期	...	211
1402609	発達支援論(人間関係)	水野 友有	後期	...	213
1402615	発達心理学		前期	...	215
1402690	比較認知発達論		後期	...	217
1402950	文化社会学	櫻井 悟史	前期	...	219
1403000	マーケティング論	山田 歩	後期	...	221
1403100	量的データ解析論	丸山 真央	前期	...	223
1403110	量的データ解析論	岡本 裕介	後期集中	...	225
1403190	臨床心理学	松嶋 秀明	後期	...	227
1403240	家族論		前期	...	229
1403250	地域社会論	丸山 真央	後期	...	231
1403260	パーソナリティ心理学		後期	...	233
1600251	教育課程論	鎌田 祥輝	後期	...	235
1600390	道德教育論	植田 一夫	前期	...	237

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	木村 紀子
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業方法	授	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

本授業の目的は、英語の話を聴き取る、読み取る、書く、話す技術を伸ばすことである。具体的には、身近な話題についての話を聴いて、ノートを取り、それに関する英文を読み、まとめや意見を書き、発表する技術を伸ばすことである。

#### 到達目標

- (1) 英語の語彙の意味を理解して、使用することができる。
- (2) 英語の話を聴いて理解し、ノートを取ることができる。
- (3) 英文を読んで、主旨を理解することができる。
- (4) まとめや意見を、英語で書くことができる。
- (5) まとめや意見を、英語で発表することができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	10%	到達目標(1)～(4)について、試験を行う。
レポート課題		
上記以外	90%	到達目標(1)～(4)について、毎回の小テストと宿題を評価する。(60%) 到達目標各項目について、発表、授業中の活動・提出物を評価する。(20%) 到達目標(1)～(4)について、到達確認テストを行う。(10%)

4回以上欠席した場合は、評価の対象としない。  
評価に関する重要な事柄が、初回の授業で説明されるので、必ず出席する必要がある。

#### 授業外学習

毎回、宿題と小テストへの備えをする。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Contemporary Topics 1 (Fourth Edition)	Helen Solorzano & Laurie Frazier	Pearson	978-0-13-440064-8
2				
3				

教科書は、新品(オンライン・リソース・アクセス・コードが未使用のもの)を購入しておき、必ず初回授業に持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特になし			
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	木村 紀子
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業方法	授	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

本授業の目的は、英語の話を聴き取る、読み取る、書く、話す技術を伸ばすことである。具体的には、身近な話題についての話を聴いて、ノートを取り、それに関する英文を読み、まとめや意見を書き、発表する技術を学ぶことである。

#### 到達目標

- (1) 英語の語彙の意味を理解して、使用することができる。
- (2) 英語の話を聴いて理解し、ノートを取ることができる。
- (3) 英文を読んで、主旨を理解することができる。
- (4) まとめや意見を、英語で書くことができる。
- (5) まとめや意見を、英語で発表することができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	10%	到達目標(1)～(4)について、試験を行う。
レポート課題		
上記以外	90%	到達目標(1)～(4)について、毎回の小テストと宿題を評価する。(60%) 到達目標各項目について、発表、授業中の活動・提出物を評価する。(20%) 到達目標(1)～(4)について、到達確認テストを行う。(10%)

4回以上欠席した場合は、評価の対象としない。  
評価に関する重要な事柄が、初回の授業で説明されるので、必ず出席する必要がある。

#### 授業外学習

毎回、宿題と小テストへの備えをする。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Contemporary Topics 1 (Fourth Edition)	Helen Solorzano & Laurie Frazier	Pearson	978-0-13-440064-8
2				
3				

教科書は、前期に新品(オンライン・リソース・アクセス・コードが未使用のもの)を購入して使用していたものを、引き続き初回授業から使用する

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特になし			
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	Matthew Thornton
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

The purpose of this class is to cultivate various skills in English through activities based about topics of the selected TED talks. We will spend two classes per Unit in our textbook, covering the first half of the book. The students will give one presentation in front of class, turn in various short writing assignments, and take quizzes for each Unit. Please keep in mind that the class will take place entirely in English.

#### 到達目標

1) By the end of the semester, you will be able to further reach the A2/B1 range (CEFR standard) in all four skills of English language. 2) You will have familiarized yourself with various ideas offered by TED talks, to further your learning on your own in the future.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% - Class participation  
30% - Quizzes  
25% - Writing assignments

#### 授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage Learning	9781305965041
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	Matthew Thornton
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

**授業計画**

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric	90		
第2回	Unit 1	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第3回	Unit 1	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第4回	Unit 2	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第5回	Unit 2	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第6回	Unit 3	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第7回	Unit 3	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第8回	Unit 4	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第9回	Unit 4	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第10回	Unit 5	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第11回	Unit 5	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第12回	Unit 6	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第13回	Unit 6	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第14回	Presentation	Presentation in front of class	90		90
第15回	Presentation	Presentation in front of class	90		90

担当者から

--	--	--	--	--	--

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	Matthew Thornton
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

The purpose of this class is to cultivate various skills in English through activities based about topics of the selected TED talks. We will spend two classes per Unit in our textbook, covering the first half of the book. The students will give one presentation in front of class, turn in various short writing assignments, and take quizzes for each Unit. Please keep in mind that the class will take place entirely in English.

#### 到達目標

1) By the end of the semester, you will be able to further reach the A2/B1 range (CEFR standard) in all four skills of English language. 2) You will have familiarized yourself with various ideas offered by TED talks, to further your learning on your own in the future.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% - Class participation  
30% - Quizzes  
25% - Writing assignments

#### 授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage Learning	9781305965041
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

デザインについて英語でコミュニケーションできるように練習します。

英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになったの演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)があります。期末テストの他に英文の暗唱テストを行います。

なお状況によりシラバスは変更になりますのでご了承ください。

#### 到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

学期末に英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません、自分で管理してください)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストが絶版のためプリントを使用します。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	This Means This, This Means That Second Edition: A User's Guide to Semiotics	Sean Hall	Laurence King Publishing	9781856697354
2				
3				

テキストとして使用する書籍のKindle版です。

#### 前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

#### 履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文 )						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認	2 授業内容の復習 1
第2回	WHAT DOES THE APPLE IN THIS PICTURE		2 授業内容の復習 1
第3回	CAN YOU MAKE SENSE OF THESE DOTS?		2 授業内容の復習 1
第4回	WHAT ARE THESE OBJECTS?		2 授業内容の復習 1
第5回	WHAT HAS HAPPENED TO THE WOMAN IN THIS		2 授業内容の復習 1
第6回	WHAT DO YOU THINK OF THIS PICTURE?		2 授業内容の復習 1
第7回	WHAT IS THIS MESSAGE REALLY SAYING?		2 授業内容の復習 1
第8回	HOW IS THE MESSAGE OF THE MONA LISA		2 授業内容の復習 1
第9回	HOW SHOULD WE COMMUNICATE DANGER		2 授業内容の復習 1
第10回	HOW DO YOU FEEL ABOUT THIS PICTURE?		2 授業内容の復習 1
第11回	HOW DO YOU OPEN THIS DOOR?		2 授業内容の復習 1
第12回	WHICH THREE ITEMS ARE MOST ALIKE?		2 授業内容の復習 1
第13回	HOW IS THIS EQUATION POSSIBLE?		2 授業内容の復習 1
第14回	CAN YOU RECOGNIZE THIS PERSON BY THEIR		2 授業内容の復習 1
第15回	まとめ		2 これまでの復習

担当者から

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

デザインについて英語でコミュニケーションできるように練習します。

英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになったの演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)があります。期末テストの他に英文の暗唱テストを行います。

なお状況によりシラバスは変更になりますのでご了承ください。

#### 到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

学期末に英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません、自分で管理してください)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストが絶版のためプリントを使用します。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	This Means This, This Means That Second Edition: A User's Guide to Semiotics	Sean Hall	Laurence King Publishing	9781856697354
2				
3				

テキストとして使用する書籍のKindle版です。

#### 前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

この授業では、TOEIC受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

#### 到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習 (予習・復習) をしっかりやってそれぞれの授業の学習内容をしっかり理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度 (授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度 (授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど) の悪いものは評価の対象としません。  
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない) 2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったリスニング活動とそれに関するレポートが中心になります。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
2	TOEIC L&R 出る単語特急金のフレーズ		朝日新聞出版	
3	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業計画							
回数	テーマ	概要				90分	予習/復習
第1回	ガイダンス/映画 Roman Holiday(1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など				90分	指定された教科書を手に入れておく ガイダンスの内容を理解して次回の
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から							
TOEIC受験に向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して、課題にも積極的に取り組んでしっかりと英語力を身につけてください。							

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

この授業では、TOEIC受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

#### 到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習 (予習・復習) をしっかりやってそれぞれの授業の学習内容をしっかり理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度 (授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)の悪いものは評価の対象としません。  
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない)2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったリスニング活動とそれに関するレポートが中心になります。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
2	TOEIC L&R 出る単語特急金のフレーズ		朝日新聞出版	
3	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業計画							
回数	テーマ	概要				90分	予習/復習
第1回	ガイダンス/映画 Roman Holiday(1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など				90分	指定された教科書を手に入れておく ガイダンスの内容を理解して次回の
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から							
TOEIC受験に向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して、課題にも積極的に取り組んでしっかりと英語力を身につけてください。							

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	森田 真
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

本授業では、リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの英語の4技能の向上を目指します。コミュニケーションは身近なトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の考えや意見を述べることや相手の話を理解し質問をする練習をします。また、英語的な表現で自分の考え、意見が述べられるように英作文を行い、その作文を基に会話を進めていきます。そして、基礎文法をしっかりと身につけて英語の理解力をのばします。さらにスキミングやスキミングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、CDとそのスクリプトを使ったリスニング練習も行います。

#### 到達目標

- (1) 日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
- (2) 英文読解の方法を知り、英文が速く正確に読めるようになる。
- (3) 基礎文法をしっかりと身につけて、正しい文法で文章を書くことができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30	英作文のレポート (15%) や小テスト (15%) などの課題。
上記以外	20	授業に参加する積極的な態度 (授業内の発言やペアワーク・グループワークに自発的に取り組む)

授業の3分の1以上 (5回以上) 欠席した場合は、評価の対象としません。

#### 授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NEW CONNECTION BOOK 2	Teruhiko Kadoyama etc	SEIBIDO	9784791934126
2				
3				

教科書は必ず購入してください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文 )						担当教員	森田 真
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業計画								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介	2	シラバスを事前に読んでくる。 もう一度シラバスを読む。クラス	2
第2回	Unit 1	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第3回	Unit 1	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第4回	Unit 2	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第5回	Unit 2	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第6回	Unit 3	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第7回	Unit 3	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第8回	Unit 4	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第9回	Unit 4	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第10回	Unit 5	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第11回	Unit 5	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第12回	Unit 6	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第13回	Unit 6	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第14回	Unit 7	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage 本日はやった問題を完璧にマスターし	2
第15回	Unit 7	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文 本日はやった問題を完璧にマスターし	2

担当者から  
英語習得には自発的な学習が必要です。授業前には予習をし、授業中には積極的な発言を期待しています。授業には辞書(または電子辞書)を持参してください。また、授業の進行を妨げたり、他の学生の学習機会を損なう行為は禁止します。

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	森田 真
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

本授業では、リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの英語の4技能の向上を目指します。コミュニケーションは身近なトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の考えや意見を述べることや相手の話を理解し質問をする練習をします。また、英語的な表現で自分の考え、意見が述べられるように英作文を行い、その作文を基に会話を進めていきます。そして、基礎文法をしっかりと身につけ英語の理解力をのばします。さらにスキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、CDとそのスクリプトを使ったリスニング練習も行います。

#### 到達目標

- (1) 日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
- (2) 英文読解の方法を知り、英文が速く正確に読めるようになる。
- (3) 基礎文法をしっかりと身につけ、正しい文法で文章を書くことができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30	英作文のレポート (15%) や小テスト (15%) などの課題。
上記以外	20	授業に参加する積極的な態度 (授業内の発言やペアワーク・グループワークに自発的に取り組む)

授業の3分の1以上 (5回以上) 欠席した場合は、評価の対象としません。

#### 授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NEW CONNECTION BOOK 2	Teruhiko Kadoyama etc	SEIBIDO	9784791934126
2				
3				

教科書は必ず購入してください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

In this course, students will develop skills to speak confidently about intermediate to advanced topics and write persuasive essays in English. The course is designed to develop students' abilities to produce English output (speaking and writing). They will engage in pair/group speaking tasks, discussions, debates, and presentations on intermediate to advanced topics related to daily and academic life. They will also develop the ability to write logical and persuasive essays in English.

#### 到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write paragraphs to organize ideas using a variety of sentence forms
- 2) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on daily or academic topics with more confidence in English.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation(40%)
レポート課題	30	Mid-term essay (30%)
上記以外	30	In-class participation (15%) Homework/assignment (15%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

#### 授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Expanding Horizons <B1-B2>	Charles Browne and Yuji Tanabe	南雲堂/NAN'UN-DO	ISBN 978-4-523-17934-4
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

In this course, students will develop skills to speak confidently about intermediate to advanced topics and write persuasive essays in English. The course is designed to develop students' abilities to produce English output (speaking and writing). They will engage in pair/group speaking tasks, discussions, debates, and presentations on intermediate to advanced topics related to daily and academic life. They will also develop the ability to write logical and persuasive essays in English.

#### 到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write paragraphs to organize ideas using a variety of sentence forms
- 2) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on daily or academic topics with more confidence in English.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation(40%)
レポート課題	30	Mid-term essay (30%)
上記以外	30	In-class participation (15%) Homework/assignment (15%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

#### 授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Expanding Horizons <B1-B2>	Charles Browne and Yuji Tanabe	南雲堂/NAN'UN-DO	ISBN 978-4-523-17934-4
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Students will work together with the instructor to make a friendly and communicative class in a welcoming environment. By the end of the course, students will feel more confident using English to share their opinions and ideas.

In particular, the spring semester covers the following topics: Hometown, music, books, and family.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities.

#### 到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English on topics related to students' lives.
- (2) Improve English writing fluency and accuracy on topics related to students' lives.
- (3) Better express Japanese cultural concepts and personal opinions.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Quizzes (20%); Speaking tests (30%)
レポート課題	25	Written presentation scripts
上記以外	25	Final project (10%); Participation (15%)

授業を5回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

#### 授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Scraps (Fourth Edition)	Brian Cullen & Sarah Mulvey	Perceptia Press	978439130229
2				
3				

You will need a A4 clear file and a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary.

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

We will continue to develop the skills that were practiced in the spring semester.

Students will work together with the instructor to make a friendly and communicative class in a welcoming environment. By the end of the course, students will feel more confident using English to share their opinions and ideas.

In particular, the fall semester covers the following topics: Travel, school, food, and friends.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities.

#### 到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English on topics related to students' lives.
- (2) Improve English writing fluency and accuracy on topics related to students' lives.
- (3) Better express Japanese cultural concepts and personal opinions.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Quizzes (20%); Speaking tests (30%)
レポート課題	25	Written presentation scripts
上記以外	25	Final project (10%); Participation (15%)

授業を5回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

#### 授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Scraps (Fourth Edition)	Brian Cullen & Sarah Mulvey	Perceptia Press	978439130229
2				
3				

You will need a A4 clear file and a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary.

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

#### 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	50% Final Interview Test 35% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.  
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

#### 授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

#### 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	50% Final Interview Test 35% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.  
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

#### 授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World 2	Stevens	3C English	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Alexandra Jane Burke
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Students will get an all-English listening and speaking experience through studying world cultures via a text, interactive activities and multimedia including quizzes. This goal of this course is to build skills and confidence in students to use English in social, research and work situations. Classes will follow the textbook in the order given below. Tasks will include geography, vocabulary building, grammar in context, dictation, reading comprehension, summarising, retelling, analysis and spoken interviews. Regular homework will be assigned. It is also expected that students will read upcoming units in advance.

#### 到達目標

The instructional emphasis will be on communication on themes drawn from the textbook as well as current events. Students will: (1) develop their critical thinking skills using English on issues in Japan and internationally, (2) be able to use new vocabulary in speaking and writing. (3) be able to work independently outside of class and work together cooperatively inside class. (4) be able to gain confidence in using English pitch intonation, word & sentence stress.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	A solo presentation and a 2-way discussion (videod) (30%) participation in pair-work, small group and small and large group activities (25%) completion of set quizzes (30%) 2 short videos. (15%). Students will be assessed on how well they demonstrate progress on goals 1 - 4.

As a general rule, students absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

#### 授業外学習

The goal is to talk freely about the difference between other countries and Japan. We will use free study games you can play on a phone/computer by yourself or with classmates. Study a little, daily.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Around the World in 15 Chapters Beginner Book 2nd Edition	John Spiri	Global Stories Press	978-4-905426-56-1
2				
3				

Bring textbook, device (computer/phone/ tablet) + headphones for research and class activities.

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Alexandra Jane Burke
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

Students will get an all-English listening and speaking experience through studying world cultures via a text, interactive activities and multimedia including quizzes. This goal of this course is to extend the conversational skills used in English IIA. Classes will follow the textbook in the order given below. Tasks will include geography, vocabulary building, grammar in context, dictation, reading comprehension, summarising, retelling, analysis and spoken interviews. Regular homework will be assigned. It is also expected that students will read upcoming units in advance.

#### 到達目標

The instructional emphasis will be on communication on themes drawn from the textbook as well as current events. Students will:

- (1) develop their critical thinking skills using English on issues in Japan and internationally,
- (2) be able to use new vocabulary in speaking and writing.
- (3) be able to work independently outside of class and work together cooperatively inside class.
- (4) be able to gain confidence in using English pitch intonation, word & sentence stress.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	A pair discussion and a 3-way discussion (videod) (30%) participation in pair-work, small group and small and large group activities (25%) completion of set quizzes (30%) 2 short videos. (15%). Students will be assessed on how well they demonstrate progress on goals 1 - 4.

As a general rule, students absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

#### 授業外学習

The goal is to talk freely about the difference between other countries and Japan. We will use free study games you can play on a phone/computer by yourself or with classmates. Study a little, daily.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Around the World in 15 Chapters Beginner Book 2nd Edition	John Spiri	Global Stories Press	978-4-905426-56-1
2				
3				

Bring textbook, device (computer/phone/ tablet) + headphones for research and class activities.

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

#### 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test  
25% Mid-term Writing test  
25% Vocabulary Quizzes

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

**授業計画**

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.	2	Please buy the textbook before	1
				Review the useful English	1
第2回	Getting to Know You	Making friends and exchanging (or not exchanging) personal information.	2	There will be a quiz on useful	1
				Review the useful English	1
第3回	Getting to Know You	Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1.	2	Be prepared to finish unit 1.	1
				Study the vocabulary for unit 2.	1
第4回	Family & Friends	Quiz 2, Talking about your family, memory game 1, song 1.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 2 vocabulary and	1
第5回	Family & Friends	Talking about your friends and learning to learn 2.	2	Preview the rest of unit 2. We	1
				Study the vocabulary for unit 3.	1
第6回	Around Town	Quiz 3, Describing your hometown and game 2.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 3 vocabulary and	1
第7回	Around Town	Getting to know Shiga, song 2.	2	Preview the rest of unit 3. We	1
				Prepare for the speaking test.	1
第8回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.	2	Prepare for the mid-term	1
				Study the vocabulary for unit 4.	1
第9回	School & Free Time	Quiz 4, School life, part-time jobs and schedules	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 4 vocabulary and	1
第10回	School & Free Time	Free time and hobbies. Comparing Japanese / American college life.	2	Preview the rest of unit 4. We	1
				Study the vocabulary for unit 5.	1
第11回	What's Going On?	Quiz 5, Talking on the phone, leaving messages.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 5 vocabulary and	1
第12回	What's Going On?	Making invitations and suggestions, song 3.	2	Preview the rest of unit 5. We	1
				Study the vocabulary for unit 6.	1
第13回	Numbers & Money	Quiz 6, Numbers and money.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 6 vocabulary and	1
第14回	Numbers & Money	Do the math!	2	Preview the rest of unit 6. We	1
				Start studying for the final	1
第15回	Review, Review, Review	Review.	2	Be prepared to talk to your	1
				Study for the final exam.	2
第16回	Final Exam		2		

担当者から

講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

#### 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test  
25% Mid-term Writing test  
25% Vocabulary Quizzes

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

**授業計画**

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.	2	Please buy the textbook before	1
				Review the useful English	1
第2回	Memory and the Past	Talk about past events.	2	There will be a quiz on useful	1
				Review the useful English	1
第3回	Memory and the Past	Continue talking about past events.	2	Be prepared to finish unit 7.	1
				Study the vocabulary for unit 8.	1
第4回	The Real You	Quiz 8, Talking about your personality.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 8 vocabulary and	1
第5回	The Real You	Continue talking about your personality.	2	Preview the rest of unit 8. We	1
				Study the vocabulary for unit 9.	1
第6回	My Favorites	Quiz 9, Describing your favorite things..	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 9 vocabulary and	1
第7回	My Favorites	Continue describing your favorite things.	2	Preview the rest of unit 9. We	1
				Prepare for the speaking test.	1
第8回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.	2	Prepare for the mid-term	1
				Study the vocabulary for unit	1
第9回	Let's Eat!	Quiz 10. Making dinner plans with friends and talking about food.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 10 vocabulary	1
第10回	Let's Eat!	Continue talking about food.	2	Preview the rest of unit 10. We	1
				Study the vocabulary for unit	1
第11回	Experiences	Quiz 11. Talking about experiences.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 11 vocabulary	1
第12回	Experiences	Continue talking about past experiences.	2	Preview the rest of unit 11. We	1
				Study the vocabulary for unit	1
第13回	Future Plans	Quiz 12. Talk about life after college.	2	There will be a quiz on the unit	1
				Review the unit 12 vocabulary	1
第14回	Future Plans	Continue to talk about life after college.	2	Preview the rest of unit 12. We	1
				Start studying for the final	1
第15回	Review, Review, Review	Review.	2	Be prepared to talk to your	1
				Study for the final exam.	2
第16回	Final Exam		2		

担当者から

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

#### 到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習(予習・復習)をしっかりとやってそれぞれの授業の学習内容をしっかり理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度(授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)の悪いものは評価の対象としません。  
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない)2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521
2	TOEIC L&R 公式ボキャブラリーブック	Education Testing Service	LiBC	9784906033560
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業計画							
回数	テーマ	概要				90分	予習/復習
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など				90分	指定された教科書を手に入れておく ガイダンスの内容をしっかりと理解し
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から							
初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、積極的に授業に参加して、さらに指定された家庭学習にもしっかりと取り組んで大学生にふさわしい程度の英語力							

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

#### 到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習(予習・復習)をしっかりとやってそれぞれの授業の学習内容をしっかり理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度(授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)の悪いものは評価の対象としません。  
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない)2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521
2	TOEIC L&R 公式ボキャブラリーブック	Education Testing Service	LiBC	9784906033560
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文 )						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画							
回数	テーマ	概要				90分	予習 / 復習
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など				90分	指定された教科書を手に入れておく ガイダンスの内容をしっかりと理解し
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ					指定された小テストの範囲をしっかりと小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から							
初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、積極的に授業に参加して、さらに指定された家庭学習にもしっかりと取り組んで大学生にふさわしい程度の英語力							

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

現代社会の諸問題についての英語教材を使い、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またビデオ教材等を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において英語を音読し、弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。教科書の設問や教員の質問にグループやペアで討議し、英語で答えることで、英語による発信力も育成する。

#### 到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。  
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。  
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。  
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。  
 正しい発音を身につける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標 に関し、2回小テストを行う。 到達目標 と に関しては授業での発表をもとに、毎回の宿題と合わせて評価する。

総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合、評価の対象としない。  
 30分以上の遅刻は認めない。  
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

#### 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えることで予習をしっかり行うこと。  
 語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading Explorer Third Edition Level 2 Student Book Test Only	David Bohlke他	Cengage	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし。

#### 前提学力等

英語Iおよび英語IIで身につけた英語力

#### 履修資格





講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

現代社会の諸問題についての英語教材を使い、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またビデオ教材等を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において英語を音読し、弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。教科書の設問や教員の質問にグループやペアで討議し、英語で答えることで、英語による発信力も育成する。

#### 到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。  
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。  
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。  
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。  
 正しい発音を身につける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標 に関し、2回小テストを行う。 到達目標 と に関しては授業での発表をもとに、毎回の宿題と合わせて評価する。

総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合、評価の対象としない。  
 30分以上の遅刻は認めない。  
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

#### 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。  
 語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading Explorer Third Edition Level 2 Student Book Text Only	David Bohlke他	Cengage	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし。

#### 前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

#### 履修資格



講義名	英語 A (充実コース) (人文 )						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

In this class, students will significantly improve their all four English language skills in an interesting and engaging way through activities on the Sustainable Development Goals (SDGs). Through activities such as pair/group work, discussions, debates, and presentations, they will gain more confidence and ability to share their ideas and knowledge related to SDGs and also acquire a better understanding of global issues. Students are expected to read upcoming units or assigned materials in advance and proactively participate in class activities.

#### 到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English.
- 2) Apply appropriate techniques to identify and extract the main ideas and details from a reading or listening material in English.
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on global issues with more confidence in English.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation (40%)
レポート課題	40	Mid-term essay (40%)
上記以外	20	In-class participation (10%) Homework assignments (10%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

#### 授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals	Kazuya Oseki Kevin M. McManus	南雲堂/NAN'UN-DO	9784523179313
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文 )					担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習
ナンバリング番号	201ENG201						

授業計画							
------	--	--	--	--	--	--	--

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Course Introduction	Course orientation and Self-introduction	1 時	Read the syllabus beforehand.	1
				Will be decided in class.	1
第2回	Chapter 1	Global Perspectives	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第3回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第4回	Chapter 2	Climate Change	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第5回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第6回	Chapter 3	Water	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第7回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第8回	Mid-term test	Essay writing	1 時	An announcement will be made in	1
				Not applicable	1
第9回	Chapter 4	Clean Energy	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第10回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第11回	Chapter 5	Poverty	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第12回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第13回	Chapter 6	Hunger	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第14回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1
第15回	Chapter 7	Children	1 時	An announcement will be made in	1
				Content students do not	1

担当者から
1) A mistake is not one if you learn from it, so make mistakes and learn from them.

講義名	英語 B (充実コース) (人文 )						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

In this class, students will significantly improve their all four English language skills in an interesting and engaging way through activities on the Sustainable Development Goals (SDGs). Through activities such as pair/group work, discussions, debates, and presentations, they will gain more confidence and ability to share their ideas and knowledge related to SDGs and also acquire a better understanding of global issues. Students are expected to read upcoming units or assigned materials in advance and proactively participate in class activities.

#### 到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English.
- 2) Apply appropriate techniques to identify and extract the main ideas and details from a reading or listening material in English.
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on global issues with more confidence in English.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation (40%)
レポート課題	40	Mid-term essay (40%)
上記以外	20	In-class participation (10%) Homework assignments (10%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

#### 授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals	Kazuya Oseki Kevin M. McManus	南雲堂/NAN'UN-DO	9784523179313
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO	
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	テーマ	概要						予習/復習		
第1回	Chapter 8	Gender						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第2回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第3回	Chapter 9	Refugees						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第4回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第5回	Chapter 10	Insects						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第6回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第7回	Chapter 11	Vegetarianism						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第8回	Mid-term test	Essay						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第9回	Chapter 12	Plastic Waste						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第10回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第11回	Chapter 13	Shopping						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第12回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第13回	Chapter 14	Partnership						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第14回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter						1時	An announcement will be made in Content students do not	1
第15回	Course wrap-up	A session to wrap up the whole course						1時	An announcement will be made in Content students do not	1

担当者から

1) A mistake is not one if you learn from it, so make mistakes and learn from them.

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

In this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

#### 到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。  
(2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。  
(3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

#### 授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (充実コース) (人文)					担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習
ナンバリング番号	201ENG201						

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習	
第1回	Introduction to the course	Description of activities and grading of the lessons in this course; getting-to-know-you activities	90分	No preparation. 1st lesson	0
第2回	Unit 1	Theme: Personal Space	90	Purchase book for class 2, unit 1	1
第3回	Unit 1	Theme: Personal Space	90	Prepare for vocabulary quiz 1 All unit 1 materials	3 2
第4回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture	90	Prepare discussion materials Unit 1 topics	3 2
第5回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture	90	Prepare for vocabulary quiz 2 All unit 2 materials	3 2
第6回	Unit 3	Theme: Collectivism	90	Prepare discussion materials Unit 2 topics	3 2
第7回	Unit 3	Theme: Collectivism	90	Prepare for vocabulary quiz 3 All unit 3 materials	3 2
第8回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks Short presentations	90	Prepare discussion materials Unit 3 topics	3 2
第9回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks	90	Prepare for vocabulary quiz 4 All unit 4 materials	3 2
第10回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan	90	Prepare discussion materials Unit 4 topics	3 2
第11回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan	90	Prepare for vocabulary quiz 5 All unit 5 materials	3 2
第12回	Unit 6	Theme: Japanese Tea	90	Prepare discussion materials Unit 6 topics	3 2
第13回	Unit 6	Theme: Japanese Tea	90	Prepare for vocabulary quiz 6 All unit 6 materials	3 2
第14回	Unit 7	Theme: Youth Subcultures in Japan	90	Prepare discussion materials Unit 7 topics	3 2
第15回	Unit 7 - Final class	Theme: Youth Subcultures in Japan Short presentations	90	Prepare last vocabulary quiz All semester materials	3 3

担当者から

Please speak in English as much as you can!

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

In the continuation to this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

#### 到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。  
(2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。  
(3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

#### 授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Introduction to the course	Description of activities and grading of the lessons in this course; getting-back-into-the-swing-of-things activities	90分	No preparation. 1st lesson	0
第2回	Unit 8	Theme: Juku Culture	90	Look over unit 8	1
第3回	Unit 8	Theme: Juku Culture	90	Prepare for vocabulary quiz 1	3
第4回	Unit 9	Theme: Studying Abroad	90	All unit 8 materials	2
第5回	Unit 9	Theme: Studying Abroad	90	Prepare discussion materials	3
第6回	Unit 10	Theme: Cellphone Etiquette in Public Places	90	Unit 8 topics	2
第7回	Unit 10	Theme: Cellphone Etiquette in Public Places	90	Prepare for vocabulary quiz 2	3
第8回	Unit 11	Theme: Vending Machines	90	All unit 9 materials	2
第9回	Unit 11	Theme: Vending Machines	90	Prepare discussion materials	3
第10回	Unit 12	Theme: Robotics Research	90	Unit 10 topics	2
第11回	Unit 12	Theme: Robotics Research	90	Prepare for vocabulary quiz 3	3
第12回	Unit 13	Theme: Manga	90	All unit 10 materials	2
第13回	Unit 13	Theme: Manga	90	Prepare discussion materials	3
第14回	Unit 14	Theme: Karaoke	90	Unit 12 topics	2
第15回	Unit 14 - Final class	Theme: Karaoke Short presentations	90	Prepare for vocabulary quiz 4	3
				All unit 11 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 12 topics	2
				Prepare for vocabulary quiz 5	3
				All unit 12 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 13 topics	2
				Prepare last vocabulary quiz	3
				All semester materials	3

担当者から

Please speak in English as much as you can!

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Christopher Garth
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

In this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

#### 到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。  
(2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。  
(3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

#### 授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Christopher Garth	
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Introduction to the course	Description of activities and grading of the lessons in this course; getting-to-know-you activities	90分	No preparation. 1st lesson	0
第2回	Unit 1	Theme: Personal Space	90	Purchase book for class 2, unit 1	1
第3回	Unit 1	Theme: Personal Space	90	Prepare for vocabulary quiz 1	3
第4回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture	90	All unit 1 materials	2
第5回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture	90	Prepare discussion materials	3
第6回	Unit 3	Theme: Collectivism	90	Unit 1 topics	2
第7回	Unit 3	Theme: Collectivism	90	Prepare for vocabulary quiz 2	3
第8回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks	90	All unit 2 materials	2
第9回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks	90	Prepare discussion materials	3
第10回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan	90	Unit 2 topics	2
第11回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan	90	Prepare for vocabulary quiz 3	3
第12回	Unit 6	Theme: Japanese Tea	90	All unit 3 materials	2
第13回	Unit 6	Theme: Japanese Tea	90	Prepare discussion materials	3
第14回	Unit 7	Theme: Youth Subcultures in Japan	90	Unit 4 topics	2
第15回	Unit 7 - Final class	Theme: Youth Subcultures in Japan	90	Prepare for vocabulary quiz 4	3
		Short presentations	90	All unit 5 materials	2
				Prepare for vocabulary quiz 5	3
				All unit 6 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 6 topics	2
				Prepare for vocabulary quiz 6	3
				All unit 7 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 7 topics	2
				Prepare last vocabulary quiz	3
				All semester materials	3

担当者から

Please speak in English as much as you can!

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Christopher Garth
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

In the continuation to this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

#### 到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。  
(2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。  
(3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

#### 授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	西堀 彰子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

問題解決や意思決定の基盤・技術となるcritical thinkingを活用し、ペアワーク、クラスディスカッション、プレゼンテーション等を通じて英語が使えるよう指導する。スピーキング、ライティングでは自分の考え、意見を明確に表現し、相手に伝わる英語力を養い、リーディング、リスニングでは的確な内容把握、情報収集はもちろんのこと、それに対して自分はどう考えるのが能動的な活動として、深く英語で思考を展開していく能力を養う。

#### 到達目標

- (1) 決められたテーマについて自分の考えをまとめ、筋道を立て、適切な発音とイントネーションの英語で話すことができる。
- (2) 決められたテーマについて自分の考えを明確に、論理的に英語で書くことができる。
- (3) まとまった内容の英文を正確に理解し、内容について自分の意見を英語で表現することができる。
- (4) 語句、文の構造を理解し、それらを慣用表現、定型表現と共に表現活動に使うことができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	30%	到達目標(2)についてライティング課題で評価する (30%)
上記以外	70%	到達目標(1)についてプレゼンテーションで評価する (30%) 到達目標(3)についてディスカッションで評価する (15%) 到達目標(4)について小テストで評価する (25%)

授業を5回以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱う。

#### 授業外学習

毎日、英語で考える、話す、読む、聴く、書くのいずれかの活動を必ず行う。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Think Smart	Michael Hood	金星堂	9784764740433
2				
3				

英和・和英辞書を必ず持参する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文 )						担当教員	西堀 彰子	
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	オリエンテーション Unit 1 Study Abroad	授業の進め方、評価方法等についての説明。 リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。	2 内容を読み未知の語句・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す
第2回	Unit 1 Study Abroad	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す
第3回	Unit 2 Nuclear Power	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す
第4回	Unit 2 Nuclear Power	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す
第5回	Unit 3 Immigration	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す
第6回	Unit 3 Immigration	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す
第7回	Unit 4 The Social Safety Net	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す
第8回	Unit 4 The Social Safety Net	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す
第9回	Unit 5 Global Warming	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す
第10回	Unit 5 Global Warming	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す
第11回	Unit 6 Women in the Workplace	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す
第12回	Unit 6 Women in the Workplace	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す
第13回	Unit 7 School on Saturdays	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す
第14回	Unit 7 School on Saturdays / プレゼン	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 プレゼンテーション。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す
第15回	プレゼンテーション / 総括	スピーキング、リスニング活動。小テスト	2 プレゼンテーションの最終準備、練習 他の学生のプレゼンテーションから

担当者から

Teamsを授業で使用します。必要に応じて授業内で使い方の説明をします。

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	西堀 彰子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

問題解決や意思決定の基盤・技術となるcritical thinkingを活用し、ペアワーク、クラスディスカッション、プレゼンテーション等を通じて英語が使えるよう指導する。スピーキング、ライティングでは自分の考え、意見を明確に表現し、相手に伝わる英語力を養い、リーディング、リスニングでは的確な内容把握、情報収集はもちろんのこと、それに対して自分はどう考えるのが能動的な活動として、深く英語で思考を展開していく能力を養う。

#### 到達目標

- (1) 決められたテーマについて自分の考えをまとめ、筋道を立て、適切な発音とイントネーションの英語で話すことができる。
- (2) 決められたテーマについて自分の考えを明確に、論理的に英語で書くことができる。
- (3) まとまった内容の英文を正確に理解し、内容について自分の意見を英語で表現することができる。
- (4) 語句、文の構造を理解し、それらを慣用表現、定型表現と共に表現活動に使うことができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	30%	到達目標(2)についてライティング課題で評価する (30%)
上記以外	70%	到達目標(1)についてプレゼンテーションで評価する (30%) 到達目標(3)についてディスカッションで評価する (15%) 到達目標(4)について小テストで評価する (25%)

授業を5回以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱う。

#### 授業外学習

毎日、英語で考える、話す、読む、聴く、書くのいずれかの活動を必ず行う。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Think Smart	Michael Hood	金星堂	9784764740433
2				
3				

英和・和英辞書を必ず持参する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

#### 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Group Presentations 25% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.  
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

#### 授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Teacher Supplied Material			
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)					担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習
ナンバリング番号	201ENG203						

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.	90 Mi		
第2回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第3回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第4回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第5回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第6回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi		
第7回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第8回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第9回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第10回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第11回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi		
第12回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第13回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第14回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi		
第15回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi		

担当者から

講義名	英語 B (展開コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

#### 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Group Presentations 25% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.  
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

#### 授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Teacher Supplied Material			
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業計画

回数	テーマ	概要	90 Mi	予習 / 復習
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.	90 Mi	
第2回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第3回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第4回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第5回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第6回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
第7回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第8回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第9回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第10回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第11回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
第12回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第13回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第14回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第15回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
担当者から				

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	近藤 佑樹
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

英語で書かれた短編作品を、続きが読みたくなるような興味深い形で紹介する教科書を用いて、英語をしっかりとインプット（聞く、読む）した上で、レポートや発話練習などのアウトプット（話す、書く）する能力を培えるような授業にしたいと考えております。適宜、短編の本文を読んでもらうこと、あるいは単語テストを受験してもらってもあります。

#### 到達目標

- 1) 文脈を踏まえた上で、英文をインプットする能力の向上  
2) 自分の意見を英語でアウトプットする能力の向上
- 3) 日常生活における英語に触れ、より鋭くキャッチする機会が増えるようになる

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業参加+課題(40%)、単語テスト(30%)、期末レポート(30%)

授業を3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

各回の内容を参照。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Top 30 Essential Short Stories in English: 1843 to 2000.	Jim Knudsen, Hiromi Tsuda, Ria Taketomi	南雲堂	978-4-523-17875
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	近藤 佑樹
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業計画

回数	テーマ	概要	予習/復習
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明	2 教科書に目を通しておく シラバスを再読しておく
第2回	Lesson 1	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 教科書に目を通しておく 学んだ表現・単語を復習しておく
第3回	Lesson 2	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第4回	Lesson 3	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第5回	Lesson 4	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第6回	Lesson 5	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第7回	単語テスト、Lesson 6	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第8回	Lesson 7	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第9回	Lesson 8	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第10回	Lesson 9	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第11回	Lesson 10	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく
第12回	単語テスト、Lesson 11	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2 Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく、
第13回	レポート作成講座	レポート作成のための批評講座を行う	2 選んだ作品の原文を読んでおく レポート作成を進める
第14回	期末レポートQ&A	作成中のレポートを持参し、作業を進める。あれば適宜質問する。	2 レポート作成を進める レポート作成を進める
第15回	レポート提出	レポートを提出した後で、ピア・レビューを行う	2 レポートを完成させておく フィードバックを振り返って、次回

担当者から

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	近藤 佑樹
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

英語で書かれた短編作品を、続きが読みたくなるような興味深い形で紹介する教科書を用いて、英語をしっかりとインプット（聞く、読む）した上で、レポートや発話練習などのアウトプット（話す、書く）する能力を培えるような授業にしたいと考えております。適宜、短編の本文を読んでもらうこと、あるいは単語テストを受験してもらったこともあります。後期はLesson 20からLesson 30を扱います。

#### 到達目標

- 1) 文脈を踏まえた上で、英文をインプットする能力の向上  
の向上
- 2) 自分の意見を英語でアウトプットする能力
- 3) 日常生活における英語に触れ、より鋭くキャッチする機会が増えるようになる

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業参加+課題(40%)、単語テスト(30%)、期末レポート(30%)

授業を3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

各回の内容を参照。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Top 30 Essential Short Stories in English: 1843 to 2000.	Jim Knudsen, Hiromi Tsuda, Ria Taketomi	南雲堂	978-4-523-17875
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	近藤 佑樹
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業計画

回数	テーマ	概要	予習/復習	
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明	2	教科書に目を通しておく シラバスを再読しておく 0. 0.
第2回	Lesson 20	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	教科書に目を通しておく 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第3回	Lesson 21	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第4回	Lesson 22	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第5回	Lesson 23	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第6回	Lesson 24	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第7回	単語テスト、Lesson 25	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第8回	Lesson 26	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第9回	Lesson 27	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第10回	Lesson 28	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第11回	Lesson 29	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく 0. 0.
第12回	単語テスト、Lesson 30	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく、 0. 0.
第13回	レポート作成フィードバック	前期のレポートについての総評を行う	2	選んだ作品の原文を読んでおく レポート作成を進める 0. 0.
第14回	期末レポートQ&A	作成中のレポートを持参し、作業を進める。あれば適宜質問する。	2	レポート作成を進める レポート作成を進める 0. 0.
第15回	レポート提出	レポートを提出した後で、ピア・レビューを行う	2	レポートを完成させておく フィードバックを振り返って、次回 0. 0.

担当者から

講義名	英語 A (展開コース) (人文 )						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

Building on the English skills the students practiced in their first year, this course aims to develop students' reading, writing, speaking, and listening skills in topics beyond their own life and interests. Students should expect to consider their own culture and views while practicing expressing their ideas and opinions as a cultural ambassador would.

The course covers a range of topics, supported by nonfiction readings in areas such as technology, ecology, fashion, and psychology.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities, as well as improving students' abilities to engage in group discussions in English.

#### 到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English, especially in group discussions.
- (2) Improve reading and writing fluency on topics further from students' own lives.
- (3) Better express complex concepts and personal opinions in English.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Vocabulary quizzes (25%); Content quizzes (25%)
レポート課題	20	Speed writings (10%); Written homework assignments (10%)
上記以外	30	Final project (10%); Speed reading log (5%); Participation (15%)

授業を 5 回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3 回の遅刻で 1 回の欠席とみなします。

#### 授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Core Nonfiction Reading 2	Stephanie Alexander & Liana Robinson	Compass Publishing	9781613527412
2				
3				

You will need a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary (paper or electronic).

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文 )						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	201ENG203							

**授業計画**

回数	テーマ	概要	予習 / 復習	
第1回	Introduction Unit 1: Our Earth and	Self-introductions and intro to the class. Pair and group work on the current unit's topic:	1. 5	Complete the supplementary Study the vocabulary list. Take
第2回	Unit 1: Our Earth and Our Buildings	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Prepare for the next unit's Review Unit 1. Take the unit's
第3回	Unit 2: The Ring of Fire	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Complete the supplementary Study the vocabulary list. Take
第4回	Unit 2: The Ring of Fire	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Prepare for the next unit's Review Unit 2. Take the unit's
第5回	Unit 3: Technology in the Classroom	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Complete the supplementary Study the vocabulary list. Take
第6回	Unit 3: Technology in the Classroom	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Prepare for the next unit's Review Unit 3. Take the unit's
第7回	Unit 4: Phobias	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Complete the supplementary Study the vocabulary list. Take
第8回	Unit 4: Phobias	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Prepare for the next unit's Review Unit 4. Take the unit's
第9回	Unit 5: Work, Work, and More Work	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Complete the supplementary Study the vocabulary list. Take
第10回	Unit 5: Work, Work, and More Work	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Prepare for the next unit's Review Unit 5. Take the unit's
第11回	Unit 6: Earth People and Outer Space	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Complete the supplementary Study the vocabulary list. Take
第12回	Unit 6: Earth People and Outer Space	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Prepare for the next unit's Review Unit 6. Take the unit's
第13回	Unit 7: Women's Fashion in the 1800s	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Complete the supplementary Study the vocabulary list. Take
第14回	Unit 7: Women's Fashion in the 1800s	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. 5	Complete the final writing Review Unit 7. Take the unit's
第15回	Review of Unit 1~7	Review activities to prepare for fall semester	1. 5	Complete homework exercises Review the contents of Units 1-

担当者から

In order to learn as much as possible from the course, please make sure to speak English as much as you can!

講義名	英語 B (展開コース) (人文 )						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

This course is intended to continue to develop the skills practiced in the spring semester.

Building on the English skills the students practiced in their first year, this course aims to develop students' reading, writing, speaking, and listening skills in topics beyond their own life and interests. Students should expect to consider their own culture and views while practicing expressing their ideas and opinions as a cultural ambassador would.

The course covers a range of topics, supported by nonfiction readings in areas such as art, ecology, extreme sports, and culture.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities, as well as improving students' abilities to engage in group discussions in English.

#### 到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English, especially in group discussions.
- (2) Improve reading and writing fluency on topics further from students' own lives.
- (3) Better express complex concepts and personal opinions in English.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Vocabulary quizzes (25%); Content quizzes (25%)
レポート課題	20	Speed writings (10%); Written homework assignments (10%)
上記以外	30	Final project (10%); Speed reading log (5%); Participation (15%)

授業を5回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

#### 授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Core Nonfiction Reading 2	Stephanie Alexander & Liana Robinson	Compass Publishing	9781613527412
2				
3				

You will need a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary (paper or electronic).

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文 )						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

Mainly through textbook-based exercises, students will engage in activities such as writing and speaking to improve their ability to communicate in English. They will also review the listening and reading skills they have learned so far. Since the topics in the textbook are potentially controversial, each student will do a brief research on the topic of each unit and practice constructing his or her own opinion in English. A group of students will be asked to give a short presentation on the theme of the unit as well. For weekly homework assignments, students will read a variety of books in very easy English to develop a sense of understanding English as it is.

#### 到達目標

- (1) Students will learn to speak in English using proper pronunciation, intonation, and emphasis.
- (2) Students will learn to write a script for a presentation in English based on their own research and thinking.
- (3) Students will be able to understand English as it is by reading a variety of easy English books appropriate to one's level.
- (4) By practicing reading, listening, speaking, and writing in English, students will be able to put the skills they learn into practice.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Goal (1): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (2): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (3): Evaluated by the activities of extensive reading. (15%)

As a general rule, students who are absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

#### 授業外学習

Work steadily on your weekly assignments.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Burning Issues: Intermediate Level	Cheryl Pavlik, Shizuka Tetsuhito	Shohakusha / Cengage Learning	978-4-88198-694-3
2				
3				

Be sure to bring your English dictionary and textbook with you from the first class.

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	英語 B (展開コース) (人文 )						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

Mainly through textbook-based exercises, students will engage in activities such as writing and speaking to improve their ability to communicate in English. They will also review the listening and reading skills they have learned so far. Since the topics in the textbook are potentially controversial, each student will do a brief research on the topic of each unit and practice constructing his or her own opinion in English. A group of students will be asked to give a short presentation on the theme of the unit as well. For weekly homework assignments, students will read a variety of books in very easy English to develop a sense of understanding English as it is.

#### 到達目標

- (1) Students will learn to speak in English using proper pronunciation, intonation, and emphasis.
- (2) Students will learn to write a script for a presentation in English based on their own research and thinking.
- (3) Students will be able to understand English as it is by reading a variety of easy English books appropriate to one's level.
- (4) By practicing reading, listening, speaking, and writing in English, students will be able to put the skills they learn into practice.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Goal (1): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (2): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (3): Evaluated by the activities of extensive reading. (15%)

As a general rule, students who are absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

#### 授業外学習

Work steadily on your weekly assignments.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Burning Issues: Intermediate Level	Cheryl Pavlik, Shizuka Tetsuhito	Shohakusha / Cengage Learning	978-4-88198-694-3
2				
3				

Be sure to bring your English dictionary and textbook with you from the first class.

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG204							

### 授業計画

回数	テーマ	概要	予習/復習
第1回	Orientation	Introduction to the class English activities based on the textbook	2 Extensive reading; Unit 3 pre- 1
第2回	Unit 3 Internet dating: Is this	English activities based on the textbook	2 Extensive reading; Unit 3 post- 1
第3回	Unit 3 Internet dating: Is this	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2 Extensive reading; Unit 6 pre- 1
第4回	Unit 6 Advertising: We know what you	Presentations on Unit 3 English activities based on the textbook	2 Extensive reading; Post-reading 1
第5回	Unit 6 Advertising: We know what you	English activities based on the textbook	2 Extensive reading; Post-reading 1
第6回	Unit 6 Advertising: We know what you	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2 Extensive reading; Unit 11 pre- 1
第7回	Unit 11 Beauty: Mirror, mirror, on	English activities based on the textbook	2 Extensive reading; Post-reading 1
第8回	Unit 11 Beauty: Mirror, mirror, on	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2 Extensive reading; Unit 12 pre- 1
第9回	Unit 12 Anger: I'm not angry!	Presentations on Unit 11 English activities based on the textbook	2 Extensive reading; Post-reading 1
第10回	Unit 12 Anger: I'm not angry!	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2 Extensive reading; Post-reading 1
第11回	Unit 12 Anger: I'm not angry!	English activities based on the textbook Presentations on Unit 12	2 Extensive reading; Unit 13 pre- 1
第12回	Unit 13 Child Labor: Who made your	English activities based on the textbook	2 Extensive reading; Post-reading 1
第13回	Unit 13 Child Labor: Who made your	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2 Extensive reading; Post-reading 1
第14回	Unit 13 Child Labor: Who made your	Presentations on Unit 13 Summary activities	2 Preparation for the summary 2
第15回	Summary of the semester		2

### 担当者から

We mainly use Teams to communicate and give/submit assignments. If you have any questions about how to use it, please feel free to ask me. My office is A1-111 and email address is sakamoto.ki@office.usp.ac.jp

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

#### 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

#### 到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

#### 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

--

#### 履修資格

--

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

授業計画								
回数	テーマ	概要			予習/復習			
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定			2	1) タッチタイピングの練習		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第2回	図書検索	文献検索の方法			2	1) タッチタイピングの練習		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力			2	1) タッチタイピングの練習		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー			2	1) タッチタイピングの練習		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第5回	情報倫理（1）	インターネットの利用と安全性			2	1) タッチタイピングの練習		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第6回	情報倫理（2）	著作権、研究倫理			2	1) タッチタイピングの練習		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第7回	WORDによる文書作成（1）	基本操作			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第8回	WORDによる文書作成（2）	書式			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第9回	WORDによる文書作成（3）	表			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第10回	WORDによる文書作成（4）	図			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第11回	Excelによる表計算（1）	基本操作			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第12回	Excelによる表計算（2）	書式			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第13回	Excelによる表計算（3）	関数			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第14回	Excelによる表計算（4）	グラフ			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成			2	1) 前回の授業で指示された事前学		2
						1) 指示された課題を完成し、MS-		2
担当者から								

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101INF102							

#### 授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

#### 到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。  
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		定期試験はせず、出席と課題等によって評価します。
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても取得すること。

出席状況と提出課題によって評価します。

#### 授業外学習

図書館の書籍によって、事前に予習復習してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

教科書は毎回、持参してください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布します。

#### 前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

#### 履修資格



講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

#### 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

#### 到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

#### 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

--

#### 履修資格

--





講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101INF102							

#### 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本講では今後高年次において開講される講義や演習で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つ情報処理技術、すなわちワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。  
キーワード：電子メール、情報倫理、知的財産権、著作権、図書検索、Word、Excel

#### 到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	各到達目標に関連する課題を課す。(1)は10%、(2)、(3)はそれぞれ20%、(4)、(5)はそれぞれ25%で評価する。

#### 授業外学習

進度に応じ宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	978-4-407-34833-0
2				
3				

初回講義には入学時に配布された「アカウント情報通知書」を必ず持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	インターネット社会を生きるための情報倫理	情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	978-4-407-33031-1
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)					担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義
ナンバリング番号	1011NF102						

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習
第1回	講義概要説明	講義の進め方および演習室を利用する上での注意事項を説明する。また大学から貸与させるアカウントに関連する設定を行う。	2	入学時に配布されたアカウント情報シラバス、情報処理演習室利用の手引
第2回	図書検索	本学図書館の司書より、図書館を効率よく利用するための検索方法を学ぶ。	2	本学図書館のホームページを確認 本学図書館のマイページの登録作業
第3回	Windowsの基本操作	Windowsの基本操作を確認する。またタイピング速度を向上させるためのタッチタイピングの練習方法について学び、テキストエディタを	2	情報処理演習室利用の手引き p.4 - 4 情報処理演習室利用の手引き p.4 - 4
第4回	電子メールの仕組みとマナー	電子メールの書式および配送方法の概要を説明し、本文を記述する上で考慮しなければならないマナーについて学ぶ。	2	情報処理演習室利用の手引 p. 25 - 4 情報処理演習室利用の手引 p. 25 - 4
第5回	情報倫理	サイバー犯罪に関する意識を深め、遭遇した際にどのような振る舞いを取るべきかについて考える。	2	情報倫理ハンドブックの事前確認 情報倫理ハンドブックの熟読
第6回	知的財産権	主に著作権法について学び、レポートを書く時の引用方法を正しく理解する。	2	情報倫理ハンドブックの事前確認 情報倫理ハンドブックの熟読
第7回	Wordによる文書作成(1)	Wordの基本操作を復習し、各種段落設定のパラメータについて理解を深める。	2	教科書p. 18 - 33 教科書p. 35 実習02
第8回	Wordによる文書作成(2)	Wordによる作表方法に慣れる。	2	教科書p. 36 - 45 教科書p. 47 - 49 実習04、05、06
第9回	Wordによる文書作成(3)	特殊な書式設定および図の挿入方法について確認する。	2	教科書p. 50 - 57 教科書p. 59 実習08
第10回	Wordによる文書作成(4)	数式入力を利用し論文を書くために必要なテクニックを学ぶ。	2	教科書p. 60 - 68 教科書p. 69 - 70 実習09、10
第11回	Excelによる表計算(1)	Excelの基本操作、扱えるデータ型および簡単な数式入力について確認する。	2	教科書p. 88 - 99 教科書p. 100 実習13
第12回	Excelによる表計算(2)	様々なセルの書式設定を確認し、直感的に見やすい表となるような書式設定の練習を行う。	2	教科書p. 102 - 118 教科書p. 120 - 121 実習16、17
第13回	Excelによる表計算(3)	様々な関数およびそれらを組み合わせた数式の記述方法を学ぶ。	2	教科書p. 122 - 143 教科書p. 146 - 147 実習20、21
第14回	Excelによる表計算(4)	与えられたデータからグラフを作成し、Wordに取り込む練習を行う。	2	教科書p. 148 - 155 教科書p. 156, 157, 159 実習22、
第15回	総合問題演習	Excelの知識を応用した問題演習を行う。	2	教科書p. 168 - 173 教科書p. 174 - 175 実習28、29

担当者から

本講義で学んだことを生かし、他の講義・演習・実験のレポートではWordやExcelを適宜活用してください。

講義名	情報科学概論(人文b)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

#### 履修資格

講義名	情報科学概論(人文b)							担当教員	亀田 彰喜		
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義				
ナンバリング番号	101INF101										

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第9回	統計処理の基本	学术论文の概念と統計処理の基本	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第10回	統計データ処理	学术论文の書式と統計データ処理の基本	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第11回	グラフの処理	学术论文の書式と統計処理とグラフの処理	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第12回	回帰分析	学术论文の書式と回帰分析	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第13回	データの検定	学术论文の作成とデータの検定	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ	2	テキストの該当するページを読んで授業後、テキストで確認しておく。2
担当者から				

講義名	情報科学概論(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的な手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

#### 授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

#### 履修資格

講義名	情報科学概論 (人文a)							担当教員	山本 洋紀	
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習			
ナンバリング番号	1011NF101									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式	2	1)教科書の第0章に目を通してお 1)指示された課題を完成し、MS-
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ2乗値 統計検定	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習	2	1)前回の授業で指示された事前学 1)指示された課題を完成し、MS-

担当者から

講義名	情報科学概論(人文c)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的な手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

#### 授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

#### 履修資格



講義名	情報科学概論（人文c）							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式	2	1)教科書の第0章に目を通してお	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ2乗値 統計検定	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	2
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習	2	1)前回の授業で指示された事前学	2
				1)指示された課題を完成し、MS-	

担当者から

講義名	情報科学概論(人文d)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

#### 履修資格

講義名	情報科学概論(人文d)							担当教員	亀田 彰喜	
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	101INF101									

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習/復習				
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ					2	テキストの該当するページを読んで		2	授業後、テキストで確認しておく。
担当者から											

講義名	人間探求学(人間関係)						担当教員	学科教員/松嶋 秀明/上野 有理/ 中村 好孝/丸山 真央/杉浦 由香里/ 原 未来/大野 光明/高梨 克也
講義コード	1150350	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101HUM101							

#### 授業概要

学生自らが人間関係学科での学びを探究し、新しい視点を発想・発見することを支援する。  
対話型の少人数学習の機会も設定し、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援する。

#### 到達目標

自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	リアクションペーパー・小テスト(50%) レジュメ作成・ディスカッションへの参加・レポート(50%)

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストについては、講義中に指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書については、講義中に指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	比較住居論～住まいがたえる世界のくらし～						担当教員	藤木 庸介
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101HUM1761, 33RED121, 135LAH206							

#### 授業概要

世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。

#### 到達目標

- (1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。
- (2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。
- (3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に挙げた(1)(2)(3)の内容を包含した小テストを2回行い評価する。成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。

やむを得ない事由により小テストを欠席する場合には、必ず事前に申し出ること。  
また、当日の急病等によって事前の申し出ができて欠席した場合には、病状に関する診断書を提出すること。  
上記以外により小テストを欠席した者は、単位取得を認めない。

#### 授業外学習

教科書、並びに授業で配布されるプリントを復読することが望ましい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいがたえる世界のくらし	藤木庸介	世界思想社	ISBN978-4-7907-1689-1
2				
3				

教科書は第4回目の授業から使用する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	政治学						担当教員	松本 浩延
講義コード	1201980	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	212PEL301, 235LAH304							

#### 授業概要

本講義の目的は、現代政治学の基礎的知識の修得を通じて、国内外の政治的諸問題について自ら理解し、考察する力を養うことである。本講義を通じて、受講生自らが、政治や社会について考えるときの「手助け」となるような政治学を学ぶ。

以上の目的を達成するにあたり、本講義では、まず、政治の基本概念を取り上げ、過去から現在にかけて政治を位置づけてきた重要キーワードを紹介する。そして、現代の多様な政治現象を分析するために、政治に関わる制度やモデル、事例、争点を学ぶ。日常生活において、市民である私たちと政治が密接に関連していることを理解するために、適宜、時事問題も積極的に取り上げる予定である。

本講義の最終的な目標は、私たちが現代社会を生きていくなかで出会う「政治」を客観的に捉え直し、受講生が市民として主体的な意見を形成できるようにすることである。

本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

#### 到達目標

- (1) 市民として政治を考えるために必要な政治学の基礎的知識を修得できるようになる。
- (2) 現代の政治現象に対する問題意識を持つことができるようになる。
- (3) 学術的な知識をもとに、自らの考えを整理し、論理的に述べることができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70	政治に関連する基礎的な知識を正確に修得できているかを確認する。また提示された問題に対して、修得した知識を用いながら、論理的かつ分かりやすく回答できているものを評価する。
レポート課題		
上記以外	30	毎回コメントペーパーを提出してもらいます。

#### 授業外学習

- (1) 毎回の授業内容について、スライドや自分のノートを用いて復習すること。
- (2) 新聞やニュースに目を通して政治・社会に関する時事問題に関心を持つこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『政治学 補訂版』	久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝	有斐閣	978-4641053779
2				
3				

・各講義テーマに関連した参考書は、講義内で適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	政治学（国際政治を含む）						担当教員	松本 浩延
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	212PEL305, 235LAH305							

#### 授業概要

本講義の目標は、政治学を構成する専門分野「政治外交史」と「国際政治」を主に取り上げることで、政治に対する理解を深めていくことである。現在、我々が日々ニュースなどで耳にする政治に関わる概念や制度の多くは、歴史的に形成されてきた。また、私たちの日常生活は、国内政治のみならず、国際政治の動向から多分に影響を受けている。こうした政治の歴史展開を理解することは、現在の生活をより深く理解することにもつながるのである。

本講義を通じて、政治外交史・国際政治に関する基礎的な知識の修得を目指す。さらに、受講生がグローバルな視点から市民として主体的な意見を形成し、異なる（政治的）意見を理解し尊重できるための知的基盤の形成も目標としている。

本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」「国際関係」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

#### 到達目標

- (1) 政治外交史・国際関係論の基礎的な知識を修得することができる。
- (2) 国際政治の仕組みと争点を学び、グローバルな視点で現代の政治を理解できるようになる。
- (3) 学術的な知識をもとに、自らの考えを整理し、論理的に述べるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	政治外交史・国際政治学に関連する基礎的な知識を正確に修得できているかを確認する。また提示された問題に対して、修得した知識を用いながら、論理的かつ分かりやすく回答できているものを評価する。
レポート課題		
上記以外	30	毎回コメントペーパーを提出してもらいます。

#### 授業外学習

- (1) 毎回の授業内容について、スライドや自分のノートを用いて復習すること。
- (2) 新聞やニュースに目を通して政治・社会に関する時事問題に関心を持つこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『国際政治学をつかむ 新版』	村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将	有斐閣	978-4641177222
2				
3				

・各講義テーマに関連した参考書は、講義内で適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	法学概論（国際法を含む）						担当教員	坂田 雅夫
講義コード	1203110	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	212PEL302, 1371LA202							

#### 授業概要

この授業では法律に関する基本知識を講義します。隣の人が自分の家の壁を壊した。怒って訪問しても、のりくりにして、金を払うどころか、謝りさえしない。訴えてやりたいけど、どうすれば良いのか。ある朝、家にいきなり警察が来て、心当たりがないことで、逮捕された、自分はどくなってしまうのか。こういった、本当は余り身近に来てほしくないけど、運が悪ければいつかやってくる厄介ごと。皆さんが思い浮かべる法律とは、こうした問題にからむものばかりでしょう。もちろん、こういう問題もこの授業では取り上げます。それ以外にも法律は、皆さんの日常生活にいろいろと深く結びついています。ニュース、街角、そして日常生活でみるいろいろな問題や単語が法律と結びついているのか理解してもらえるのがこの授業の目標です。

又、この授業では国際法についても講義します。国際問題が我々の生活や社会にどのように関係するのか、取り上げていきます。

#### 到達目標

- (1) ニュースで出てくる法律関係の用語を理解できるようになる。
- (2) 公務員試験の法律・政治学関係の問題に対する勉強を始めるに当たって、その前提となる基礎的知識を習得する
- (3) 上述の諸知識の繋がりを適切な文章により説明できる

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

初回講義時に指示

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	判例法学	西村健一郎・他	有斐閣	9784641184046
2				
3				

授業で取り上げる判例などが要領よく纏まっていて良い本なのだが、いかんせん古くなってきています。より新しい判例は、授業時に補足していき

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	カウンセリング論						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400305	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

心理カウンセリングに訪れる方(クライアント)の生きづらさを理解し、生活の細部を想像し、支えていくための諸技法、知識を学ぶ。具体的には、カウンセリングや心理療法の理論や技法について知るとともに、ロールプレイや事例研究などを通して実践できる力をやしなう。

#### 到達目標

クライアントが生きづらいとはどういうことなのか想像し、それを支えるとはどういうことか体験的に理解する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	プログラム全体の学習内容をふまえて、最後におこなうロールプレイを中心に、自身のカウンセリング体験についてふりかえり、考察をふかめたうえでレポートにまとめる
上記以外	70	それぞれの回でのワークへの参加と、そのレフレクション、最後のロールプレイ演習への参加。

#### 授業外学習

授業時間は受講生間の対話や、ワークをおこなう。対話やワークのための準備は、授業時間外に予習しておく必要がある。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

臨床心理学を受講した(あるいは、近いうちにする予定である)ことが望ましい。

#### 履修資格

講義名	カウンセリング論						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400305	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習/復習			
第1回	カウンセリング概論	(心理) カウンセリングとは何かについて学ぶ。	2	「カウンセリング」のイメージにつ 授業内容をふまえてカウンセリング	1	3	
第2回	相談を疑似体験する	エクササイズ、Tree of Lifeのエクササイズを通して自らが相談において話すという体験について考える	2	カウンセリングでの会話についてイ 授業内容をふまえてカウンセリング	1	3	
第3回	理論を知るー初回面接、不安障害	初回面接、不安障害についての文献をジグソー学習し、相互教授によって理解をふかめる	2	入門書を読んで深めて考える 授業内容をふまえて仮想事例につい	1	3	
第4回	理論をまとめる	2 - 3回目の内容をふまえ、仮想事例についてどのように返答するのかを学ぶ	2	仮想事例についての返答方法につい 授業内容をふまえて、自分の返答の	1	3	
第5回	ノンバーバルなコミュニケーションを観察す	マイクロカウンセリングの実際を、教育用DVDでのロールプレイを視聴し、とくにノンバーバルコミュニケーションについてディスカッ	2	マイクロカウンセリングの資料に目 授業内容をふまえてマイクロカウ	1	3	
第6回	共感的理解をすすめる	マイクロカウンセリングの実際を、DVDを視聴しつつ、カウンセリングの基礎技術である質問、傾聴についてワークを通して学ぶ	2	マイクロカウンセリングの資料に目 授業内容をふまえてマイクロカウ	1	3	
第7回	共感的理解を伝える	カウンセリングの基礎技術である共感を伝えることについてワークを通して学ぶ	2	傾聴に関する資料に目を通す 授業内容をふまえて、傾聴技法につ	1	3	
第8回	リフレクティング・プロセスをやってみよう	実際の悩み事例を題材として、リフレクティングプロセスを体験する。	2	リフレクティングプロセスについて 授業内容をふまえてリフレクティン	1	3	
第9回	台本読みのワーク(1)	仮想事例をもとに、どのようなことが問題となり、どのように対処すればよいのか計画をたてる。マスターセラピストのロールプレイの文	2	台本を読んでくる 授業内容をふまえて台本をさらに深め	1	3	
第10回	台本読みのワーク(2)	マスターセラピストのロールプレイの模様の文字起こし資料をよみ、それを実際に台本として演じてみることで、マスターセラピストの体	2	台本を読んでくる 授業内容をふまえて台本の読み方に	1	3	
第11回	ロールプレイの設定、練習	実際の相談事例について、よりリアルな設定をつくるためにカウンセラー役、来談者役にわかれて役作りをし、実際に練習してみる	2	これまでの授業内容についてふりが ロールプレイの設定について考える	1	3	
第12回	ロールプレイ実習ーカウンセラー	今回と次回とは、ロールプレイの本番をおこなって、来談者、カウンセラーの体験について知る。	2	ロールプレイの設定について考えて 授業内容をふまえてロールプレイの	1	3	
第13回	ロールプレイ実習ー来談者	前回と次回とは、ロールプレイの本番をおこなって、来談者、カウンセラーの体験について知る。	2	ロールプレイのやり方を考えてくる 授業内容をふまえてロールプレイの	1	3	
第14回	ロールプレイのリフレクション	過去2回おこなってきたロールプレイ実習の模様を録音、録画資料をとおしてふりかえりながら、自分たちのやってきたことについて考え	2	これまでのロールプレイの録音録画 授業内容をふまえて自らのロールプ	1	3	
第15回	まとめ	これまでの学習内容についてふりかえり、カウンセリングについて学びを深める	2	自らのロールプレイを全体のなかに 自らのロールプレイにおける心の動	1	3	
担当者から							

講義名	環琵琶湖文化論実習（人間関係）						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 / 高梨 克也 /
講義コード	1400330	単位数	2	開講期	通年	授業方法	実	
ナンバリング番号	135LAH120							

#### 授業概要

滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。テーマ別に班編成をし、調査を実施し、報告書の作成をおこなう。

#### 到達目標

文献調査、現地調査、聞き取り調査を体験し、文献収集とフィールドワークの基本を身につける。  
地域の歴史、文化、生活に対し、興味・関心を持つようになる。  
個人だけでなく、グループによる調査を行う能力を身につける。  
調査結果を発表し、報告書にまとめる能力を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表および各教員によって指示された提出レポート、最終報告書の内容を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	教育学概論						担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	204TEA101, 235EDU202							

#### 授業概要

本講義では、教育学の基本的概念を学ぶとともに、教育の理念や思想の歴史的展開をふまえながら、教育の本質と今日的課題について検討していく。また、近代教育制度が成立・発展してきた背景を理解し、現代学校の諸課題について考察するための歴史的視座を獲得する。

#### 到達目標

- (1) 教育学の基本原則(理念、歴史、思想を含む)および教育と学習の具体的な現実を往還することで、教育に関わる現代的課題を理解することができる。  
(2) レポート作成を通じ、読み手を意識した論理的な文章を書くことができる。  
(3) 「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート(50%)
上記以外	50	感想および授業中の作業課題の提出や議論への参加(50%)

感想および授業中の作業課題や議論への参加、最終レポートの結果をもとに総合的に判断する。  
3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

授業で扱った内容や参考文献をもとに、教育学の基本原則についての学習を深めること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教師をめざす学びのハンドブック	木村裕・篠原岳司・杉浦由香里・原未来・福井雅英	かがわ出版	9784780310214
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

#### 前提学力等

日本ならびに西洋の近現代史に関する基礎的知識を有すること。  
とくに、ヨーロッパ史について高校の履修範囲を復習しておくことが望ましい。

#### 履修資格

講義名	教育学概論						担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	204TEA101,235EDU202							

授業計画								
回数	テーマ	概要				予習 / 復習		
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション				2	レポート課題に向けて、自身の興味	20
第2回	人間とは何か	人類の進化と成長の神秘				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第3回	新生児の能力	子どもの発達と初期環境				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第4回	教育とは何か	発達と教育				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第5回	歴史のなかの子ども・家族	近代家族の誕生				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第6回	子どもの発見	子ども観の歴史的変遷				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第7回	学校の起源	近代公教育制度の成立				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第8回	学校の機能	学校の社会的機能と役割				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第9回	日本における学びの風景	江戸の子育てと寺子屋・藩校				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第10回	天皇制国家と教育	近代学校制度の始まりと教育勅語の精神				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第11回	新教育の思想	新教育運動における理念と実践				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第12回	戦争と教育	戦時下の教育				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第13回	戦後教育改革と新しい教育理念	日本国憲法 = 教育基本法体制と権利としての教育				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第14回	教育の現代的課題	学校のかくれたカリキュラム				2	配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第15回	まとめ	まとめ				2	最終レポートを完成させ、提出す	10
担当者から								

講義名	教育観察実習						担当教員	杉浦 由香里 / 原 未来 / 未定 *
講義コード	1400520	単位数	2	開講期	前期実習	授業方法	演	
ナンバリング番号	235EDU320							

#### 授業概要

学校や社会教育施設など教育的営みにかかわる現地学習を行い、直接観察することにより、教育のあり方を学習する。  
 なお、新型コロナウイルス感染症の影響で現地学習を行うことが困難な場合は、オンラインインタビュー等の実施に切り替える可能性がある。  
 また、受講生の関心や実習先の都合に応じて、授業計画の順序等は変更になる可能性がある。

#### 到達目標

学校教育・社会教育などの教育現場の実態を把握し、その実践の意義や課題について考察することができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	見学後のレポート (40%)
上記以外	60	見学への参加 (20%)、事前事後学習 (40%)

上記を、総合的に評価する。ただし、見学への参加は必須とする。

#### 授業外学習

見学に向けた予備的学習およびレポート作成に向けた追加の学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	教育心理学						担当教員	大谷 宗啓
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	304TEA201,335PSY310							

#### 授業概要

この授業では、学習とは何か、それはどういう心の働きなのかを、まず基礎理論から始め、様々な学習のタイプや現象について概観します。それにより、学習に対する適切で深い理解を持っていただくことが目的です。学習の基本的な過程を学び、皆さん自身の経験にひきつけて理解した上で、幼児・児童・生徒の学習を支援していく考え方を身につけていただくことを期待しています。

#### 到達目標

- 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解すること。
  - 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解すること。
  - 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解すること。
- 特に、次の事項について適切に理解し、説明できるようになること。
- a. 学習の定義
  - b. 学習の理論
  - c. 随伴性認知
  - d. 動機づけ

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解すること。 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解すること。 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解すること。
レポート課題	0	
上記以外	50	1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解すること。 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解すること。 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解すること。

他の受講者の学習の妨げとなる行為は厳禁です。注意に従わない場合は受講資格を停止し、単位も認定しません。

#### 授業外学習

授業を入り口として理解を深めてください。大学図書館の活用を推奨します。  
授業内で完結するのではなく、身近な人々(ご友人やご家族等)と授業内容について話す機会を積極的に作ってください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書購入の必要はありません。授業中にプリントを配布します。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教育心理学1：発達と学習 第2版	渡部雅之・豊田弘司	サイエンス社	978-4-7819-1456-5
2				
3				

予習・復習に活用できる書籍を「参考書」欄に挙げました。その他、授業進行および皆さんの関心に合わせて適宜、参考文献を紹介します。

#### 前提学力等

シラバスおよび第1段階ルーブリックをよく読んだ上で受講してください。

#### 履修資格



講義名	教育制度論						担当教員	渡辺 雅幸
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	304TEA202, 335EDU304							

#### 授業概要

本講義では、現代日本における教育制度の基本原則や法構造を歴史的展開や具体例を踏まえて明らかにし、21世紀における教育制度の将来像を検討していく。講義では、教育制度の基本理念や制度を形作る基本原則、教育制度と実践の相克に関する事例や論点を取り上げていく。

#### 到達目標

- (1) 現代日本の教育制度の基本原則、歴史的展開、法構造を理解している。
- (2) 教育制度をめぐる論点を理解し、根拠を持って意見を述べられる。
- (3) 「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	最終レポート
上記以外	30	感想および授業中の作業課題

感想および授業中の作業課題と小テスト、最終レポートの結果をもとに総合的に判断する。3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

授業の予習として必ず事前に教科書の該当箇所を読んでくること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	【新版】未来を創る教育制度論	川口洋誉・中山弘之編著	北樹出版	9784779306204
2				
3				

テキストを必ず入手し、第2回の授業から持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教師をめざす学びのハンドブック	木村裕・篠原岳司・杉浦由香里・原未来・福井雅英	かがわ出版	9784780310214
2				
3				

#### 前提学力等

教職論、教育学概論を履修していることが望ましい。

#### 履修資格



講義名	教育制度論							担当教員	渡辺 雅幸		
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義				
ナンバリング番号	304TEA202, 335EDU304										

## 授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション	2		
第2回	教育制度を学ぶ意味	公教育の原理	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第3回	教育法のしくみ	教育法規の体系	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第4回	日本国憲法と教育基本法	日本国憲法・教育基本法の成立	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第5回	教育の目的と目標	新教育基本法と教育目標	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第6回	教育内容の制度	教育内容に関する制度	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第7回	子どもの権利	子どもの権利条約	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第8回	学校の制度	学校制度と義務教育	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第9回	学校の制度	教育機会確保法について考える	2	マイクロディベートに向けた課題に	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第10回	学校の制度	地域に開かれた学校	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第11回	教育の機会均等	子どもの貧困、奨学金問題	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第12回	教職員の制度	教職の専門性と学校組織	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第13回	学校安全・学校事故	事件事例から学校安全について考える	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第14回	教育行政の制度	教育委員会制度	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2
第15回	まとめ	ふりかえりとまとめ	2	教科書の該当範囲を事前に通読する	2
				配布資料や参考文献をもとに授業内	2

担当者から

講義名	教育方法論						担当教員	本宮 裕示郎
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	204TEA102, 235EDU301							

#### 授業概要

学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具（情報通信機器を含む）の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

#### 到達目標

- (1) 教育方法の理論と実践について知識を広げ、理解を深めることで、さまざまな優れた教育方法・技術の特徴を分析し、説明できるようになる。
- (2) 自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得する。
- (3) 自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	まとめのレポート
上記以外	60	講義中のワークシートなど

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、プリント等を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	教育方法論						担当教員	本宮 裕示郎
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	204TEA102, 235EDU301							

#### 授業計画

回数	テーマ	概要	予習/復習
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行うとともに、「めざす授業」「めざす教育活動」に対する一人ひとりのイメージを共有する機会を提供する。	2
第2回	学習指導案の目的とその概要	学習指導案の目的と、学習指導案を構成する要素について講義する。	2
第3回	授業の構成要素	授業を構成する要素について講義する。	2
第4回	「学力」と教育目標	「学力」をめぐる議論や教育目標設定の論理などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供	2
第5回	教育目標と教材・教具	教育目標と関連づけた教材のあり方やその重要性について講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供	2
第6回	教材研究	教材研究の目的や意義、具体的な方法について講義するとともに、実際に教材研究を体験する機会を提供する。	2
第7回	学習形態	遠隔・オンライン教育を含む、さまざまな学習形態の特徴について講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機	2
第8回	指導技術	板書や指導言など、教師が授業を行なう際に必要とされるさまざまな技術の特徴について講義するとともに、それについての一人ひとりの	2
第9回	教育評価	教育評価の目的や機能、近年の議論などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。	2
第10回	学習指導案の作成	学習指導案の作成方法の概要を説明するとともに、これまでの講義内容をふまえて学習指導案を作成する機会を提供する。	2
第11回	授業研究の進め方とその意義	授業研究の進め方とその意義について講義する。	2
第12回	実践記録	実践記録の目的や意義について講義するとともに、実践記録を読み、気づいたことを共有する機会を提供する。	2
第13回	教育方法の現代的課題	「令和の日本型教育」として求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の特徴について講義するとともに、それについての一人ひ	2
第14回	学習指導案の検討	各自が作成した学習指導案を持ち寄り、検討し合うことで、お互いの学習指導案をより良いものにしていくための機会を提供する。	2
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。	2

担当者から

講義名	形成論演習						担当教員	杉浦 由香里 / 原 未来 / 未定 *
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演	
ナンバリング番号	235EDU220							

#### 授業概要

教育学に関わる問題群の中から関心のあるテーマを選び、各自の問題意識をまとめ、参考書や自分で選んだ資料を用いて発表を行うとともに、発表内容に関して他者と議論を行い、互いの考えを深める機会を提供することを目的とする（そのため、演習の内容および進め方については、受講人数や受講生の興味・関心に応じて変更する可能性があることを了承されたい）。

#### 到達目標

- (1) 教育学に関わるテーマについて視野を広げるとともに、さまざまな参考書や資料の検討なども行い、自身の考えを深めること。
- (2) 他者と議論を行い、互いの考えを深めるとともに、それを論理的かつ説得的に言葉で説明できるようになること。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	最終レポート (30%)
上記以外	70	発表・ふりかえり資料の作成と発表 (40%)、演習への参加・事前事後コメント用紙の記入と提出など (30%)

上記を総合的に評価する。  
原則として、「3分の2以上の出席」「発表（「ふりかえり」も含む）」「最終レポートの提出」を単位認定の最低条件とする。

#### 授業外学習

必ずテキストを事前に読み、その内容に関する意見や疑問などを準備したうえで、毎回の授業に臨むこと。具体的な方法などについては、授業中に適宜指示する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	シリーズ 大学生の学びをつくる 半径5メートルからの教育社会学	片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和 編	大月書店	9784272412389
2				
3				

テキストを必ず入手すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	形成論演習						担当教員	杉浦 由香里 / 原 未来 / 未定 *	
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演		
ナンバリング番号	235EDU220								

授業計画										
回数	テーマ	概要					予習 / 復習			
第1回	オリエンテーション	演習全体の概要の説明を行う。					3			
第2回	発表資料の作成方法と発表方法	発表資料の作成方法と発表方法についての説明を行う。					3	グループで相談して、発表準備にと		
第3回	グループ作業	発表準備を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめてグループで発表準備を行い、発表資		
第4回	グループ発表	「学力の獲得は平等なのか」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第5回	グループ発表	「高等教育への進学とジェンダー」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第6回	グループ発表	「高学歴社会における教育機会と費用負担」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第7回	グループ発表	「学校に「行っていない」子どもたち」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第8回	グループ発表	「貧困世帯の子どもたち」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第9回	グループ発表	「学校の外で学ぶ子どもたち」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第10回	グループ発表	「「英語は全員が学ぶもの」という自明性を疑う」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第11回	グループ発表	「部活動は学校において合理的な活動か」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第12回	グループ発表	「子どもの安全・安心を脅かす「教育」」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第13回	グループ発表	「教育から職業への移行と就職活動」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	教科書を読み、質問内容をまとめて発表者はふりかえり資料を作成す		
第14回	グループ発表	「「いじめ」問題がつくる視覚と死角」に関して、発表ならびに議論を行う。					3	発表者はふりかえり資料を作成す		
第15回	後期オリエンテーション	前期のまとめと後期のオリエンテーションを行う。					3	グループで相談し、発表準備にとり		
第16回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第17回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第18回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第19回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第20回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第21回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第22回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第23回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第24回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第25回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第26回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第27回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。					3	発表者は発表資料を作成する。発表者はふりかえり資料を作成す		
第28回	レポート検討会の準備	レポートの草稿を持ち寄り、互いのレポートを検討するための準備を行う。					3	レポート草稿を作成する。		
第29回	レポート検討会	レポートの草稿を持ち寄り、検討会を行う。					3	グループのレポート草稿を読む。自分のレポートを改稿する。		
第30回	まとめ	演習全体のふりかえりとまとめを行う。					3	自分のレポートを完成させる。		
担当者から										

講義名	現代ジャーナリズム論						担当教員	
講義コード	1400650	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C303							

#### 授業概要

ネットの進化はメディア社会を大きく変え、現代ジャーナリズムに構造的な変革を迫っている。近代市民社会の形成とともに生まれ、育ってきたジャーナリズム。いま「百年に一度」ともいわれる変化の時代。誰もが簡単にいろいろな情報にアクセスできるだけでなく、発信者にもなることができる。そして、この個人の発信情報は瞬間に世界中を駆けめぐり、新聞であれ、テレビであれ、既存の伝統メディアにとっては、伝えるべき情報を発掘し、取材し、編集するという、まさにその存在意義があらためて社会的にも歴史的にも問われている。

そんな新たな「ネット時代」の中で、ジャーナリズムとは何か。なんのために存在するのか。そこには、どんな問題が生じているのか。ジャーナリストはどのような職業で、その本分とはいかなるものか。その役割・機能と責任は変わるのか、変わらないのか。

本講義では、主として既存メディアの軸である新聞とテレビ放送を中心に、日本におけるジャーナリズム、ジャーナリストの現状と課題について、現実、倫理、歴史、理論の領域から考察する。その際、一般にあまりよく知られていない報道・編集の仕組みや情報収集の最前線である取材現場の実像を紹介し、国内外で日々生起するニュースと関連させ、自らの記者体験なども織り交ぜながら進める。

現代は反知性主義の時代ともいわれる。ネットという新たな言論空間において、ジャーナリズム、ジャーナリストのあり方、生き方はどうあるべきか。「ジャーナリズムを生きる」をテーマに倫理面からも追究する。言論・表現の自由、国民の「知る権利」が、なにゆえに重要は意味を持っているのかも合わせて考えたい。

#### 到達目標

- (1) 時々刻々推移する国内外の「できごと」への関心、感性を高める。
- (2) 新聞を読む習慣とメディア・リテラシー（読み解く力）を身につける。
- (3) 情報の収集、発信、分析、評価における「倫理」の重みを知る。
- (4) ジャーナリズムの思想と行動をきちんとつかむ。
- (5) 「民主主義と言論の自由」という普遍的価値への理解を深める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

期末レポートとレスポンスペーパーで総合的に判断する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジャーナリズムの思想	原 寿雄	岩波書店	ISBN4-00-430494-6
2	ジャーナリズムの可能性	原 寿雄	岩波書店	ISBN978-4-00-431170-6
3	現代メディア史	佐藤 卓己	岩波書店	ISBN4-00-026015-4

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	現代社会福祉論						担当教員	中村 好孝
講義コード	1400670	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C307-C							

#### 授業概要

本講義は、障害、貧困、居住、虐待など、福祉についての個別のトピックと、福祉の社会的な仕組みについて考察する。本講義が特にとりあげるのは、お金がなかったり身体が動かなかったり住む場所がなかったりする人も大変だということであり、そういった人の役に立つ制度も大切だということである。

#### 到達目標

(1)そもそも現代社会の福祉にはどのような対象があるのか、そしてどのような活動が行なわれてきたのか、行なわれているのか、これらについて知る。(2)それらをとりにく社会的条件を知る。(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(30%)。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジユメを配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	国際社会論						担当教員	
講義コード	1400685	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	3371LA309							

#### 授業概要

20世紀後半以降、これまでの国民国家を基本単位とする世界のありようが大きく変わってきました。この変動はグローバル化と呼ばれるものですが、グローバル化はテレビやスマホのなかの話ではなく、私たちの日常生活にも深く影響を及ぼしているものです。たとえば、BTSに夢中になる人たち、リヴァプールやバルセロナのサッカーに魅了されるサポーター、排外主義者のデモ、着ているジーンズやジャケット、温暖化の深刻化や異常気象、バイト先の外国人の同僚、今朝飲んだコーヒー、SNSでのコミュニケーション、そしていま私たちにとって深刻な脅威となっているCOVID-19。これらすべてがグローバル化の現象といえるものです。

この講義では、グローバル化する世界の変化を歴史的に学び考えていきます。具体的には、グローバル化が進行するなかで、どのような現象や問題が起こっているのかを理解し、グローバル化する世界と日本社会を的確に認識するための社会(科)学の理論や概念を身につけることを目標とします。みなさんの暮らしのなかにある出来事を素材に、考えていくことで、日常をとらえかす作業をしていきましょう。

#### 到達目標

- (1) グローバル化の歴史的な展開を理解する。
- (2) グローバル化に関する社会(科)学の諸理論、概念、問題設定を理解する。
- (3) 現代世界で起きている諸現象や問題、実践について、自らの暮らしや経験にひきつけて、国際社会論の視点から分析し、論理的に考察できるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

講義中に学んだことを、キャンパス内での知識にとどめず、現在進行形のさまざまな社会問題や自らの暮らしや生き方にひきつけて、日々考えてほしいと思います。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメと資料を配布します。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国境の越え方	西川長夫	平凡社	978-4582763805
2	魂の労働 ネオリベラリズムの権力論	渋谷望	青土社	978-4791760688
3	グローバリゼーションと植民地主義	西川長夫・高橋秀寿	人文書院	978-4409240816

参考書や参考となる映像資料等については、随時紹介します。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	現場心理学						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400710	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY308							

#### 授業概要

私たちの日常生活における「当たり前」を問い直し、批判的な視点から日常をとらえなおす力を養うことを狙いとする。具体的には「司法」と「臨床」が交わる現場、すなわち犯罪・非行、児童虐待、いじめといった問題を取りあげる。司法と臨床は、同じ現場を共有しているようでありながら、そのアプローチ方法はそれぞれ異なっており、両者をつきあわせてみることで、ともすると人々が「当たり前」だと思っていたことを問い直すきっかけになる。本講義では、いくつかの立場からの研究例を示しつつ解説しつつ、どのような問題があるのかを考える。授業では一方向的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッション、種々のワークを取り入れる。積極的な参加を期待する。

#### 到達目標

司法臨床場面をあつかった心理諸科学における基礎的用語を理解し、用いることができる。  
司法臨床的な問題解決についての自分なりの方針をたてることができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	毎回の授業中のディスカッションへの参加と、授業後のformsへの記入(30%)、リーディング課題への取り組み(20%)、最終レポートの提出(50%)

#### 授業外学習

1) 毎回の授業にはリーディング課題を指定しています(1回目の授業で配布)。授業時間外でリーディング課題にあたって関心を深めてもらうことを期待します。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

#### 履修資格

講義名	現場心理学						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400710	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY308							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	イントロダクション	これからの授業展開、とりくむ課題について説明しつつ、非行少年の現状について統計にもとづいて学ぶ	2	少年非行に関する自らのイメージに授業内容をふまえ、リーディングリ
第2回	自白の心理学	なぜやってもいけない罪を自白するのか。冤罪を防ぐための取り組みの実際について紹介する	2	自白、冤罪について時事問題などが授業内容をふまえ、リーディングリ
第3回	目撃証言の心理学	犯罪捜査場面で用いられる心理学的知見、とりわけ、司法面接について紹介する	2	司法面接のNICDHプロトコルの資料が授業内容をふまえ、リーディングリ
第4回	少年非行の処遇プロセスと、裁判員ゲーム	非行少年とは少年法などではどのような存在として規定されているのか、どのように処遇されていくのかをたどる	2	非行少年の定義について調べておく授業内容をふまえ、リーディングリ
第5回	裁判員制度と少年非行	仮想事例について考えていくことで、裁判員をつとめるうえで、実効性のあるコミュニケーションをとっていくうえで重要な視点・知識に	2	裁判員制度について調べておく授業内容をふまえ、リーディングリ
第6回	虐待と非行	非行に密接な影響を与えるもののひとつである虐待について述べる	2	非行少年と虐待との関連がどの程度授業内容をふまえ、リーディングリ
第7回	虐待が人の心身にもたらす影響	非行にかかわらず、虐待をもっていることがいかにその人の人生に生きづらさをもたらすのかを紹介する	2	虐待をうけることで心身にうける影授業内容をふまえ、リーディングリ
第8回	非行少年の家族支援（子どもの安全のサイ	少年非行の原因と考えられがちな家族への支援のあり方、虐待のあった家族の再統合への道について考える	2	虐待被害にあった子どもが、親と一授業内容をふまえ、リーディングリ
第9回	非行少年と発達（生活）障害	非行少年事例のなかに少なからずあって、処遇を困難にする要因とされる発達障害について概説する		発達障害がかかわったとされる時事授業内容をふまえ、リーディングリ
第10回	非行少年への施設処遇	児童自立支援施設でのとりくみと少年院でのとりくみについてDVDを視聴し、比較しながらとりあげる	2	児童自立支援施設、少年院といった授業内容をふまえ、リーディングリ
第11回	非行少年と心理的支援	非行少年の更生をねらった処遇におけるSSTや内省作業といったものについて、DVDを視聴することを通して体験的に学ぶ	2	非行少年の心理学的な課題とはどの授業内容をふまえ、リーディングリ
第12回	非行少年への心理的アプローチ	非行少年の共感性、あるいは規範意識、罪悪感のなさといったところでの特徴について知り、非行少年の心理学的見方を紹介する	2	非行少年の心理学的な課題とはなに授業内容をふまえ、リーディングリ
第13回	学校教育における非行-いじめ	学校教育場面のなかでしばしば問題にされるいじめの問題についてとりあげる	2	いじめについて、身近な例や事件報授業内容をふまえ、リーディングリ
第14回	学校教育における非行-暴力、警察連携	学校教育場面における、生徒と教師、生徒同士からなる暴問題と、警察との連携の実際について知る	2	荒れる学校、警察のイメージについて授業内容をふまえ、リーディングリ
第15回	まとめ	過去の内容をふまえ、仮想事例について作成し、それを処遇の観点から語り直す	2	これまでの授業レジュメなどを見返授業内容をふまえ、リーディングリ
担当者から				

講義名	行動論演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 高梨 克也 / 谷口 友梨
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号	235PSY221							

#### 授業概要

行動科学や社会科学における問いのたて方や研究方法の実際について学ぶ。身近な生活や地域での人々のかかわりに素材を得て研究テーマを設定するところから、グループ演習を中心に授業を実施する。

#### 到達目標

質問紙法、観察法、実験法、インタビュー法など、心理学研究をおこなっていくうえでの基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	授業中の発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	行動論演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 高梨 克也 / 谷口 友梨	
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習		
ナンバリング番号	235PSY221								

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	心理学研究法の概要	実証的研究のタイプと長所・短所に関する理論的事項の説明				2	講義資料の内容を次回授業までに再			
第2回	観察法	オリエンテーション				2	講義資料の内容を次回授業までに再			
第3回	観察法	生起の有無と度数～事象記録法と部分インターバル法の比較～				2	講義資料の内容を次回授業までに再			
第4回	観察法	瞬間の行動と瞬間の観察～瞬間時間見本法と事象記録法の比較～				2	講義資料の内容を次回授業までに再			
第5回	観察法	行動の回数と長さ～連続記録法での比較～				2	講義資料の内容を次回授業までに再			
第6回	観察法	行動の時系列を捉える				2	講義資料の内容を次回授業までに再			
第7回	観察法	行動の種類を分類する				2	講義資料の内容を次回授業までに再			
第8回	観察法	フィールドで問いを見つける				2	第2～8回の講義資料の内容を再度復			
第9回	実験法 1	要因計画法による実験の実施 ( 1 )				2	実験内容を振り返り、内省する。			
第10回	実験法 2	要因計画法による実験データの分析 ( 1 )				2	講義内容を振り返り、要点とその理			
第11回	実験法 3	要因計画法による実験の実施 ( 2 )				2	実験内容を振り返り、内省する。			
第12回	実験法 4	要因計画法による実験データの分析 ( 2 )				2	講義内容を振り返り、要点とその理			
第13回	実験法 5	要因計画法による実験デザインの考え方				2	講義内容を振り返り、実験の立案・			
第14回	実験法 6	実験レポートの書き方				2	講義内容を振り返り、実験レポート			
第15回	実験法 7	実験計画の実践：立案から実験の実施、データのまとめまで				2	実験データの分析とレポート作成を			
第16回	インタビュー法 1	インタビューの特徴について知る				2	インタビューについて、テレビや			
第17回	インタビュー法 2	インタビューデータのコーディング				2	インタビュー分析についてのテキス			
第18回	インタビュー法 3	コーディングからカテゴリー化へ				2	街録チャンネル「乙武洋匡」を視聴			
第19回	インタビュー法 4	カテゴリー化から概念作成				2	インタビューデータのコーディン			
第20回	インタビュー法 5	モデル作成、ストーリーライン				2	インタビューデータのカテゴリー化			
第21回	インタビュー法 6	他のインタビュー分析法について				2	インタビューデータのモデル化、ス			
第22回	インタビュー法 7	インタビュー分析をレポートにまとめる				2	モデル化、ストーリーラインについ			
第23回	質問紙法 1	質問紙法と心理尺度の特徴を知る				2	身の回りにあるアンケートを探して			
第24回	質問紙法 2	質問紙の作成の仕方を学び、作成する。				2	心理尺度集に載っている心理尺度を			
第25回	質問紙法 3	信頼性・妥当性について分析する。				2	指定された事象を捉えることができ			
第26回	質問紙法 4	心理尺度を作成する				2	授業での議論を基に、質問項目につ			
第27回	質問紙法 5	仮説を検証する				2	信頼性・妥当性について参考書など			
第28回	質問紙法 6	変数間の関連について分析する				2	自分たちの作成した尺度の信頼性・			
第29回	質問紙法 7	分析結果を報告する				2	因子分析について参考書などで調べ			
第30回	応用	これまで学んだ種々の研究法をふまえて、実際の研究例を検討する				2	自分たちの作成した尺度の因子構造			
担当者から										
授業実施計画の順番は変更する可能性がある。 原則として人間関係学科の学生の履修とする。他学部、他学科生については、履修前に担当教員に相談のこと。										

講義名	高齢者行動論						担当教員	城 綾実
講義コード	1400860	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講	
ナンバリング番号	335PSY309							

#### 授業概要

日本はすでに65歳以上の人口が総人口の29%を超えている超高齢社会に突入している。高齢になるにつれて、人はどのような身体的・認知的・心理的变化をしていくのか。また、日本はOECD加盟国の中でもっとも高齢者や認知症患者の割合が最も高いと報告されている。認知高齢者の方は、どのような症状を有しているのか。加えて、さまざまな問題を抱える高齢者を介護する側への支援にはどのようなものがあるのか。この授業では、こうした疑問に応じる先行研究や様々な知見を紹介し説明する。学生主体の体験学習やグループワークなども実施することで、私たちもまたいずれは老いる身であることを自覚しながら、私たちが高齢者とのやりとりでどのようなことを心がけ、行動するのが望ましいのかについて考え言語化する機会を提供する。

#### 到達目標

- (1) 高齢者について、社会、生涯発達、身体、認知、心理などの観点から多角的に理解し、説明することができる
- (2) 高齢者および認知症高齢者に対するケアや支援について、医療や介護における考え方、現場で用いられている療法やスキルの例を挙げることができる
- (3) 高齢者および認知症高齢者の介護にかかわる家族の問題を知り、そうした家族に対する支援やサービスの例を挙げることができる
- (4) 高齢者が直面する様々な困難を想像し、(1)から(3)における理解に基づき、今の自分に何ができるのかを具体的に述べるることができる

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	35	到達目標(4)について評価
上記以外	65	35%: 到達目標(1)~(3)について評価するためのテストを第15回に実施 30%: 授業中に出題されるワークおよび授業態度を総合的に評価

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	エピソードでつかむ老年心理学	大川 一郎, 宇都宮 博, 日下 菜穂子, 奥村 由美子, 土田 宣明	ミネルヴァ書房	978-4623058952
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	よくわかる高齢者心理学	佐藤 真一, 権藤 恭之(編著)	ミネルヴァ書房	978-4623076550
2	パーソンセンタード・ケア 改訂版 認知症 ・個別ケアの創造的アプローチ	スー・ベンソン(編著), トム・キットウッド, ポブ・ウッズ(企	クリエイツかもがわ	978-4902244809
3	介護するからだ	細馬 宏通	医学書院	978-4260028028

授業に必要な箇所は配布しますので、授業を受けるためだけに購入する必要はありません。より学びを深めたい方は、図書館で借りたり、購入する

#### 前提学力等

心理学の基礎的な知識を有していることが望ましいです。

#### 履修資格



講義名	高齢者行動論						担当教員	城 綾実
講義コード	1400860	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講	
ナンバリング番号	335PSY309							

授業計画									
回数	テーマ	概要				予習 / 復習			
第1回	オリエンテーション	講義全体、成績評価の説明をし、高齢者や高齢社会に対するイメージを全体で共有する				2	Teamsで配信する事前資料を熟読		2
							配布資料を確認しながらわからない		2
第2回	世界と日本の高齢化	高齢化の国際的動向と、日本の高齢化の特徴について学ぶ				2	Teamsで配信する事前資料を熟読		2
							配布資料を確認しながらわからない		2
第3回	生涯発達の中の高齢期	エリクソンやハヴィガーストの提唱する生涯発達に関する理論から、高齢期を学ぶ				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第4回	加齢による身体的・認知的変化	加齢による手足の動きや視力や聴力の変化および記憶や知能の変化などを学ぶ				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第5回	前回の続きと高齢期の心理	前回の続きと、身体的・認知的変化に伴い、どのような心理的影響が見られるのかを学ぶ				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第6回	高齢者に対する心理療法	高齢者の諸特性に応じた回想法、芸術療法、学習療法などを学ぶ				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第7回	高齢者体験	高齢者体験セットを工作し、2人(あるいは3人)1組で高齢者の日常生活や介護方法の一部を疑似体験する				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第8回	サクセスフル・エイジング	生活の質が保たれ、満足感を持って高齢期を生きることについて考え、話し合い、アイデアを共有する(グループワークあり)				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第9回	認知症の理解	加齢によるもの忘れとの違い、認知症の原因、中核症状などを学ぶ				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第10回	認知症の理解	周辺症状と呼ばれる精神的・行動的症状を学ぶ				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第11回	認知症高齢者のケア	パーソンセンタードケア、バリデーション、ユマニチュードについて学ぶ				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第12回	介護する側のケア	介護者が抱える疲労やストレスを知り、レスパイトケアについて学ぶ				2	Teamsで配信する事前資料を熟読		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第13回	認知症高齢者とのコミュニケーション	介護未経験者と認知症高齢者のコミュニケーションについて事例を取り上げながら考え、意見を出し合う				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第14回	認知症高齢者とのコミュニケーション	介護者と認知症高齢者のコミュニケーションについて事例を取り上げながら考え、意見を出し合う				2	教科書の該当箇所、Teamsで配信す		2
							教科書や配布資料を確認しながらわ		2
第15回	テスト・まとめ	テストとその解説、講義全体のまとめを行います。				2	これまでの授業内容を教科書、配布		2
							テストで間違えた問題、テスト後の		2

担当者から

座学が中心ですが、一部グループワークを行います。受講生の人数によって授業形式は変動することもあります。高齢者体験では一部工作を行います。文具、空のペットボトルなどいくつか持参していただきたいものがありますので、授業前に改めて連絡しま

講義名	コミュニケーション論						担当教員	高梨 克也
講義コード	1400880	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY302							

#### 授業概要

目に見える具体的な会話コミュニケーションの場面や行動を分析的に捉えるための基本概念を理解するとともに、実社会におけるさまざまなタイプのコミュニケーション活動の特徴をリアルに体感することを目指し、事例を用いたグループワークを盛り込んだ授業を行う。

#### 到達目標

- (1) われわれの日常生活において不可欠な会話コミュニケーションについて、どのような基本的なメカニズムがあるかを正確に理解する
- (2) 社会におけるさまざまなタイプのコミュニケーション活動ごとに、これらのメカニズムがどのように働いているかを具体的に理解する
- (3) コミュニケーションの特徴や課題について主体的かつ意識的に認識し行動できる能力の基礎を身につける

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	40	全回の講義内容を理解しているかを問う。特定の現象について自力で考察する課題により評価を行う。
上記以外	60	グループワークに取り組む姿勢やレスポンスペーパーの記入内容を評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	基礎から分かる会話コミュニケーションの分析法	高梨克也	ナカニシヤ出版	978-4779510731
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房	978-4326602964
2	問題解決のコミュニケーション	鈴木健人他	白桃書房	978-4561951278
3	コミュニケーションを粹づける - 参与・関与の不均衡と多様性	片岡邦好他	くろしお出版	978-4874247235

#### 前提学力等

3・4年次に配当されていますが、特に人間関係学科の学生には2年次での履修を推奨します。逆に1年次での履修はどの学部・学科の学生についてもあまり推奨しません。

#### 履修資格

講義名	コミュニケーション論							担当教員	高梨 克也
講義コード	1400880	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	335PSY302								

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	イントロダクション	本講義の狙いと進め方について説明する。合わせて、受講生の受講動機や関心を把握するため、簡単な自己紹介を行う。					2	日常生活経験に基づき、「コミュニ	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第2回	さまざまなコミュニケーション研究	コミュニケーション研究が哲学、言語学、社会学、心理学、霊長類学、情報学などからなる多角的な領域であることを概観するととも					2	これまでに習ったことがある知識を	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第3回	分析ツール編：順番交替	会話コミュニケーションの特徴を分析的に捉えるための基本概念として、順番交替について紹介し、事例を用いたグループディスカッショ					2	教科書第1章の理論編の部分を通読	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第4回	分析ツール編：連鎖構造	会話コミュニケーションの特徴を分析的に捉えるための基本概念として、連鎖構造について紹介し、事例を用いたグループディスカッショ					2	教科書第2章の理論編の部分を通読	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第5回	分析ツール編：参与役割	会話コミュニケーションの特徴を分析的に捉えるための基本概念として、参与役割について紹介し、事例を用いたグループディスカッショ					2	教科書第5章の理論編の部分を通読	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第6回	分析ツール編：ジェスチャー	会話コミュニケーションの特徴を分析的に捉えるための基本概念として、ジェスチャーについて紹介し、事例を用いたグループディスカッ					2	教科書第4章の理論編の部分を通読	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第7回	分析ツール編：成員カテゴリー化	会話コミュニケーションの特徴を分析的に捉えるための基本概念として、成員カテゴリーについて紹介し、事例を用いたグループディス					2	教科書第6章の理論編の部分を通読	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第8回	分析ツール編：関与配分	会話コミュニケーションの特徴を分析的に捉えるための基本概念として、関与配分について紹介し、事例を用いたグループディスカッショ					2	教科書第7章の理論編の部分を通読	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第9回	ターゲット編：課題遂行対話と共同問題解決	さまざまなタイプの会話コミュニケーションの中から、課題遂行対話の実際の事例を取り上げ、その特徴を共同問題解決という観点から捉					2	第4回(連鎖構造)の講義資料と課	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第10回	ターゲット編：共同制作とイメージ共有	さまざまなタイプの会話コミュニケーションの中から、共同制作場面での実際の事例を取り上げ、その特徴をイメージ共有という観点から					2	第6回(ジェスチャー)の講義資料	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第11回	ターゲット編：多職種ミーティングと職能	さまざまなタイプの会話コミュニケーションの中から、多職種ミーティングの実際の事例を取り上げ、その特徴を職能という観点から捉					2	第7回(成員カテゴリー化)の講義	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第12回	ターゲット編：科学コミュニケーションと	さまざまなタイプの会話コミュニケーションの中から、科学コミュニケーションの実際の事例を取り上げ、その特徴を専門知識という観点					2	第5回(参与役割)の講義資料と課	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第13回	ターゲット編：市民参加とファシリテ	さまざまなタイプの会話コミュニケーションの中から、市民参加型ワークショップの実際の事例を取り上げ、その特徴をファシリテ					2	自分自身がこれまでに経験したこと	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第14回	総合討論：あなたと会話コミュニケーション	各受講生が現在・将来の社会的活動の中で参加する可能性のある会話コミュニケーション場面を想定し、上記分析ツールと分析ターゲット					2	各自が大学卒業後に就きそうな職業	1	次回授業までに、講義資料の内容を	3
第15回	まとめとレポート課題の説明	これまでの授業内容を振り返るとともに、レポート課題のテーマと書き方について説明する。					2	これまでの回の講義資料を再度通読	1	期末レポートのテーマや内容につい	2
担当者から											

講義名	産業心理学						担当教員	武田 悠衣
講義コード	1400920	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY311							

#### 授業概要

私たちは従業員や雇用者、あるいは生産者、消費者として、産業と密接に関わりながら生活をしている。産業には人間の様々な心的働きが影響を及ぼしているため、人間心理は産業を考える上で欠かせない要素となっている。本講義では、キャリア発達、集団特性、集団内の影響、安全と事故、といった産業心理学の基礎的なテーマを中心に講義を行い、産業に関わる人間の心的メカニズムを研究知見に基づき解説する。これによって、将来の職業生活（ワーク・ライフ）に向けて自らのキャリア発達について考える機会としたい。

#### 到達目標

- (1) 各講義で紹介あるいは議論された知見を理解し、自分自身の言葉で説明・表現できる。
- (2) 産業心理学に関わる事象を複数の観点から理解し、その事象についての自分自身の考えを構築し、伝えることができる。
- (3) 産業心理学の知見（講義で身に付けた知識や考え方）と自身の生活との関連を結びつけることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標1、2、3について定期試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	30	毎回の講義のコミュニケーションペーパーの提出、その他授業態度（到達目標2、3に対応）

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	産業・組織心理学を学ぶ：心理職のためのエッセンシャルズ（産業・組織心理学講座 第1巻）	金井篤子（編）	北大路書房	978-4762830747
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	よくわかる産業・組織心理学	山口裕幸・金井篤子(編)	ミネルヴァ書房	978-4623048717
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	産業心理学						担当教員	武田 悠衣
講義コード	1400920	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY311							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習 / 復習	
第1回	導入：産業心理学とは？	授業概要、成績評価方法を確認する。産業心理学の背景と特徴を理解する。					2	
第2回	募集・採用と評価・処遇	企業ではどのように人々の募集・採用活動を行うのか、賃金や地位の処遇に結びつけるのかについて学ぶ。					2	
第3回	キャリア発達と能力開発	キャリアの定義やキャリア発達について概観し、企業と個人の両視点から能力開発について学ぶ。					2	
第4回	人間関係管理と職場の人間関係	職場の人間関係、人と企業の関係の管理、職場での人間関係の働きについて学ぶ。					2	
第5回	働くことの意味と働き方	働く目的や意味を考え、その人らしい働き方について考える。					2	
第6回	組織行動の心理学的視点	集団のダイナミクスやコミュニケーションについて学ぶ。					2	
第7回	リーダーシップ	リーダーシップに関する理論を学ぶ。					2	
第8回	仕事へのモチベーション	目標設定・モチベーションについての理論を学ぶ。					2	
第9回	組織開発	企業・組織変革のための諸理論を学ぶ。					2	
第10回	仕事の安全	労働災害、安全対策について学ぶ。					2	
第11回	仕事の疲労・ストレス	産業疲労と職務ストレスについて学ぶ。					2	
第12回	作業と職場のデザイン	作業の負荷、ヒューマンファクターズ、職場のデザイン等について学ぶ。					2	
第13回	消費者行動	消費者行動への心理学的アプローチについて学ぶ。					2	
第14回	消費者の購買意思決定	消費者の購買行動や商品選択に関わる理論を学ぶ。					2	
第15回	企業活動と消費者行動・まとめ	マーケティング、消費者問題などについて学ぶ。全体のまとめ。					2	
担当者から								
受講者の興味関心や習熟度によって、授業の順番や内容を微調整することがあります。								

講義名	質的データ解析論						担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230SOC205, 235SOC205							

#### 授業概要

社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、グループワークなども通して、質的調査の方法を習得することを目的とする。

#### 到達目標

- (1) 先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。
- (2) 特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。
- (3) 質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。
- (4) 参与観察の基本的な考え方を習得できる。
- (5) 行なったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	以下の5回のレポートを課す。 1) 先行研究や関連資料、統計データを収集することができる(15%)。 2) インタビュー調査を適切に依頼し、また事前に適切な質問項目を設定することができる(15%)
上記以外		毎回提出してもらったレスポンスカードの内容が優れていた場合、加点を行うことがある。1回につき2点、ただし15回の授業を通して、5回以内(10点以内)とする。

レポートの提出回数が3回以下の場合、評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	実践 自分で調べる技術	宮内泰介・上田昌文	岩波書店	400431853X
2	最強の社会調査入門：これから質的調査をはじめよう人のために	前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆	ナカニシヤ出版	4779510791
3	よくわかる質的調査 プロセス編	谷富夫・山本努	ミネルヴァ書房	4623058441

授業中にレジュメやレポート執筆に必要な資料を配付する。

#### 前提学力等

社会調査士資格認定科目(F科目。資格取得にはE科目の量的データ解析論 と本科目のいずれか1つを履修すること)であり、1回生配当の社会調査論を履修済みであることが望ましい。

#### 履修資格

講義名	質的データ解析論						担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230S0C205, 235S0C205							

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習 / 復習			
第1回	オリエンテーション	質的調査法の概要と講義全体のスケジュール、レポート評価課題について説明する。	2	・参考書を読んで、質的データとは ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第2回	社会調査における「質的調査法」の位置づけ	量的調査と質的調査を対比させることで、質的調査とはいかなるものか説明する。	2	・参考書を読んで「質的調査法」と ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第3回	調査における「問題意識」の重要性	調査を行なう上で、どのような問題意識を持つかによって、同じ事例を見ていても全く見え方が変わってくる。調査を進めていく中での問	2	・参考書を読んで研究における「問 ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第4回	質的調査におけるドキュメントの発見・収	調査を行なうに当たって、まずしなければならないのはテーマに関する先行研究や関連資料の収集である。それらの収集方法について具体	2	・参考書を読んで、ドキュメント ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第5回	ドキュメント分析の具体例と実践	収集した文書資料をどのように分析するか、その具体的な実践例と方法を説明する。	2	・新聞データベース「聞蔵」や ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第6回	社会調査という行為の社会性：「調査地被害	社会調査を行う上で注意しなければならない調査倫理、そして調査そのものが持つ社会性という問題について論じる。	2	・参考書を読んで「調査地被害」に ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第7回	聞き取り調査による素材の収集とデータ化の	インタビュー調査をどのように行なうか。その依頼のプロセスに始まって、実際にインタビューを行なう上での注意点、またインタ	2	・参考書を読んで「調査依頼書」を ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第8回	聞き取り調査の具体例と実践	聞き取り調査に基づく研究事例を紹介することを通して、その具体的な方法論を説明する。	2	・インタビュー調査を用いた論文を ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第9回	参与観察法による素材の収集とデータ化のプ	参与観察による調査をどのように行なうか。その注意点やデータの整理・収集、その分析方法について説明する。	2	・参考書を読んで「参与観察」の方 ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第10回	参与観察調査の具体例	参与観察調査に基づく研究事例を紹介することを通して、その具体的な方法論を説明する。	2	・参与観察を行なう課題に取り組む ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第11回	データの整理と編集：メモ・ノート・カード	史資料・インタビュー・参与観察等を通じて様々な形で集まったデータについて、いかにメモやフィールドノーツを作成し、また整理する	2	・インタビュー調査を行なう課題に ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第12回	歴史社会学的研究：内容分析と言説分析	内容分析・言説分析に基づく研究事例を紹介することを通して、その具体的な方法論を説明する。	2	・参考書を読んで内容分析、言説分 ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第13回	言説生成研究と社会問題の社会学	構築主義的アプローチに基づく研究事例を紹介することを通して、「社会問題」の具体的な分析方法を説明する。	2	・授業内で取り上げた書籍や論文を ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第14回	ライフストーリー研究：フィールドとして	ある1人の個人の人生にも、そこには「社会」が反映している。そうした個人もまた一つのフィールドであり、そうした個人を通じて社会	2	・参考書を読んでライフストーリー ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
第15回	概念の構築と脱文脈化・再文脈化：調査を	実際に調査したデータを、報告書や卒論にまとめるまでにどのようなプロセスを経るのかについて説明し、講義全体のまとめを行う。	2	・まとめの課題に取り組むこと ・講義内容を自分の言葉でまとめな	2		
担当者から							
グループワークを多く行なう授業となっている。レポートは出席を前提として課するため、欠席しないこと。							

講義名	労働・社会政策論						担当教員	
講義コード	1401025	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C313							

#### 授業概要

多くの人を悩ませてきた「労働」「働くこと」について、これまでどんなことが研究され、考えられてきたのか。労働問題に対してどのような取り組みがなされてきたのか。そして、みなさんに何ができるのか。これが本講義のテーマです。

#### 到達目標

(1) 働き方に関する様々な見方や議論、(2) 日本の雇用や就職の特徴、(3) 社会政策の目的や内容、(4) 労働運動の歴史や役割

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	若者の労働運動 「働かせろ」と「働かないぞ」の社会学	橋口 昌治	生活書院	4903690709
2	若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす	濱口 桂一郎	中公新書ラクレ	4121504658
3				

そのほか参考になる文献については講義で紹介します。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	労働・社会政策論						担当教員	
講義コード	1401025	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C313							

授業計画							
------	--	--	--	--	--	--	--

回数	テーマ	概要	予習/復習
第1回	イントロダクション	本講義の内容を簡単に説明し、見通しを持ってもらう。	
第2回	さまざまな労働観を知る	労働中心社会とも言える近代社会の労働観の特徴を取り上げる。	
第3回	さまざまな労働観を知る	現代の労働観と背景にある社会の変化を取り上げる。	
第4回	ベーシックインカム論とその背景	生活に必要な最低限の所得を無条件に給付するベーシックインカムについて取り上げる。	
第5回	ケア労働とジェンダー	育児や介護といった「ケア労働」について取り上げる。	
第6回	「多様な働き方」と雇用関係	契約に着目して、さまざまな働き方があることを取り上げる。	
第7回	正規雇用と非正規雇用	実はあまり知られていない「正規」「非正規」の違いを取り上げる。	
第8回	日本的雇用の特徴	解体したと言われながらも残る日本的雇用について取り上げる。	
第9回	日本の就職の特徴	日本の就職、そこで「求められる能力」について取り上げる。	
第10回	労働組合とユニオン	労働組合の簡単な歴史とユニオンについて取り上げる。	
第11回	賃金と賃上げ	働くことと切り離すことのできない賃金について取り上げる。	
第12回	社会保障の歴史	社会保障の生まれた背景について取り上げる。	
第13回	日本の社会保障	日本の社会保障の歴史について取り上げる。	
第14回	日本の社会保障	日本の社会保障の制度の特徴について取り上げる。	
第15回	まとめ	これまでの授業のまとめを行う	
担当者から			

講義名	社会学演習						担当教員	大野 光明 / 中村 好孝 / 丸山 真央	
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習		
ナンバリング番号	235SOC220								

#### 授業概要

この演習では「社会と人間」という視点から、人間関係を理解・認識するための「見る眼」と「問題を発見する能力」を習得することを狙いとする。問題意識を明確にし、共通の理解を深めるために、下記の授業計画に沿って参加者はグループに分かれ、各グループで発表者、司会の役割を分担して演習を進める。発表者はレジュメを作成して報告し、それについて全員で討議する。発表・討議が完了したのち、発見された問題点、共有された見解についてレポートを作成し、提出する。

#### 到達目標

- (1) 社会学の基本的な知識と視点を獲得する。
- (2) 現代日本社会の構造と変動および諸問題を社会的に捉えることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書については、初回授業の際に説明する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。前もってプリント等を配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	社会学演習							担当教員	大野 光明 / 中村 好孝 / 丸山 真央	
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習			
ナンバリング番号	235SOC220									

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	オリエンテーション	授業全体についてのガイダンスを実施する。				2	シラバスを読む		2	
							配布レジュメを読む		2	
第2回	日本の社会学者を読む (1)	メディアにおけるジェンダーの表象について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第3回	日本の社会学者を読む (2)	消費社会について考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第4回	日本の社会学者を読む (3)	都市民俗について考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第5回	日本の社会学者を読む (4)	家事労働について考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第6回	日本の社会学者を読む (5)	戦争・軍事とジェンダーについて考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第7回	日本の社会学者を読む (6)	記憶と政治について考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第8回	日本の社会学者を読む (7)	社会の高齢化とケアについて考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第9回	日本の社会学者を読む (8)	人間関係におけるジェンダーについて考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第10回	日本の社会学者を読む (9)	近代家族について考える				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第11回	まとめ (1)	第2～10回のまとめをおこなう。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第12回	社会のなかの差異 (1)	社会のなかの差異というテーマについて考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第13回	社会のなかの差異 (2)	新型コロナウイルス感染症を「差異の社会学」の2視点から考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第14回	社会のなかの差異 (3)	ジェンダーについて考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第15回	社会のなかの差異 (4)	セクシュアリティについて考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第16回	社会のなかの差異 (5)	民族・人種について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第17回	社会のなかの差異 (6)	障害について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第18回	社会のなかの差異 (7)	貧困について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		22	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第19回	社会のなかの差異 (8)	都市空間について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第20回	社会のなかの差異 (9)	共生や多様性とは何かについて考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第21回	まとめ (2)	第11～20回のまとめをおこなう。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第22回	メディアと社会 (1)	メディアの社会的な効果と影響について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第23回	メディアと社会 (2)	メディアの「悪影響」について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第24回	メディアと社会 (3)	ソーシャル・メディアについて考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第25回	メディアと社会 (4)	メディア不信について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第26回	メディアと社会 (5)	新聞とジャーナリズムについて考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第27回	メディアと社会 (6)	ローカル・メディア / ジャーナリズムについて考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第28回	メディアと社会 (7)	ニュースの生産過程について考える。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第29回	メディアと社会 (8)	新聞記事検索データベースの活用法を学び、社会学研究における活用の実践をおこなう。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
第30回	まとめ (3)	全体のまとめをおこなう。				2	対象テキストを読み、発表等の準備		2	
							授業内容をふまえたレポート作成		2	
担当者から										

講義名	社会学概論						担当教員	丸山 真央 / 中村 好孝 / 大野 光明 / 櫻井 悟史
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	130SOC102, 135SOC201							

#### 授業概要

本講義では、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法を学ぶ。あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行い、各分野の基本的な視点と論点を理解する。

#### 到達目標

- (1)社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法を理解することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる。  
(2)社会学の主要分野の基本的な視点と論点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	授業の各回または担当教員ごとにレポート課題等を課し、それに基づいて成績評価をする。到達目標の(1)(社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる)、(2)(社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得すること
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

本講義全体で共通の教科書は使用しない。(各教員がレジユメを配布するなど、詳しくは授業内でアナウンスする)

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会学 第5版	アンソニー・ギデンズ	而立書房	4880593508
2	Do! ソシオロジー 改訂版 -- 現代日本を社会学で診る	友枝敏雄他編	有斐閣	4641124965
3	社会学入門	塩原良和・竹ノ下弘久編	弘文堂	4335551401

各回担当の教員から授業やレジユメ等で紹介する。

#### 前提学力等

高校の倫理・政治経済、現代社会、世界史、日本史で修得している程度の知識は必要だが、とくに問わない。

#### 履修資格



講義名	社会学史						担当教員	中村 好孝
講義コード	1401060	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C308							

#### 授業概要

これまでの社会学の歴史について、社会学誕生以前の社会思想、近代に生まれた社会学、現代展開中の社会学の三期に分けて、主要な理論の概要とそれらの展開について学ぶ。社会学の歴史を学ぶことがなぜ大切なのかといえは、本講義でとりあげる社会的な構え・方法態度は、今でも通用するからである。「社会学」の歴「史」の講義であるが、歴史について学ぶことと、一通りの社会的な発想について身につけることを、同じくらいに重要な目標として設定する。

#### 到達目標

(1)社会学の歴史について一通りの知識を得る。(2)個々の社会学の議論・理論について理解する。(3)自分が今生きている社会について、社会的に考えるための思考方法を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(30%)。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジユメを配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会的想像力	ライト・ミルズ	ちくま学芸文庫	978-4480097811
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	社会学史						担当教員	中村 好孝
講義コード	1401060	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C308							

**授業計画**

回数	テーマ	概要	2	予習 / 復習
第1回	イントロダクション	社会学の歴史、社会思想の歴史について学ぶ意義について考える。	2	シラバスを読んで授業内容について 今後の授業内容について整理してお
第2回	ホブズ	ホブズの議論から、社会の成立について考える。	2	社会があるとはどういうことなの 授業内容について整理理解した上
第3回	社会契約説	ロックとトルソーの議論を中心に、社会契約説について考える。	2	「社会契約（説）」という言葉につ 授業内容について整理理解した上
第4回	功利主義	ベンサム議論から、功利主義について考える。	2	「功利主義」という言葉について、 授業内容について整理理解した上
第5回	自由主義1	ミルの議論から、旧来の自由主義について考える。	2	自由主義について、高校までに習っ 授業内容について整理理解した上
第6回	自由主義2	現代の自由主義について考える。	2	ドラえもんの秘密道具「どくさいス 授業内容について整理理解した上
第7回	分業論	アダム・スミスの議論から、分業という観点から社会の成立について考える。同感という概念を理解する。	2	分業について、高校までに習ったこ 授業内容について整理理解した上
第8回	史的唯物論	マルクスの議論から、社会を歴史的に捉えるということについて学ぶ。	2	「経済を回す」という最近流行の言 授業内容について整理理解した上
第9回	ヴェーバー	ヴェーバーの議論から、近代社会の近代人について考える。	2	「タマネギを食べると血液がサラサ 授業内容について整理理解した上
第10回	デュルケーム	デュルケームの議論から、社会学の方法について考える。	2	社会学の方法とはどんなものなの 授業内容について整理理解した上
第11回	構造機能主義	パーソンズの社会学から、一般理論の試みについて学ぶ。	2	人間の集団がまとまるためには何が 授業内容について整理理解した上
第12回	消費社会論	現代の社会学の一つの展開として、消費社会論について学ぶ。	2	デパートのフロア構成について調べ 授業内容について整理理解した上
第13回	ミクロ社会学	現代の社会学の一つの展開として、ミクロ社会学について学ぶ。	2	対面場面で観察できる社会について 授業内容について整理理解した上
第14回	個人化論	現代の社会学の一つの展開として、個人化という議論について学ぶ。	2	個人で人生を切り開くことができる 授業内容について整理理解した上
第15回	全体のまとめ	社会の成立についての考察という観点から、全体の議論を整理する。	2	これまで学んだ様々な社会イメージ 授業内容について整理理解した上

担当者から

講義名	社会心理学（人間関係）						担当教員	谷口 友梨
講義コード	1401100	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

人は社会的動物であり、他者とのかわりの中で生活をする生き物である。日常生活場面で生じる人間の心理について学習することで、人間の基本的な心理メカニズムの理解ができるように講義を進める。これにより、周囲の人とより良い関係性を築く方法を理解し、日常生活場面で応用できることを目指す。また、授業を通して、学生の「自分とはどんな人間なのか」という自己理解を深め、これによって、学生が自身の将来について考える機会としたい。

#### 到達目標

- (1) 社会心理学の基礎的な知識を習得し、他者に説明することができる。
- (2) 日常生活場面で遭遇するさまざまな事象について、社会心理学の観点から解釈することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。
レポート課題		
上記以外	30	授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができていないかを評価する。

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

#### 授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	読んでわかる社会心理学	辻川典文・阿部晋吾・神原歩・田端拓哉	サイエンス社	9784781914886
2	グラフィック社会心理学（第2版）	池上知子・遠藤由美	サイエンス社	9784781911915
3	社会心理学・再入門 - ブレークスルーを生んだ12の研究	ジョアンヌ・R・スミス、S・アレクサンダー・ハスラム（編）樋口	新曜社	9784788515390

授業中に講義資料を配布し、それを使用しながら授業を展開する。また、各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する。

#### 前提学力等

「心理学基礎」を履修していることが望ましい。

#### 履修資格



講義名	社会心理学 (人間関係)							担当教員	谷口 友梨	
講義コード	1401100	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号										

授業計画										
回数	テーマ	概要						予習 / 復習		
第1回	イントロダクション	社会心理学の特徴について学ぶ。						2	社会心理学というのは、どのような	2
第2回	自己認知	人が社会の中に自己をどのように位置づけて認識しているかについて学ぶ。						2	「自己」について、参考書などで調	2
第3回	自己認知と情報処理	セルフ・スキーマと情報処理との関係について学ぶ。						2	「セルフ・スキーマ」について、参	2
第4回	対人認知	人が周囲の他者をどのように認識しているかについて学ぶ。						2	「対人認知」について、参考書など	2
第5回	社会的認知	周囲の物事を解釈し、仕組みや法則を知ろうとする心の働きについて学ぶ。						2	「社会的認知」について、参考書な	2
第6回	態度と意思決定 (1)	態度のメカニズムについて学ぶ。						2	「態度」について、参考書などで調	2
第7回	態度と意思決定 (2)	非合理的な意思決定を行ってしまうメカニズムについて学ぶ。						2	前回の授業の講義資料の内容を確認	2
第8回	説得的コミュニケーション	コミュニケーションの仕組みについて学ぶ。						2	「コミュニケーション」について、	2
第9回	対人行動	親密な人間関係に至るプロセスについて学ぶ。						2	「対人行動」について、参考書など	2
第10回	集団意思決定 (1)	集団での規範の形成のされ方、集団での意思決定の方法について学ぶ。						2	「集団規範」について、参考書など	2
第11回	集団意思決定 (2)	集団における少数派と多数派の特徴について学ぶ。						2	「同調」について、参考書などで調	2
第12回	集団での活動	集団で活動を行う際に生じるダイナミクスを学ぶ。						2	「社会的手抜き」「社会的促進」に	2
第13回	集団間関係	戦争・ヘイトスピーチといった集団間の葛藤に関わる心の仕組みにつ						2	「集団間葛藤」について、参考書な	2
第14回	文化	人の心が文化に影響を受け、また文化を維持・変容させようとするプ						2	「文化」について、参考書などで調	2
第15回	まとめ	授業の内容を振り返りつつ、人の心の社会性についての体系的な理解						2	第1回～第14回までの講義資料につ	2
									これまでの講義資料の内容を通読	2
担当者から										

講義名	社会精神医学						担当教員	久保田 泰考
講義コード	1401110	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	授業	
ナンバリング番号	335PSY313							

#### 授業概要

「こころ」が、体のひとつの器官としての脳の働きによって成り立っているとすれば、「こころの病気」を扱う精神医学は、脳の調子が崩れる仕組みを研究し、それを効率よく適切に治療することに専念すればよい、と考えられるかもしれませんが、そこで忘れられがちなのは、こころを病む人はたった一人で病むわけではなく、人との関係・ネットワークの中で、人から影響を受け、また影響をおよぼしながら病んでいるという観点です。友達も話し相手もなく、ずっと孤立していたらそれだけで「うつ」になってしまいそうです。また一方で人間関係がわずらわしく、どこかに消えてしまいたいと思うこともまた誰にもあるかもしれません。現代社会の生活から生じるストレスは高まる一方で、「こころの病気」になる人が増え続けていると言われます。こうした言説がどれほどの真実をついているかはさておき、社会と「こころを病む人」の関係を今日改めて問い直すことの重要性は否定しようもないことでしょう。こうした状況を生きのびるために、私たちそれぞれが固有の社会精神医学的視点を持つ必要に迫られているといえるかもしれません。講義では精神医学全般についての知識を広く学習しながら、今日のように社会と精神医学の関係を捉えることが可能であるのかについて、各自が自分なりの見解を持つことを目標とします。適宜映像資料なども交えて、アクチュアルな問題について検討する場を持ちたいと考えています。

#### 到達目標

- (1) 主要な精神疾患・障害について、歴史的な視座も含めた基礎的な理解を深める
- (2) 社会がどのように精神疾患・障害を扱ってきたかについて、批判的に主要な論点を説明することができる
- (3) こころを病む個人と社会の関係について、例えばこころを病む人を取り上げた芸術作品を例にとり、各自が自分なりの考えを表明することができる

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	各自の疑問点を網羅的にリストアップするレポート1と、固有のテーマについて各自の考えを自由に展開するレポート2から評価する。
上記以外	40%	授業中の簡単な討議や意見の表明における積極性、独自の見方を表明する能力、および授業中の小レポート(感想文)から評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料を配布

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ニューロサイコアナリシスへの招待	岸本寛史他	誠信書房	4414400988
2	ニューロラカン: 脳とフロイト的無意識のリアル	久保田泰考	誠信書房	4414416302
3				

#### 前提学力等

こころの病気に関心があること唯一の条件です。

#### 履修資格

講義名	社会精神医学						担当教員	久保田 泰考
講義コード	1401110	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	授業	
ナンバリング番号	335PSY313							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習	
第1回	うつと社会 1	うつ病の基礎的概念について、その歴史的な変遷について理解する	2	PDF資料、オンデマンド資料をもと 授業フィードバック、PDF資料、オ	1 1
第2回	うつと社会 2	鬱病の治療と社会の関わり、特に自殺予防対策について理解する	2		
第3回	狂気と社会 1	近代社会は狂気をどのようにとらえてきたかについて検討する	2		
第4回	狂気と社会 2	現代社会における狂気の在り方、芸術と狂気、テクノロジーと狂気について検討する	2		
第5回	ヒステリーと社会 1	ヒステリーとはなにか、近代精神医学・精神分析とヒステリーについて理解する	2		
第6回	ヒステリーと社会 2	現代におけるヒステリー、ヒステリーとサイボーグについて理解する	2		
第7回	パーソナリティ障害と社会	現代におけるパーソナリティ障害の概念、ボーダーラインパーソナリティを中心に理解する	2		
第8回	ジェンダーと精神医学	精神医学はジェンダー・性の問題をどのように扱ってきたかについて検討する	2		
第9回	自閉スペクトラムと社会 1	自閉症の歴史についてについて理解する	2		
第10回	自閉スペクトラムと社会 2	自閉スペクトラム概念の拡大と現代の病理について理解する	2		
第11回	精神疾患と犯罪 1	そもそも精神疾患と犯罪の関係をどのように考えるべきか検討する	2		
第12回	精神疾患と犯罪 2	刑法と近代精神医学の関係について理解する	2		
第13回	こころの薬	臨床精神薬理学の概説、精神科の薬と社会の関係について理解する	2		
第14回	精神療法	言葉による治療、社会的な言説とこころの病気の関係について検討する	2		
第15回	まとめ	各自が疑問・問題点を整理し、討論する	2		

担当者から

--

講義名	地域社会調査実習						担当教員	塚本 礼仁 / 櫻井 悟史
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業方法	実習	
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320							

#### 授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。

#### 到達目標

- (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
- (2) 調査計画を立案することができる。
- (3) 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
- (4) 調査成果を発表し、討論することができる。
- (5) 報告書を作成することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	最終報告書の原稿で評価する。 (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる 10% (2) 調査計画を立案することができる 10%
上記以外	10	毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。 (4) 調査成果を発表し、討論することができる 10%

#### 授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動にもとづいて調査をおこない、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
2				
3				

年度のテーマに関する文献を講義の中で紹介する。

#### 前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習 のいずれかの単位を修得していることが望ましい。

#### 履修資格

講義名	地域社会調査実習						担当教員	塚本 礼仁 / 櫻井 悟史	
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業方法	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業計画									
回数	テーマ	概要						予習 / 復習	
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと班編成をおこなう。						2	
第2回	調査方法の解説(1)	地域・社会調査の方法、特に調査倫理、危機管理、依頼文書の作成法などについて解説する。						2	
第3回	調査方法の解説(2)	地域・社会調査の方法、特に社会的な基本事項(インタビュー調査や質的調査における質問紙・調査票の作成、データの整理方法など)						2	
第4回	調査方法の解説(3)	地域・社会調査の方法、特に地理学的な基本事項(統計データの入手・使用法、地形図の使用法、土地利用調査・景観調査の手法など)						2	
第5回	先行研究の収集と読解(1)	年度のテーマに関する先行研究を班ごとに収集し、読解して報告する。							
第6回	先行研究の収集と読解(2)	年度のテーマに関する先行研究を班ごとに収集し、読解して報告する。							
第7回	先行研究の収集と読解(3)	年度のテーマに関する先行研究を班ごとに収集し、読解して報告する。							
第8回	調査計画の策定と発表(1)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第9回	調査計画の策定と発表(2)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第10回	調査計画の策定と発表(3)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第11回	調査計画の策定と発表(4)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第12回	調査計画の策定と発表(5)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第13回	現地調査(1)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。							
第14回	現地調査(2)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。							
第15回	現地調査(3)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。							
第16回	調査成果の発表と討論(1)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第17回	調査成果の発表と討論(2)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第18回	調査成果の発表と討論(3)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第19回	調査成果の発表と討論(4)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第20回	調査成果の発表と討論(5)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第21回	追加調査(1)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第22回	追加調査(2)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第23回	追加調査(3)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第24回	追加調査(4)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第25回	追加調査(5)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第26回	報告書原稿の作成と討論(1)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第27回	報告書原稿の作成と討論(2)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第28回	報告書原稿の作成と討論(3)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第29回	報告書原稿の作成と討論(4)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第30回	報告書原稿の作成と討論(5)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
担当者から									

講義名	社会調査方法論						担当教員	大野 光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230S0C204, 233MKD281, 235S0C203							

#### 授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。  
 社会調査は大きく分ければ、量的調査と質的調査に分けることができる。本講義では、(1)量的調査については、調査票を用いた調査の方法を修得することに重点を置く。具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定(全数調査と標本調査)、標本抽出(無作為抽出、標本数・標本誤差の理解)、調査票と質問文の作成、調査の実施(調査票の配布・回収の方法)、収集されたデータの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング)について学ぶ。また、(2)質的調査については、インタビュー調査およびフィールドワークの方法の具体を学び、フィールドワークの作成方法なども修得する。  
 講義では、グループワークやグループディスカッションを積極的に取り入れる。

#### 到達目標

- (1) 調査目的・方法・手順および調査問題の選択と仮説の設定について理解することができる。
- (2) 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
- (3) 質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、課題に替える可能性がある。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に2回の小課題を設定し、評価する。

小課題(2回)と最終試験を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染状況をふまえ、最終試験を課題に切り替えることがある。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会調査の基礎	篠原清夫ほか	弘文堂	978-4335551338
2	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社	978-4589038173
3	質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学	岸政彦ほか	有斐閣	978-4641150379

参考書はその都度紹介する。授業中にレジュメや資料を配布する。

#### 前提学力等

グループワークやグループディスカッションに積極的に参加できる人、苦手であってもチャレンジしてみようという人の参加をお待ちしています。

#### 履修資格



講義名	社会調査論						担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202							

#### 授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的な生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

#### 到達目標

- (1) 社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
- (2) 社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
- (3) 国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べるができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	学期末に論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30%	受講生の理解度を測るために、1～2回程度授業中に小レポートを実施する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な理由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。必要に応じて授業中にプリント等の資料を配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	社会調査論							担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202								

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	社会調査とは何か	社会調査士資格、主要な要素と性格、目的、意義などについて述べる。				2				2 2
第2回	社会調査の分類	実践的調査と科学的調査について述べる。				2				2 2
第3回	社会調査の類型	統計調査（センサス）、学術調査、世論調査、市場調査について述べる。				2				2 2
第4回	社会調査の歴史（1）	ヨーロッパの社会調査の歴史について概観する。				2				2 2
第5回	社会調査の歴史（2）	アメリカの社会調査の歴史について概観する。				2				2 2
第6回	社会調査の歴史（3）	日本の社会調査の歴史について概観する。				2				2 2
第7回	国勢調査	日本の国勢調査の歴史、時期、地域、対象、事項、方法、問題点などについて述べる。				2				2 2
第8回	国際比較調査	国際比較調査の実際と課題について概説する。				2				2 2
第9回	調査研究の方法(1)	量的調査と質的調査について概説する。				2				2 2
第10回	調査研究の方法(2)	統計的方法と事例研究法について概説する。				2				2 2
第11回	調査票調査	調査の種類、手順、過程などについて述べる。				2				2 2
第12回	フィールドワーク	調査の種類、手順、過程などについて述べる。				2				2 2
第13回	様々なデータの活用	ドキュメント分析や映像分析などについて、その手法と課題を述べる。				2				2 2
第14回	社会調査と倫理	調査の規範、倫理、調査とプライバシーなどについて述べる。				2				2 2
第15回	まとめ	この授業全体について、総括を行う。				2				2 2

担当者から

この科目は社会調査士資格科目でもあるので、社会調査士の資格を取得しようと思っている人は必ず受講してください。

講義名	社会変動論						担当教員	
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	335S0C306							

#### 授業概要

社会変動論は、数十年、時に百年単位で社会の変化を捉える、社会学の基本的な発想の根幹をなす研究領域である。本講義では、家族、村落・都市、産業・労働、メディア、グローバル化などを対象に、社会変動が具体的にどのように現象し展開したのか・しているのか、その背後にはどのようなメカニズムがあるのかを学ぶ。授業を通じて、社会変動の具体的な現象形態とその説明原理を知り、社会の諸現象を変動的に読み解けるようになることをめざす。

授業では、新聞記事や映像資料を積極的に使用し、理論と現実とを架橋できるように努める。また可能な限り、ディスカッションやディベートをとり入れて、個々のテーマに関して理解を深めるとともに、各自の意見形成を促す機会を設ける。ただし、対面授業が不可能な場合は、授業の内容を変更することがある。

#### 到達目標

- (1) 社会変動の基本的な考え方や概念を理解する。
- (2) 社会の具体的な諸事象を社会変動論の観点から捉えることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	最終レポート課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する( (1) 15%、(2) 15%)。
上記以外	70	授業中・授業外の小課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する( (1) 35%、(2) 35%)。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は授業中に適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	社会変動論						担当教員	
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	335S0C306							

授業計画								
回数	テーマ	概要				予習 / 復習		
第1回	ガイダンス&イントロダクション	授業の進め方、成績評価等について説明する。				2	既習の社会学関係の科目があれば、 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第2回	家と村の近代化(1)	近代化以前の家と村の組織と制度、およびそれらが近代化の中でどのように変質したかを、映像資料等を通じて理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第3回	家と村の近代化(2)	近代化以前の家の組織と制度、およびそれらが近代化の中でどのように変質したかを、家・村理論等とともに理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第4回	家と村の近代化(3)	戦後日本の家と村の解体局面とその背景を理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第5回	現代家族とジェンダー(1)	現代家族の特徴とその課題に関する家族社会学的な理解とジェンダー論的な視点を身につける。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第6回	現代家族とジェンダー(2)	ジェンダーをめぐる現代日本社会の課題を、メディア表象等を通じて理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第7回	都市化(1)	近代化の中で都市という社会の特徴を、シカゴ学派都市社会学の視点から理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第8回	都市化(2)	都市化の中でのコミュニティのありようを理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第9回	社会変動の中の産業・労働(1)	戦後日本の企業と労働の特徴を「日本的経営」の観点から理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第10回	社会変動の中の産業・労働(2)	1990年代以降の「日本的経営」の構造変化とそこでの社会問題を理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第11回	グローバル化(1)	グローバル化の中の国際移民と日本社会の対応と課題を理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第12回	グローバル化(2)	グローバル化の中の「民族」やエスニシティの現状と課題を理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第13回	グローバル化(3)	グローバル化の中の日本人の意識とナショナリズムの諸相、およびその課題を理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第14回	情報化とメディア(1)	情報化社会の現局面とそこでの諸課題を、メディア環境の変化のなかに位置づけて理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
第15回	情報化とメディア(2)	情報化社会の現局面とそこでの諸課題を、メディア環境の変化のなかに位置づけて理解する。				2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組	2 2
担当者から								

講義名	社会問題の社会学						担当教員	
講義コード	1401190	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	235S0C206							

#### 授業概要

本講義では、社会問題（社会病理や逸脱とも呼ばれてきた。ひきこもり、いじめ、非行、DV、虐待、犯罪、自殺など）についての社会学的な議論を学ぶ。社会問題については、当事者から・家族から・支援者から・国家からなど、また心理的・経済的など、色々な観点から考えることが可能であるが、社会学も独自の、相当にひねくれた考察を行ってきた。社会学は常識を相対化する点を特徴とするところがあり、そもそもひねくれた学問であるけれども、社会問題の社会学には、その特長が分かりやすく表われていると思う。

#### 到達目標

(1)社会問題について、社会学の諸理論を理解する。(2)現代の社会問題にはどのような対象があるのか、およびそれらを取りまく社会的条件がどのようなものなのかについて知る。(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

小テストの提出が3分の2に満たない者は評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジュメを配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	生涯学習論						担当教員	原 未来
講義コード	1401340	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	204CUR103, 235EDU203-C							

#### 授業概要

人々の学びは、さまざまな時期に、さまざまな場で展開されている。本講義では、人間のおよび社会的な発達を視野に入れた生涯学習や社会教育の意義や特質、その展開や専門職の役割について、ゲスト講師による講話を交えながら学んでいく。人々にとっての学ぶことの意味や、それをサポートする専門職について理解を深めながら、自らの学びについても振り返り、その可能性を思考する機会としてほしい。

#### 到達目標

- ・生涯学習・社会教育の各現場でどのような学びが展開されているのか具体的に理解し、それを通じて生涯学習・社会教育の意義や特質を説明できるようになる
- ・自身のこれまでの学習観・教育観を言語化し、他者との議論を通じて自らの考えを深める

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	学期末レポート課題
上記以外	50	・授業後のリアクションペーパーの内容(30%) ・実地調査のまとめ(20%)

上記をもとに、総合的に評価する。

#### 授業外学習

生涯学習・社会教育施設での実地調査を、各自でおこなってもらおう。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、随時資料を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内で、適宜紹介する。

#### 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

#### 履修資格

講義名		生涯学習論						担当教員	原 未来	
講義コード	1401340	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講			
ナンバリング番号	204CUR103, 235EDU203-C									

授業計画										
回数	テーマ	概要					予習/復習			
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、グループづくり、課題提示					2	提示された課題に基づき、実地調査		
第2回	なぜ学ぶのか	通信制中学を題材に、私たちはいつ・どこで・なぜ学ぶのか、考える。					2	VTRを振り返り、自身の学びのあり		
第3回	生涯学習とは	生涯学習の理念と、その特質について学ぶ。					2	学んだ内容と比較しながら、実地調		
第4回	子ども期の学習 1	遊びと学びの関係性や、学びにおける「居場所」の意味について考える。					2	学んだ内容と比較しながら、実地調		
第5回	子ども期の学習 2	プレーパーク・居場所の活動に取り組むゲスト講師の講話から、専門職の役割について考える。					2	学んだ内容と比較しながら、実地調		
第6回	人々の生活と学習	障害者の人たちの学びや、当事者研究などの活動から、文化的生存権について考える。					2	学んだ内容と比較しながら、実地調		
第7回	実地調査 1	生涯学習・社会教育施設に実際に赴き、どのような学びが、どのような専門職の働きかけによって促進されているか、調査をおこなう。					2	調査先についての情報を収集し、調査結果をまとめて、発表・交流会		
第8回	実地調査 2	生涯学習・社会教育施設に実際に赴き、どのような学びが、どのような専門職の働きかけによって促進されているか、調査をおこなう。					2	調査先についての情報を収集し、調査結果をまとめて、発表・交流会		
第9回	実地調査 3	生涯学習・社会教育施設に実際に赴き、どのような学びが、どのような専門職の働きかけによって促進されているか、調査をおこなう。					2	調査先についての情報を収集し、調査結果をまとめて、発表・交流会		
第10回	実地調査 発表・交流会	小グループで実地調査の報告をしい、レポート課題に向けた検討をおこなう。					2	発表・交流会の準備(実地調査のま交流会で出た意見をもとに、実地調		
第11回	社会教育施設での学び 1 (博物館)	博物館における人々の学びと、それにかかわる専門職の役割について、ゲスト講師の講話から考える。					2	学んだ内容を活かしながら、実地調		
第12回	社会教育施設での学び 2 (博物館)	博物館における人々の学びと、それにかかわる専門職の役割について、ゲスト講師の講話から考える。					2	学んだ内容を活かしながら、実地調		
第13回	社会教育施設での学び 3 (図書館)	青少年教育施設or図書館における人々の学びと、それにかかわる専門職の役割について考える。					2	学んだ内容を活かしながら、実地調		
第14回	社会教育施設での学び 4 (図書館)	青少年教育施設or図書館における人々の学びと、それにかかわる専門職の役割について考える。					2	学んだ内容を活かしながら、実地調		
第15回	まとめ	授業全体をふりかえり、生涯学習や社会教育の意義や特質と、そこの学びを支える専門職の役割について、まとめる。					2			
担当者から										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部変則日程で行います。詳しくは、オリエンテーションで確認します。</li> <li>・グループワーク・意見交流などの機会が比較的多い授業になります。</li> </ul>										

講義名	心理・発達・行動学実験演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 高梨 克也 / 谷口 友梨
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号	135PSY220							

#### 授業概要

人間行動に対する総合的な研究実習を目的とする。1)人間の行動や心の働きを、どのように記号化し、どのように解析することができるか・できないかを、具体的な実習を通じて検討する。2)観察行動自体を制約するヒトの認知・コミュニケーション特性に焦点をあて、これに関する基礎的な心理学実習を実施し、データの扱いを学ぶ。3)行動発達の場合である、野外の研究フィールドや教育・福祉関係の実践現場にでかけ、各種観察法を実習する。

#### 到達目標

行動観察法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察、報告までのプロセスを実践的に習得する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	発表や各担当教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。

評価は通年でおこなうが、4名の教員の担当箇所のすべてについて合格基準に達していることを基本とする。

#### 授業外学習

適宜実施する。前期、後期の早い段階でスケジュールを提示する。ただし、コロナ禍の状況などによって、シラバス案を変更して学内実習とする可能性がある。その場合も、早い段階で告知する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	心理・発達・行動学実験演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 高梨 克也 / 谷口 友梨	
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習		
ナンバリング番号	135PSY220								

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	科学と実験	科学の見方、実験の意義について認識を深めるワークを行う。	3
第2回	対人距離の心理実験	心理実験を体験し、「実験とは何か」を理解する	3
第3回	実験・調査の計画 (1)	対人距離をテーマとし、心理学的に捉える実験・調査を計画する	3
第4回	実験・調査の計画 (2)	実験・調査の計画について報告・議論し、計画を練り上げる。	3
第5回	実験・調査の実施	計画した実験・調査を実施する	3
第6回	実験・調査の分析	実験・調査で得られたデータを可視化する	3
第7回	実験・調査の報告	実験・調査で得られた結果を報告する。	3
第8回	行動研究の意義	行動を指標として心の働きを考える	3
第9回	行動研究の手法	実験的手法と自然観察	3
第10回	学外実習のための事前学習	研究対象と観察手順の理解	3
第11回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録	3
第12回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録	3
第13回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録	3
第14回	観察データの処理	学外実習で得た観察データの分析とまとめ	3
第15回	観察結果の報告	グループ発表会と総括	3
第16回	行為者の内面を推測しながら行動観察する	画像・映像で場面・関係性・セリフを考える	3
第17回	行動をあえて外から観察する	簡単な物の操作を題材に、行動の分類や順序を考える	3
第18回	アイマスク実習	自分の行動を視覚以外の感覚でも捉える	3
第19回	映像と音声記録の基本	動画・音声の収録機器の紹介と使い方、フィールドでの収録方法とコツ	3
第20回	物の受け渡し行動を観察する	複数人のインタラクションを記述する第一歩	3
第21回	コミュニケーションの時空間構造を捉える	簡単な会話コミュニケーションの動画を撮影する	3
第22回	コミュニケーションの時空間構造を捉える	会話コミュニケーションの動画を分析する	3
第23回	学外フィールド実習への導入	「関与しながらの観察」とは何かを知る。ぶあつい記述とは何かについて知る。	3
第24回	学外フィールド実習 (事前学習1)	自分たちの学校外の時間、遊びの記憶から、放課後の体験の意義について学ぶ。	3
第25回	学外フィールド実習 (事前学習2)	子どもの映像から、子どもの心情をよみとるとともに、どのように関わるべきかについて学ぶ	3
第26回	学外フィールド実習 (フィールド・エント)	レクチャーをもとに、「放課後児童クラブ」の実際について学ぶ。	3
第27回	学外フィールド実習 (自然場面の記述)	放課後児童クラブでの参与観察 (1) : 現場をみわたす、現場になじむ	3
第28回	学外フィールド実習 (仮説検証しつつの観)	放課後児童クラブでの参与観察 (2) : 現場に働きかける	3
第29回	学外フィールド実習 (ぶあつい記述)	放課後児童クラブでの参与観察 (4) : 現場を記述する	3
第30回	学外フィールド実習 (レフレクション)	参与観察結果をもとにレフレクションを行い、体験を深める。	3

担当者から

授業実施計画の順番は変更される場合がある。  
原則として人間関係学科の学生の履修とする。他学部、他学科生については、履修前に担当教員に相談のこと。

講義名	心理学基礎						担当教員	谷口 友梨
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133LVD105, 134NUT106, 135PSY201							

#### 授業概要

現代心理学の基本的なテーマについて解説する。人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などのテーマをとりあげる。心理学的なアプローチにより人間を理解しようとするための基礎的な知識や考え方を身に着けることを目的とする。

#### 到達目標

- (1) 人の思考や行動、社会生活などを支える心の仕組みの基礎について理解を深める。
- (2) 人の心の仕組みを明らかにし、社会に活かそうとする科学的なアプローチについて理解を深める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。
レポート課題		
上記以外	30%	授業の内外で提出を求める課題によって、受講者なりの理解や問題設定ができているかを評価する。

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとり入れることがあるので、積極的な参加を求める。

#### 授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	心理学・入門 - 心理学はこんなに面白い - 改訂版	サトウタツヤ・渡邊芳之	有斐閣	9784641221383
2				
3				

授業中に講義資料を配布し、それを使用しながら授業を展開する。また、各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	心理学基礎						担当教員	谷口 友梨
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133LVD105, 134NUT106, 135PSY201							

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習 / 復習		
第1回	心理学とは	心理学の歴史や、領域・研究手法の多様性について学ぶ。			2	「心理学」とはどのような学問であ 次回授業までに、講義資料を通読	
第2回	感覚・知覚	人が外界からの刺激をどのように受け取っているかを学ぶ。			2	「感覚・知覚」について、参考書な 次回授業までに、講義資料を通読	
第3回	記憶	記憶に関わる諸現象と、それらの現象を支える心の仕組みについて学 ぶ。			2	「記憶」について、参考書など 次回授業までに、講義資料を通読	
第4回	情報処理の特徴	人間の情報処理の特徴について学ぶ。			2	「ATSMモデル」「スキーマ」につい 次回授業までに、講義資料を通読	
第5回	思考	人の推論、判断、意思決定の特徴について学ぶ。			2	「思考」について、参考書などを 次回授業までに、講義資料を通読	
第6回	学習	生物の行動の仕組みの基礎について学ぶ。			2	「学習」について、参考書などを 次回授業までに、講義資料を通読	
第7回	複雑な学習	生物の行動が経験を通じて変化する仕組みについて学ぶ。			2	「高次条件づけ」について、参考書 次回授業までに、講義資料を通読	
第8回	感情	感情が喚起される仕組みや、機能について学ぶ。			2	「感情」について、参考書などを 次回授業までに、講義資料を通読	
第9回	言語	人の言語活動を支える心の仕組みについて学ぶ。			2	「言語」について、参考書などを 次回授業までに、講義資料を通読	
第10回	人格（パーソナリティ）	人の個人差を記述し、理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。			2	「人格（パーソナリティ）」につい 次回授業までに、講義資料を通読	
第11回	環境と心	人の行動を決定する要因について学ぶ。			2	「アイヒマン実験」について、参考 次回授業までに、講義資料を通読	
第12回	集団・社会	集団・社会生活を行う中で生じる現象を理解しようとする心理学の試 みについて学ぶ。			2	「集団」について、参考書などを 次回授業までに、講義資料を通読	
第13回	発達	発達に伴って変化していく人の心の特徴について学ぶ			2	「発達」について、参考書などを 次回授業までに、講義資料を通読	
第14回	心理臨床	心の病理を理解し、治療に役立てようとする心理学の試みについて学 ぶ。			2	「心理臨床」について、参考書など 次回授業までに、講義資料を通読	
第15回	まとめ	講義で扱った様々な概念の関係性について俯瞰しつつ、発展的な学習 に向けた紹介を行う。			2	第1回～第14回までの講義資料につ これまでの講義資料の内容を通読	
担当者から							

講義名	生活経営論/						担当教員	山田 歩
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	333MKD282, 234NUT371, 335LAH308							

#### 授業概要

私たちを取りまく生活環境を学び、私たちの生活をよりよくマネジメントする力とそれらを改善する力を身につけます。授業の前半では、ソーシャルデザインの考え方を事例を通して学びます。後半では、実際に身の回りの生活課題を見つめ直すとともに、それらを解決するアイデアを自ら考えます。

#### 到達目標

1. 私たちを取りまく生活環境を理解したか
2. 生活者が抱える課題を発見し、それらを解決する力を身につけたか

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	社会や生活者が抱える課題を発見する力、また、それらを解決する力について評価する。
上記以外		

3回以上欠席した場合、評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アイデアは地球を救う。希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン	ソーシャルデザイン会議実行委員会	宣伝会議	
2	Communication Shift	並河進	羽鳥書店	
3	ソーシャルデザイン	グリーンズ	朝日出版社	

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	生活経営論/						担当教員	山田 歩
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	333MKD282, 234NUT371, 335LAH308							

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習 / 復習		
第1回	アイデアの作り方	ソーシャルデザインの発想法を解説			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第2回	環境	地球環境 消費社会			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第3回	環境	地球環境 消費社会			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第4回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第5回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第6回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第7回	健康	健康 悩み			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第8回	健康	健康 悩み			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第9回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第10回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策			2	下記指定文献を読み、事前知識を得 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第11回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する			2	自ら社会課題を見つけ、それを解決 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第12回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する			2	自ら社会課題を見つけ、それを解決 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第13回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する			2	自ら社会課題を見つけ、それを解決 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第14回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する			2	自ら社会課題を見つけ、それを解決 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
第15回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する			2	自ら社会課題を見つけ、それを解決 講義を踏まえ、発展的学習を行う。	2
担当者から							

講義名	生活と教育						担当教員	植田 一夫
講義コード	1401575	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	135EDU201							

#### 授業概要

生活と教育はどのように関係しているのだろうか。子どもにとって生活とは何か。新しい認識を得ることの中にどう位置づくのかなどを現場の教育実践や先行研究から考察し、自分たちの現在の生活と教育についても考察したい。

#### 到達目標

- ・生活とは何かについて見方を深める
- ・生活と教育はどのようにかかわっているのか理解する
- ・意見交流のなかで自分の意見を表現し、また、他者の異なる意見から自らの考えを深める

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	学期末レポート
上記以外	40	毎回の授業感想、議論への参加

5回以上欠席したら評価の対象としない

#### 授業外学習

授業内に課題を提示した場合は、各自取り組んだうえで次回授業に参加すること。また、授業内で関心をもった事柄については、自身で積極的に学習し発信してほしい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	学校ってボクらの力でかわるね	植田一夫	高文研	978-487498-754-4
2				
3				

教科書以外にも適宜資料を配布する

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料プリントを配布するほか、参考書も適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	生活と教育							担当教員	植田 一夫	
講義コード	1401575	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	135EDU201									

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習/復習				
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、授業の概要と進め方を説明し、班をつくる					2				
第2回	生活と教育の関係	自分たちの体験の中で生活と教育がどのように結びついていたのかを交流する					2				
第3回	生活とは何か	生活、くらしとはどのように捉えられてきたのかを先行研究などで明らかにする					2				
第4回	生活の捉え方をめぐる教育史	戦前を中心に生活がどのように捉えられてきたのかを明らかにする					2				
第5回	生活の捉え方をめぐる教育史	戦後を中心に生活がどのように捉えられてきたかを明らかにする					2				
第6回	生活と学習	小学3年生の算数・三角形の授業などを例に検討する					2				
第7回	生活と学習	小学4年生総合学習「菜の花畑から見えてくる世界」などを例に検討する					2				
第8回	生活と学習	小学3年生の社会科の実践を通して、地域に根ざすということについて検討する					2				
第9回	生活と学習	小学校6年生総合学習「フクシマとヒロシマ」などを例に検討する					2				
第10回	生活を指導するとは、生活が指導するとは、	生徒指導と生活指導で生活の捉えかたはどのような違いがあるのかを検討する					2				
第11回	生活と道徳教育	生活と道徳教育はどのような関係にあるのか「子どもの権利憲章」の実践を中心に検討する					2				
第12回	自分たちの生活と学習	自分たちの生活を分析し学習課題をつくり、授業に必要なデータや資料を収集する					2				
第13回	自分たちの生活と学習	収集したデータや資料からその意味するところを読み深める					2				
第14回	自分たちの生活と学習	簡単な指導略案を完成させる。					2				
第15回	まとめ	全体のまとめ					2				
担当者から											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・班を形成し、その班での意見交流や討議をもとにしながら授業を進めます。</li> <li>・受講生の理解度や関心によって内容や順序を変更することがあります。</li> </ul>											

講義名	生活法						担当教員	山中 稚菜
講義コード	1401710	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY312							

#### 授業概要

本講義では、市民生活を規律する最も重要なルールである民法、さらには民法を取り巻く様々なルールについても目を向けることにより、私たちの日常生活において起こりうる様々な民事紛争を予防・解決する方法を分析し、思考する力を身につけることを目指す。  
 具体的には、「車で人身事故を起こしてしまったら・・・」、「購入したパソコンが壊れていたら・・・」、「親が離婚したら・・・」、「祖父が亡くなったら・・・」といった様々な場面で起こりうる民事紛争について、どのような予防・解決ができるのかということ进行分析し、思考する。必要に合わせて、判例、学説についても取り上げることとする。

#### 到達目標

- (1) 民法の全体のしくみを理解する。
- (2) 民法・その他の法領域に関する基礎的な知識を習得する。
- (3) 具体的な問題の解決方法を分析・思考することを通して、多角的な視点から検討する力を養う。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民法の全体のしくみを理解しているか。</li> <li>・民法・その他の法領域に関する基礎的な知識を理解しているか。</li> <li>・解答の構成に論理性があるか。</li> </ul>
上記以外	40%	小テスト(第6回～第10回の内容について)を実施する。

#### 授業外学習

配布したレジュメなどを見返し、復習に力を入れること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書については、特に指定しない。詳細は初回の授業で説明する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジュメを配布する。参考書についても、詳細は初回の授業で説明する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	生活法							担当教員	山中 稚菜	
講義コード	1401710	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義			
ナンバリング番号	335PSY312									

授業計画										
回数	テーマ	概要		予習 / 復習						
第1回	イントロダクション	講義内容について説明する。日常生活に関わる法について考える。	90分	ニュースや新聞などを通じて、法律講義で用いたレジメを復習する。15 30						
第2回	民法とはなにか	民法の基本原則について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第3回	人 権利と義務、権利能力	権利と義務、権利者や義務者としての「人（権利能力）」について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第4回	人 意思能力と行為能力	取引行為者としての「人（意思能力と行為能力）」について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第5回	法律行為と意思表示	法律行為と意思表示について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第6回	小テスト（20分）、意思表示の瑕疵	第1回から5回までの小テストを20分で行う。心理留保、通謀虚偽表示、錯誤について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第7回	意思表示の瑕疵	詐欺、強迫について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第8回	代理	代理について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第9回	物権	物権の意義と種類、所有権などについて理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第10回	債権と契約	債権の意義、債務の不履行、さまざまな契約（売買・賃貸借・請負など）について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第11回	小テスト・不法行為	第6回から10回までの小テストを行う。不法行為について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第12回	婚姻	親族のしくみについて簡単に整理したうえで、婚姻（婚姻の成立、無効、取消し、婚姻の効力と夫婦財産制など）について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第13回	離婚	離婚（離婚原因、財産分与、嫡出子と嫡出子の否認など）について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第14回	相続	相続のしくみ（相続の開始、相続人、相続の効力、相続の承認・放棄、遺言など）について理解する。	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
第15回	民事救済手続について	実際に、民法、その他の民事実体法に規律されている権利関係や法律関係をめぐって民事紛争が生じた場合には、民事救済手続によること	90分	次回のテーマについて調べてくる。15 講義で用いたレジメを復習する。30						
担当者から										

講義名	政治経済学						担当教員	
講義コード	1401720	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335SOC305, 337ILA305							

#### 授業概要

経済のグローバル化が深まるなかで、格差の拡大や地球規模での環境問題が深刻化するなど、ひたすら豊かさを追い求め、経済成長を追い求めてきた私たちの経済活動のあり方を見つめ直してみようという問題意識も広がっています。本講義では、こうした問題意識を背景に、「市場経済システム」とはどのような特性を帯びた経済活動のあり方なのか、また「資本主義的経済システム」はどのような特性を帯びているのか、さらに豊かさを追い求めてきた「近代」という時代を見つめ直すとするばどのような点に注目してゆくことになるのだろうかといった問題を考察してゆきます。本講義では、経済学の授業に触れる機会はこの講義だけという受講生にも配慮して、現代経済学の主流派の考え方についてまず簡単に紹介します。そのうえで、政治経済学の特徴を明らかにしながら、資本主義的市場経済システムの特性をあらためて見つめ直そうとしたマルクスやJ.S.ミル、さらにセンやポランニーなどを参照しつつ、私たちが暮らしている経済のあり方が常識として見つけ直す、つまり「相対化」し、かつてJ.レノンが歌ったように柔軟に「想像力」を膨らませてゆく姿勢や力を培ってゆきたいと思えます。その結果、受講者が、ひとつの答えに満足するのではなく、むしろ複眼で、さまざまな視点から現代経済の課題をめぐって考える力、習慣を身につけてくれることを期待します。

#### 到達目標

- (1) 市場経済システムの特徴と、そうした特質ゆえの独自の運動のあり方について知識や理解力を培う。
- (2) 資本主義経済システムについて、人間にとって労働が持つ意味、「豊かな」社会、格差の世代間固定化傾向が孕む問題点という3つの側面から知識や理解力を培う。
- (3) 現代資本主義について、グローバル化や情報社会化がもたらしているもの、及び環境問題について持つべき視点をめぐって知識や理解力を培う。
- (4) 上記の(1)～(3)を通じて、その世界に暮らすことで当然のことと常識化してしまっている事柄について、あらためて複眼で、多様な視点から見つめ直し、柔軟に想像力を膨らませて、現代社会が直面する問題の解決に向けて回答を模索する力を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

授業の際に、4,5回復習のためのミニレポートを課します。成績評価に加えますので、しっかり提出してください。また、時間の制約によって直接に授業の中で触れることは難しいと思いますが、下記の参考書の中で授業中に指示する箇所については興味深い記述が含まれていますので、そ

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代経済学史の射程	長尾伸一ほか	ミネルヴァ書房	9784623084371
2	おいしいコーヒーの経済論	辻村英之	太田出版	9784778313074
3				

教科書は使いませんので、各回の要点を短くまとめたプリント(パワーポイントスライドなど)を配布します。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	政治経済学						担当教員	
講義コード	1401720	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335SOC305, 3371LA305							

授業計画							
回数	テーマ	概要				予習/復習	
第1回	政治経済学と現代社会	授業概要で記したように現代社会はさまざまな重要課題を抱えており、私たちが当たり前と思っている経済の営み方もついちど冷静に					
第2回	現代経済学主流派の考え方	現代経済学の基礎は、19世紀後半L.ワルラスらの限界革命によって築かれました。この考え方が「経済」をどのような営みと捉えていたのか					
第3回	市場経済制度の歴史的相対化	K.ポランニー説を参照しつつ、近代以前の社会における経済の営み方について学習し、長い人類史のなかでは市場経済制度やそれに照応し					
第4回	市場経済システム論(1)	私たちがその存在を当然のものと思っている「貨幣」について、なぜそうしたものが必要とされるのかという根源に遡って見つめ直しま					
第5回	市場経済システム論(2)	前回の講義で学んだような市場経済システムの本質を前提としたとき、需要と供給のバランスはどのようにして実現されていくのか、そ					
第6回	市場経済システム論(3)	市場経済システムが、私的所有者による社会の形成というその本質ゆえに、一方で経済の活力を引き出すと同時に、他方で浪費や外部不経					
第7回	資本主義経済システム論(1)	市場経済システムの本質が生み出した「貨幣」という特権物は、やがて増殖することを自己目的とする「資本」を生み出すことについて学					
第8回	資本主義経済システム論(2)	私たちは、誰かに雇われて暮らしを立てることを当たり前とみなしていますが、そのように誰かに雇用され、その管理の下で働くこと、あ					
第9回	資本主義経済システム論(3)	人間にとって労働はいかなる意味をもつ営みであるのかという前回の考察を踏まえて、通説とは異なる側面から日本の経営の特徴について					
第10回	資本主義経済システム論(4)	誰かの管理の下で働く人々の意欲を高めるための一つの方法が、賃金で報いるということだったわけですが、それがもたらした「豊かな」					
第11回	資本主義経済システム論(5)	社会の中でどのような位置を占めることになるのかという社会関係の再生産という観点から、資本主義経済システムについて学びます。ま					
第12回	現代資本主義論(1)	経済のグローバル化が何をもたらしているのかという観点から、非正規労働者の著増という現代経済・社会の状況について学びます。ま					
第13回	現代資本主義論(2)	現代資本主義のもう一つの特徴である「情報社会」化について、そもそもICTの発達は経済にとってどんなことを意味するのかに遡って考					
第14回	現代資本主義論(3)	環境問題をどのように解決してゆくかの原点について今なお示唆深い、水俣病をめぐる石田雄、石牟礼道子、緒方正人の三氏の考えを紹					
第15回	講義全体のまとめ	本講義を通じてどのような問題を明らかにしようとしてきたか、またそのことを通じて、現代社会が抱える課題について考えるために受講					
担当者から							

講義名	卒業研究・論文（人間関係）						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 / 高梨 克也 /
講義コード	1401822	単位数	4	開講期	前期研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号	435HUR402							

#### 授業概要

「人間関係論演習I～III」での指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題を、所定の様式の卒業論文を完成させる。

#### 到達目標

卒業論文を完成させ提出すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	卒業論文構想発表と卒業論文中間発表の内容、提出された卒業論文の内容、および、口頭試問と卒業論文発表会での状況を総合して合否を評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	卒業研究・論文（人間関係）						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 / 高梨 克也 /
講義コード	1401824	単位数	4	開講期	後期研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号	435HUR404							

#### 授業概要

「人間関係論演習I～III」での指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題を、所定の様式の卒業論文を完成させる。

#### 到達目標

卒業論文を完成させ提出すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	卒業論文構想発表と卒業論文中間発表の内容、提出された卒業論文の内容、および、口頭試問と卒業論文発表会での状況を総合して可否を評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	社会運動論						担当教員	大野 光明
講義コード	1401875	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C312							

#### 授業概要

現代社会には戦争、貧困、気候変動、差別などさまざまな問題があります。社会運動は現代社会の問題を指摘し、解決し、よりよい社会をつくりつけてきました。ウクライナでの戦争をめぐって世界各地で反戦運動が広がりをみせています。みなさんのなかには社会運動を「危ないもの」や「近寄りたくないもの」といったイメージや先入観をもっている人もいるかもしれません。しかし、たとえば、グreta・トゥーンベリのたった一人の行動から始まった気候変動学校ストライキが全世界に広がっていったように、みなさんと同世代の人たちがこの世界では活発に運動をつくり、世の中を変えようと努力しています。

もうすこし身近なことにひきつけてみましょう。今年度から本学では履修登録制度の変更がなされました。前期授業開始前に通年すべての履修登録を受け付けたあと、これまで認められてきた登録科目の追加・変更を原則認めないというものです。学生に深刻な不利益が生じるであろう制度変更に対して、怒り、説明を求め、改善を要求し、アンケートや署名を集める行動がもしも起きるならば、それを社会運動と呼ぶことができます。こう考えると、自分の生きるコミュニティをよいものにしようと考えたとき、案外、社会運動は身近なものかもしれません。

この授業では社会運動というレンズをつうじて、現代社会をとらえかえすことを目指します。また、社会運動とはどのようなものなのか、何をつくってきたのか、そして、人々はなぜ・どのように社会運動に取り組むのかについて考え、社会運動の歴史・現在と基本的な理論や概念を学ぶこととします。

授業では映像や音楽なども参照し、COVID-19感染状況にもよりますが実践家を招いたゲスト講義を行うなど、できるかぎり人々の生の声と現場の

#### 到達目標

- (1) 社会運動に関する基本的な理論、概念、歴史を理解できるようになる。
- (2) 具体的な社会運動について理解を深めるなかで、現代社会の問題や矛盾について、自らの暮らしにひきつけた形で分析できるようになる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	期末にレポートを提出してもらいます。授業内容をふまえ、学んだ理論や概念を的確に使いこなしているか、論理的な論述となっているか、などを評価基準とします。詳細は授業中に示します。
上記以外	50	毎回コメントシートを提出してもらいます。その提出回数と内容を評価対象とします。詳細は授業中に示します。

#### 授業外学習

授業中に配布・参照した資料、新聞記事、映像、音楽などをふりかえり、自分の考えを整理する時間をできるかぎりつくとよいと思います。また、授業で学んだことをふまえて、現在進行形の出来事やニュースに触れ、考えたり行動する機会をつくることで学びを深めてほしいと思います。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、授業中に必要な資料を配ります。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	社会運動の社会学	大畑裕嗣ほか	有斐閣	978-4641280922
2	占領と平和 “戦後” という経験	道場親信	青土社	978-4791761791
3	社会運動の現在——市民社会の声	長谷川公一（編）	有斐閣	978-4641174535

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	哲学概論 A						担当教員	鞍田 崇
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	2300TH202, 235LAH301							

#### 授業概要

これからのあるべき社会の姿をデザインするにはどうすればよいか。

この授業ではその道筋を、「哲学的に」考えていきます。でも、この課題は、じつは、従来通りの哲学だけでは担いきれません。デザインや建築、工芸や農業、コミュニティ再生など、さまざまな分野の連携があってはじめて可能となるものです。この授業ではそうした関連ジャンルの現在進行形の動きを適宜参照しつつ、来るべき社会に向けての構想力・判断力を培うことをめざします。

ところで、ここでいう「社会」とは、自分たちが生活をいとなむ社会です。「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」を考える上で、何よりも大事なのは、「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。この講義では、何よりもまず、そうした実感を皆さんと共有していきたいと考えています。

いまではコロナ禍を受けた現状もふまえないければならないでしょう。というか、それによりますます社会は変わらなければいけない状況にいたったというべきでしょう。決して悲観的にならず、可能性に満ちた未来を開くすべと一緒に探っていくにはどうすればよいか それを考え形にしていく能力としての「哲学すること」=「デザインすること」を培うこと、本講義の最終的な目標はそこにあります。

#### 到達目標

1. 自分の頭で考えるとはどういうことか、その実際を実感すること。
2. 社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。
3. 身近な日常生活の中に本当の創造性のきっかけをつかむこと。
4. 現代社会で問われていることの思想的意味と歴史的背景を理解すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	最終レポート 40% 授業内小レポート(3回) 60%
上記以外		

#### 授業外学習

参考事例として掲げたものは、適宜自分でも調べるように。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝の「インティマシー」	鞍田崇	明治大学出版会	978-4-906811-13-7
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝 のレッスン	鞍田崇(編)	フィルムアート社	4845911833
2	「生活工芸」の時代	三谷龍二(編)	新潮社	4103365315
3	哲学入門以前	川原栄峰	南窓社	4816500545

#### 前提学力等

哲学概論ですが、狭義の哲学・思想だけが対象ではありません。デザインやアート、建築や工芸、農業や民俗などなど、ひろく柔軟な興味関心をもっていることがのぞましいです。そうじゃない人は、この機会に

#### 履修資格



講義名	哲学概論 B							担当教員	
講義コード	1402250	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義		
ナンバリング番号	2300TH203, 235LAH302								

#### 授業概要

哲学の意義と面白さをわかるには、その古典に触れてみるのが有用です。この授業では、哲学の古典の可能な限り易しい紹介と批評を読んで議論することを通じて、哲学の様々なトピックと議論について考える基礎を作ります。

#### 到達目標

講義で扱う哲学者たちの基本的動機、概念、主張、それを支える方法と証拠、彼らに対する批判を理解し、彼らが扱う哲学的問題について考えるための基礎力をつける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

授業計画で提示された古典を邦訳でよいので読んでみることをお勧めします。そちらが難しければ、参考書の方を先にひも解いてみてください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門 哲学の名著	ナイジェル・ウォーパートン	ナカニシヤ出版	4888489033
2	西洋哲学史 1・2・3	パートランド・ラッセル	みすず書房	
3	道徳の哲学者たち	リチャード・ノーマン	ナカニシヤ出版	4888486352

#### 前提学力等

--

#### 履修資格

--



講義名	統計学基礎						担当教員	高梨 克也
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203							

#### 授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、実用的な統計は数式を意識しなくても気軽に扱えるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから分析を始めればいいのかとまどう人が多い。あるいは、データをとってしまってから、データのとり方について後悔することもある。実はこうした問題はたとえ数式を暗記していても解決しない。では、そもそもなぜそのデータに対して統計的分析を行なう必要があるのか。そのデータにはどんな性質があり、どのような手法を用いるべきか。どんな手法を使うとどんな結果を得ることができるのか。本講義では、これらの疑問点を意識しながら、統計学の基本的な考え方や概念から出発して、推定や検定といった、多く用いられる統計学の手法の考え方の基礎を理解するところまで到達することを旨とする。

#### 注意

定員は原則150名までとする。定員を超える受講希望者があった場合には、抽選により受講者の選考を行う（前年度の受講登録者数は143名だったので、必ず抽選になるとは限らない）  
 抽選の場合、科目の性質上、学年の若い学生（特に1年生）と社会調査士資格取得希望者を優先する。  
 一部の登録者には新入生の受講登録締切後すぐの時期にメールで連絡する可能性があるため、メールに注意しておくこと。  
 抽選が行われた場合、選考結果は4/22(金)までに掲示、並びに、USPに掲載するとともに、抽選に外れた学生にはメールでも個別に連絡する。

#### 到達目標

- (1) 記述統計の基本的な使い方を習得する。
- (2) 母集団と標本の概念を理解する。
- (3) 推定と検定の基本的な考え方や手順を身に付ける。
- (4) 日常生活で用いられる統計学的な考え方に興味を持ち、検証する態度を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100%	小テストまたはレポート（随時）：各回で扱った統計学的知識を理解できているかを問う。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	統計学わかりません!!	五十嵐中・佐條麻里	東京図書	978-4489023392
2	統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方	白井祐浩	創元社	978-4422116259
3	よくわかる心理統計	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	978-4623039999

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	日本社会論						担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130SOC101-C, 235SOC303-C							

#### 授業概要

インターネットやテレビで、人々が何らかの問題について議論をたたかかせている様子を見たことはないだろうか。たとえば、死刑は存置すべきか廃止すべきか、体罰はどこからどこまでが体罰なのか、いじめといじりの違いは何かといったことについて、人々はときに意見や感情をぶつけあう。ときには、そうした問題について、自分がどう考えているのかわかることもある。そのとき、「人それぞれだよ」といって話を終わらせることがあるかもしれない。しかし、はたしてそれでよいのだろうか。

本講義は、日本社会とは何かについて、日本社会が直面している様々な問題の検討を通じて考察することを目的とする。具体的には、教育現場、治安、刑罰、差別、労働などを社会学の視点から検討する。その際に重視するのが、歴史的な文脈と社会的な文脈である。現在の問題を理解するためには、過去を知る必要がある。つまり、本講義には日本近現代史としての側面もある。

本講義を通じて学んだことをふまえ、日本社会が直面している様々な問題について、自分とは異なる意見についても検討したうえで、自分の考えを根拠とともに述べるができるようになることを目指す。

#### 到達目標

- (1)日本社会が直面している様々な問題について、歴史的な文脈や社会的な文脈をふまえて分析するための視点を身につけることができるようになる。
- (2)本授業で取り上げたトピックを通じて、日本社会の特徴を社会的に説明することができるようになる。
- (3)日本社会が直面している様々な問題について、自分とは異なる意見についても検討したうえで、自分の意見をデータに基づいて述べるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	各到達目標に基づいて、期末レポートで評価する。 (1)日本社会が直面している様々な問題について、歴史的な文脈や社会的な文脈をふまえて分析するための視点を身につけることができるようになる。(20%)
上記以外	30	毎回のレスポンスペーパーで、次回扱うトピックや、その回の授業で学んだトピックについて記述してもらう。そのペーパーを0~2点で評価する。

10回以上の授業に出席して、各回のレスポンスペーパーを提出した者のみを成績評価の対象とする。

#### 授業外学習

- (1) 授業内容の予習  
・次の回で扱うトピックについて調べる。具体的には、関連する文献を読む、インターネットで調べるなどを行なうこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内で適宜指示する。

#### 前提学力等

近現代の日本史について、高校教科書程度の知識があることが望ましい(必須ではない)。

#### 履修資格





講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 / 高梨 克也 /
講義コード	1402460	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号	335HUR301							

#### 授業概要

各教員ごとに分かれて、人間関係論のそれぞれの分野に関する既存の成果を概観するとともに、卒業研究のテーマの探求に向けての論文講読、準備、予備的な作業等を行う。

授業履修にあたっては、4月中旬におこなわれる卒業論文の構想発表、10月下旬におこなわれる中間発表、翌年2月下旬に行われる卒業論文発表会への参加を強く推奨する。

#### 到達目標

卒業論文のテーマを決める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポートを総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 / 高梨 克也 /
講義コード	1402471	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	435HUR401							

#### 授業概要

「人間関係論」のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な資料を収集し、分析する。

#### 到達目標

卒業論文の執筆に必要な知識とスキルを習得すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 / 高梨 克也 /
講義コード	1402475	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	435HUR403							

#### 授業概要

「人間関係論」のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な資料を収集し、分析する。

#### 到達目標

卒業論文の執筆に必要な知識とスキルを習得すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間関係論基礎演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 / 高梨 克也 /
講義コード	1402481	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	135HUR101							

#### 授業概要

人間関係論への心理学・社会学・教育学のアプローチの基礎を学ぶ。各領域について、その内容と広がり、方法論の基礎を、講義、関連する入門書や基本文献の輪読、初歩的な実験やフィールドワーク、ディスカッション、ディベートなどを通じて学び、人間関係論への関心と理解を深める。

#### 到達目標

人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各アプローチの基本的な視角・方法・知識を習得し、あわせて人間関係研究に必要なアカデミックスキルの基礎を身につける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	最終レポート
上記以外	60	各教員が指示するリアクションペーパーおよび小レポート

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	人間形成論 A						担当教員	
講義コード	1402501	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	235EDU302							

#### 授業概要

現代社会には、貧困や格差、環境破壊や人権侵害など、世界中の国々や人々が協力しなければ解決することが難しい多くの問題（「地球的諸問題」と呼ばれる）が存在している。こうした状況を背景として、「持続可能な開発目標（SDGs）」が提起され、その達成に向けた様々な取り組みが進められている。

そうした中で、地球的諸問題の解決に向けて自ら考え、判断し、行動することのできる市民を育成することが、学校内外の教育活動において取り組むべき重要な課題の1つとなっている。本講義では、こうした課題に取り組む教育活動の1つである「持続可能な開発のための教育（ESD）」に焦点をあてて、ESDの概要や関連する議論について理解するとともに、自分なりのより良い実践のあり方を提案し、それを互いに検討し合うことで改善する機会を提供することをめざす。

#### 到達目標

- (1) ESDの概要と実践上の要点を説明することができるようになること。
- (2) ESDに関する多様な議論や実践事例を知るとともに、それらについての自分なりの考えを持ち、表現することができるようになること。
- (3) 自分なりのESDの実践プランを提案できるようになること。
- (4) 各自が提案した実践プランを検討し合い、改善できるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

まとめのレポートの提出がない場合には、単位認定は行わない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、必要なプリント等を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 - 開発教育研究の継承と新たな展開	木村裕	東信堂	978-4798912202
2	子どもの幸せを実現する学力と学校 オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・韓国・中	木村裕、竹川慎哉編著	学事出版	978-4761925147
3				

その他の参考書等については、適宜、講義中に紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間形成論 B						担当教員	植田 一夫
講義コード	1402502	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	235EDU303							

#### 授業概要

本授業では、子どもの人権と権利をめぐる現代的課題について、受講生の原体験や先行研究等をふまえながら具体的実践を検討することを通じて、子どもの人権と権利についての理解を深めることを目指す。

#### 到達目標

歴史的視点ならびに事実をふまえて現実の教育課題を理解することができる。  
 子どもの権利および人権について正しく認識し、人権尊重の観点から考察することができる。  
 関連文献および資料を収集して内容を系統的に把握し、論点を整理することができる。  
 講義内容や議論を通じて、自らの視点や考えを説明することができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	レポート課題
上記以外	40	毎回の授業感想と授業への参加

最終レポートと感想、授業中の作業課題、議論への参加などの取り組みをもとに総合的に判断する。  
 なお、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

本授業で取り上げるテーマに関するニュースや新聞、論説などを収集すること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	学校ってボクらの力で変わるね	植田一夫	高文研	978-487498-754-4
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書・参考資料については、授業中に適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間行動論						担当教員	高梨 克也
講義コード	1402530	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	134NUT212, 135PSY202							

#### 授業概要

「行動」は誰もが何となくは知っており、また、この言葉の正確な意味を説明できなくても日常的に誰もがやっているものであるが、逆に、学術的に正確に捉えるのは難しい。そこで、この授業では、「行動」を「動作」「行為」「活動」という3つのレベルに分けて順に説明していくことを通じて、人間行動のもつ多面性を体系的かつ具体的に理解できるようになることを目指す。「行動」とはどのようなものであるかを理解するのに、心理学や社会学だけでなく、哲学や言語学、経済学、生物学などのさまざまな分野の考え方が役に立つということを体感してほしい。

#### 到達目標

- (1) われわれの誰もが日常的に行っている「行動」が「動作」「行為」「活動」といった複数の異なるレベルにわたる多面的な現象であることを理解する。  
(2) 動作、行為、活動という行動の3つのレベルのそれぞれの特徴を正しく説明できる。  
(3) 実際の具体的な行動の事例について、3つのレベルを組み合わせながら記述できる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	40	全回の講義内容を理解しているかを問う。各受講生ごとに異なる「気づき」を重視した課題により評価を行う。
上記以外	60	授業中のグループ学習や毎回のレスポンスペーパーの内容を評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に随時紹介する。

#### 前提学力等

特になし。

#### 履修資格



講義名	人間文化論 A						担当教員	中井 直也 / 印南 比呂志 / 森下 あおい / 京樂 真帆子 / 福渡 努 / 松嶋 秀明 / 佐々木 一泰 / 上野 有理 / 中村 好孝 /
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	133LVD102, 134NUT102, 135LAH2011, 37BAC102							

#### 授業概要

2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。そこで掲げられたのが「持続可能な開発目標（SDGs）」である。「誰一人取り残さない」社会の実現のため、17の目標を設定し2030年に向けて実行することが宣言された。

本講義では、このSDGsをキーワードとし、人間文化学部を構成する5学科（地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科）に所属する専門領域の異なる教員同士の対談や、学科を超えた学生同士の議論等を行う。これらの取り組みを通して、自身の専門とする学問領域と他の学問領域との関連性や相違点を確認しながら、自身の専門とする学問領域の独自性や可能性を探りつつ、総合的かつ多角的な視野から「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて考察を深める機会を提供する。

#### 到達目標

- (1) 自身の専門とする学問領域と他の学問領域との関連性と相違点を検討することができる。
- (2) 自身の専門とする学問領域の独自性や可能性を探ることができる。
- (3) 総合的かつ多角的な視野から「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて考察することができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	35	ワークショップ課題（詳細については講義中に説明する）
上記以外	65	講義中に提出するレスポンスペーパー（詳細については各回の担当教員より説明する）

追加の情報等がある場合には講義中に説明するので、必ず確認すること。

#### 授業外学習

特にワークショップ関連の予習・復習にしっかり取り組むこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要な資料を授業中に配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	人間文化論B						担当教員	櫻井 悟史 / John Rippey / 木村 可奈子 / 高木 純一 / 未定*
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103							

#### 授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」  
文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

#### 到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	ミニレポートもしくは小テストに対する採点
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

その都度、紹介する

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	人間文化論B						担当教員	櫻井 悟史 / John Rippey / 木村 可奈子 / 高木 純一 / 未定*		
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	漢字と東アジア世界	日本人にとっては日々当たり前を使う漢字。中国で生まれたこの表意文字は長く東アジア世界の共通の書き言葉であり、異なる言葉を母語	2	漢字が使われたことがある国を調べ 今回の授業内容を復習する。
第2回	朝鮮通信使	江戸時代の朝鮮通信使と日本人の交流や、通信使来日によって起きた朝鮮ブームで生み出されたモノや影響について見ていく。(木村可奈)	2	朝鮮通信使について概要を調べる。 今回の授業内容を復習する。
第3回	交流と「情」	今より国外への旅が容易ではない時代、異国の人々との別れに際し人々は「どのように」感情を現したのだろうか。感情の表し方から見	2	自分が旅先で出会った人との別れに 今回の授業内容を復習する。
第4回	コミュニケーションの社会学(1)友人関係	現代日本社会における友人関係について、社会学の視点から取り上げる。(櫻井悟史)	2	・自身の友人関係について考察して ・講義内容を自分の言葉でまとめな
第5回	コミュニケーションの社会学(2)恋愛	現代日本社会における恋愛について、社会学の視点から取り上げる。(櫻井悟史)	2	・講義の終わりに次の回で扱うト ・講義内容を自分の言葉でまとめな
第6回	コミュニケーションの社会学(3)メディア・	現代日本社会におけるメディア・コミュニケーションについて、社会学の視点から取り上げる。特にSNSやネット炎上を扱う。(櫻井悟)	2	・講義の終わりに次の回で扱うト ・講義内容を自分の言葉でまとめな
第7回	「異文化交流」としての日本中世史	数百年前の「日本人」は、私たち現代の「日本人」とはまったく異なる価値観・世界観を持ち、まったく異なる社会を作り上げていた。彼	2	事前に指定する文献を熟読する。 講義内容をノート等にまとめる。
第8回	宣教師の見た戦国日本	時は大航海時代。日本には多くの宣教師たちが渡来し新たな文物をもたらした。宣教師と日本人との「文化交流」や、宣教師たちが戦国日	2	事前に配布する文献を熟読する。 講義内容をノート等にまとめる。
第9回	流浪の公家が見た戦国社会	戦国時代になると、貴族たちは荒廃した都を離れて列島を流浪した。各地の戦国大名や民衆との「文化交流」や、貴族たちが彼らに対して	2	事前に配布する文献を熟読する。 講義内容をノート等にまとめる。
第10回	日米詩比較(1)	Let's read and share our impressions of traditional Japanese winter haiku, and translate them into English. (John Rippey)	2	Consider haiku which you are Review the learning materials
第11回	日米詩比較(2)	Let's read and share our impressions of well-known English poems of winter, and translate them into Japanese. (John	2	Consider English poems which you Review the learning materials
第12回	日米詩比較(3)	Let's write and share our own original poetry of winter! (John Rippey)	2	Consider and begin writing two Review the learning materials
第13回	言語と言語学(1)	人間のコミュニケーションについて学んで考えます。(吉田悦子)	2	
第14回	言語と言語学(2)	人間のコミュニケーションについて学んで考えます。(吉田悦子)	2	
第15回	言語と言語学(3)	人間のコミュニケーションについて学んで考えます。(吉田悦子)	2	

担当者から

講義名	人間文化論 C						担当教員	宮本 雅子 / 松嶋 秀明 / 中村 好孝 / 遠藤 弘史 / 横田 尚美 / 未定 *
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203							

#### 授業概要

人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題について考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。  
この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を取りあげながら、健康を維持・増進するための食生活について5回講義する(生活栄養学科教員)。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになるとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。

#### 到達目標

(宮本・横田)(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。  
(生活栄養学科教員) 現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を踏まえ、健康を維持・増進するための食生活について理解することができる。  
(松嶋・中村)(1)家族をみるための視点を身につけることができる。(2)現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。  
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	人間文化論C						担当教員	宮本 雅子 / 松嶋 秀明 / 中村 好孝 / 遠藤 弘史 / 横田 尚美 / 未定 *			
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講				
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203										

授業計画

回数	テーマ	概要	2	予習/復習
第1回	日本の住まい	日本の住宅について概観する。	2	授業の内容について事前に調べる。1 授業を振り返り、疑問に思った点や2
第2回	超高齢社会における住環境	超高齢社会における日本の住宅問題について考えるきっかけとする。	2	授業の内容について事前に調べる。1 授業を振り返り、疑問に思った点や2
第3回	日本のあかり	日本のあかりの歴史について概観し、現代の照明環境について考える。	2	授業の内容について事前に調べる。1 授業を振り返り、疑問に思った点や5
第4回	ファッション産業をとりまく環境	毎日からだに身につける服がどのような環境で作られているのか、より広い視野で衣服と環境について考える。	2	自分や家族のワードローブの素材を2 授業で取り上げた企業について、2
第5回	ファッション消費環境	衣服は最もからだに近い環境である。その視点から、服と人間とのかかわりについての問題点を考える。	2	自分が履いている靴の大きさを比べ2 衿付きのシャツとアイロンを用意し2
第6回	「食と健康」の歴史を追う	昔から現在への食事の移り変わり、それに伴う健康との関連について栄養調査や疫学研究の結果を用いて解説する。	2	講義内容について疑問に思ったこと4
第7回	食べ物と薬	食べ物と薬は、私たちの健康の維持、病気の予防や治療に重要な役割を果たしているが、食事が薬の効果や安全性にどのような影響を与える	2	講義内容について疑問に思ったこと4
第8回	食と栄養とサイエンス	毎日の「食べる」と学問としての「栄養学」そして「サイエンス」について、身近な話題を取り上げながら概説する。	2	講義内容について疑問に思ったこと4
第9回	健康を維持増進するための時間栄養学	生活習慣病予防のために、体内時計を考慮して『いつ』何をどのように食べるかについて解説する。	2	講義内容について疑問に思ったこと4
第10回	腸内細菌と健康の関わりについて	私たちの腸内に共生しているさまざまな微生物と健康との関連について、最新の研究結果を含めて解説する。	2	講義内容について疑問に思ったこと4
第11回	家族のなりたちと人間の心理	進化心理学、あるいは文化心理学の観点から、人間の家族のもつ特殊性、家族の成立する要件などについて外観する。また、そのことが食	2	家族のイメージについて考える 1 授業内容をふりかえり、具体的な問 3
第12回	家族を形成する心理	恋愛から結婚、出産というライフイベントを人はどのように経験し、のりこえていくのか。そこに心理学的にどのような問題が生じていく	2	恋愛から結婚にいたる過程に関し 1 授業内容をふまえて、具体的な問題 3
第13回	家族を維持する心理	出産、育児と、仕事との両立、あるいは父親の育児参加といった問題について、家族心理学的観点から述べる。	2	仕事と家庭生活の両立過程に関し 1 授業内容をふまえて、具体的な問題 3
第14回	家族関係の歪みをもたらすもの	家族をいとなんでいくうえで遭遇する障害や病理、具体的には愛着の問題、産後うつ、思春期の不適応などについて述べる	2	いわゆる家族病理ともいふべき問 1 授業内容をふまえて、具体的な問題 3
第15回	家族関係の社会学	家族関係が社会関係により、いかに相互に影響されあっているのかについて、社会学的観点から述べる。	2	家族の中にも力の強い人や弱い人が 1 授業で学んだ視点を整理して、身の 2
担当者から				

講義名	認知心理学						担当教員	上野 有理
講義コード	1402570	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY301							

#### 授業概要

私たち人間は、実に複雑な行動をする。授業では、人間のさまざまな行動や心の働きを科学的に読み解く視点を紹介する。実際の人間の行動や、他の動物の行動を例にあげ、行動や心の働くしくみについて理解を深めることを目指す。

#### 到達目標

- (1) 情報処理システムとして人間を理解する視点を身につける。
- (2) 認知心理学の主な研究手法である実験心理学的手法を理解する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	定期試験にて、(1)を30%、(2)を30%評価する。
レポート課題	40	レポート課題(レスポンスペーパーを含む)にて、(1)を40%評価する。
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	発達支援論（人間関係）						担当教員	水野 友有 / 原 未来 / 鎌田 ユリ / 川崎 敦子
講義コード	1402609	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	235HUR201							

#### 授業概要

乳児期から青年期までの発達支援のあり方について、理論や研究、実践例などから具体的に考える。

#### 到達目標

それぞれの発達段階に応じた支援の理論・実践について理解し、今後のあり方を展望することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	各領域の担当者が示す課題 乳幼児期（33%）、学童期（33%）、青年期（33%）

#### 授業外学習

各領域の担当者が適宜指示をおこなう。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。授業中に、適宜必要な資料を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	発達心理学						担当教員	
講義コード	1402615	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	235PSY302							

#### 授業概要

私たち人間の子どもは、他の動物に比べ未熟な状態で生まれてくる。しかし子どもは全く無力な存在ではなく、さまざまな認知機能に支えられて外界の物や人と関わり、学び、発達していく。授業では、とくに乳幼児期に焦点をあて、子どもの認知発達を紹介する。ときに大人とは異なる、子どもの行動や心の働きについて、理解を深めることを目指す。

#### 到達目標

- (1) 乳幼児を対象とした心理学研究の手法を理解する。
- (2) 乳幼児期の認知発達とそのしくみを理解する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

#### 履修資格



講義名	比較認知発達論						担当教員	
講義コード	1402690	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	235PSY301							

#### 授業概要

人間の知性はどのように進化してきたのか。なぜそのような進化が生じたのか。チンパンジーやニホンザルなど、人間を含めた霊長類の行動や認知の発達を比較する研究を紹介し、人間の発達と進化について論じる。

#### 到達目標

- (1) 比較認知研究の手法を理解する。  
(2) 生物進化の視点から人間の知性の発達を理解し、人間が育つ社会・文化のあり方を考える。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

適宜実施する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

#### 履修資格



講義名	文化社会学						担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230S0C201, 235S0C304							

#### 授業概要

われわれは日常を生きる中で、何気なく音楽を聴いたり、服を選んだり、観光に出かけたり、マンガやアニメを楽しんだりしている。そうした現在では「当たり前」にあると思えるような文化は、ある日突然生まれたわけではなく、長い歴史の中で育まれてきたものであり、かつ、同時代の他の文化との影響関係の中で形成されてきたものでもある。本講義では文化社会学の観点から、こうした身近にある様々な文化を言語化し、そこから社会の変容をとらえることを目的とする。

#### 到達目標

- (1) 身近にある様々な文化を文化社会学の理論を用いて言語化できるようになる。
- (2) 身近にある様々な文化について、歴史的な文脈と社会的な文脈をふまえて説明できるようになる。
- (3) 身近にある様々な文化について、自身の関心に沿って調査し、考察することができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	各到達目標に基づいて、期末レポートで評価する。 (1) 身近にある様々な文化を文化社会学の理論を用いて言語化できるようになる。(20%) (2) 身近にある様々な文化について、歴史的な文脈と社会的な文脈をふまえて説明できるようになる。(20%)
上記以外	30	毎回のレスポンスペーパーで、次回扱うトピックや、その回の授業で学んだトピックについて記述してもらう。そのペーパーを0~2点で評価する。

10回以上の授業に出席して、各回のレスポンスペーパーを提出した者のみを成績評価の対象とする。

#### 授業外学習

- (1) 授業内容の予習  
・ 次の回で扱うトピックについて調べる。具体的には、関連する文献を読む、インターネットで調べるなどを行なうこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジメを配布する。適宜、映像資料等の視聴覚教材も用いる。

#### 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

#### 履修資格



講義名	マーケティング論						担当教員	山田 歩
講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133MKD181,335LAH307							

#### 授業概要

どんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんな場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるように、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

#### 到達目標

企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	マーケティングの考え方を理解できたか
レポート課題	50	宣伝会議賞(25) 授業課題(25)
上記以外		

3回以上欠席した場合、評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	1からのマーケティング 第4版	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	1からのデジタル・マーケティング	西川英彦・澁谷寛	碩学舎	
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	量的データ解析論						担当教員	丸山 真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	230S0C206, 235S0C204							

#### 授業概要

この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。あわせて表計算ソフトExcelや統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計学に関する理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。

#### 到達目標

- (1) 社会統計のデータを整理・分析する基礎知識（記述統計と推測統計の基礎）の習得。
- (2) 表計算ソフトExcelや統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	最終レポート（30点：到達目標(1)15点、(2)15点）
上記以外	70	授業中に指示する小課題（70点：到達目標(1)35点、(2)35点）

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会統計学	ポーンシュテット・ノーキ	ハーベスト社	
2	社会統計学ベーシック	片瀬一男ほか	ミネルヴァ書房	
3	SPSSによる多変量解析	村瀬洋一ほか編	オーム社	

参考書は授業の中で指示する。

#### 前提学力等

「統計学基礎」が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は事前に相談すること。

#### 履修資格



講義名	量的データ解析論						担当教員	岡本 裕介
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	授	
ナンバリング番号	230S0C207, 335S0C311							

#### 授業概要

人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げ、各手法の基本的な考え方、計算の概要、統計処理ソフトの出力の見方、誤用を避けるための注意点、研究事例、歴史について述べる。

#### 到達目標

- (1)各手法の基本的な考え方を身に着けること（これが主たる目的）。
- (2)計算の概要、統計パッケージの出力の見方を理解し、各手法の誤用を避けられるようになること。
- (3)研究事例や歴史を紐解いて、具体的な問題意識との関連を考えられるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	練習問題を解いて提出する。多変量解析の場合、分析者の裁量の余地があるので、正解は1つではないが、基本的な注意事項をふまえて解答しているかどうかを評価基準とする。
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配付する。講義中に随時推薦する。

#### 前提学力等

統計学基礎、量的データ解析論 が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

#### 履修資格



講義名	臨床心理学						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1403190	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY307							

#### 授業概要

臨床心理学とは、心理学的知見をもとにして対人援助実践をおこないつつ、同時に、その過程をよりよいものにするために研究をおこなっていくものである。この授業では、種々の精神障害や、発達障害などについての知識や、現代において主流となっているいくつかの治療理論・技法についての知見を概観しつつ、心理学的に人を援助するとはどのようなことなのか論じる。実際の授業では、講師から受講生への一方的なレクチャーにとどまらず、仮想的な事例や、映像教材をもとにした受講者同士のディスカッションやワークを多くとり入れる。そのことによって、知的に理解にとどまらず、実感をともなって心理学的に人を援助することを考えられるようにする。受講生諸君の積極的な参加を期待している。

#### 到達目標

臨床心理学における基礎的用語を理解し、用いることができる。  
臨床心理学的対人援助についての自分なりの方針をたてることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	普通の授業における発表(30%)、授業後のformsでのクイズ、レフレクションシートへの記入(30%)、最終レポート(40%)について総合的に判断して評価する。

#### 授業外学習

5 - 6回のビデオや教材を用いた自主学習の結果をまとめたレポート。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

#### 履修資格



講義名	家族論						担当教員	
講義コード	1403240	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	235S0C211							

#### 授業概要

授業テーマ  
ホームレス・マザーの居住問題から見る「家族」 フェミニスト・アクティビストの実践をもとにして  
趣旨  
本授業は、ホームレス・マザー（とその予備軍）が抱える困難／問題、特に居住（＝ハウジング〔Housing〕）に関する問題へのアプローチを通じて、「家族」というシステムが内包する／に起因する問題を浮かび上げさせ、その課題を克服する方途を模索するものである。  
本授業では、理念的・概念的な検討よりも、現実に展開されている（きた）フェミニスト・アクティビストの「実践」の確認と評価に重きを置き、そこから様々な変革の可能性を抽出していく。  
本授業は、2019年度前期科目《家族論》「産むこと、「母〔はは〕する」ことをつかみ直す 資本主義と性／愛／家族、その先の地平」を発展的に継承するものである。  
現在日本で一般的に提起されている「子どもの貧困」・「子育て支援」・「地域生活サポート」・「多様な家族」といった問題設定とは異なる、「母子の生存維持のための行動」・「居住の権利」・「家族単位の社会制度の限界」・「コミュニティによる革新的かつ共同的なケア」といった領域の諸問題に踏み込んでいく。  
キーワード一覧は、下部【担当者から一言】欄を参照のこと。

#### 到達目標

- (1) 授業で提示された内容を正しく把握する。
- (2) 授業内容の理解を通して、授業テーマに関する自らの問題意識を形成する。
- (3) 自らが従来無条件に前提としていた「家族」・「育児」・「居住」などに関するイメージを、批判的に相対化する。
- (4) オルタナティブかつ革新的な居住／育児／ケア／コミュニティ形成の実践を、主体的に構想する。
- (5) 上記4点について、自身の言葉で整理したうえで文章で簡潔に表現できる段階に到達する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

授業に関する情報（授業内で扱った内容だけでなく、時間の都合で授業では触れられなかった内容も含む）は、すべて授業用Webページ（授業期間の開始と同時に作成し、公開する。授業期間中、随時更新する）に掲載する。それをこまめにチェックし、自身の興味関心にしたがって、文献を読む。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定の教科書を指定することはない。授業で扱う文献の情報は、随時授業内で告知するとともに、授業用Webページに掲載する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

本授業の参考文献（オンライン上の記事を含む）については、多数存在するため、随時授業内で告知するとともに、授業用Webページに掲載する。

#### 前提学力等

ジェンダー論・フェミニズム・社会思想史・社会運動論に関する基礎的な理解があることが望ましい。

#### 履修資格





講義名	地域社会論						担当教員	丸山 真央
講義コード	1403250	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	235S0C212							

#### 授業概要

地域社会学は、村落と都市をそれぞれ対象にしてきた社会学が、両者を統合的に捉えることをめざして成立した社会学の一分野であり、地域生活や地域問題に対して社会学の立場と方法からアプローチするものである。本講義では、地域社会学の前提となる農村（村落）社会学と都市社会学の基本的な考え方や基礎概念を学び、それらを踏まえて、地域社会学の基本から応用までを学ぶ。事例として地域社会をめぐる近年の動向や課題を適宜紹介し、地域社会の現状や課題解決への関心を高めるようにしたい。また、受講者数や教室設備、あるいは新型コロナウイルス感染症の感染状況等にもよるが、可能な限り、ディスカッション、ディベート、グループワーク等を取り入れて、講義内容への理解を深め、自らの思考の触発を促すようにしたい。

#### 到達目標

- (1) 地域社会学の基本的な考え方、主要な概念・理論を理解する。
- (2) 地域生活や地域問題の主要な今日のトピックスを理解する。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	最終レポート（30点：到達目標(1)15点、(2)15点）
上記以外	70	授業中に指示する小課題（70点：到達目標(1)30点、(2)40点）

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業で教科書は使用せず、レジュメと資料を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域社会学講座 1～3		東信堂	
2	新版キーワード地域社会学		ハーベスト社	
3	地域の社会学	森岡清志	有斐閣	

参考書や参考となる映像資料等は、授業のなかで随時紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	地域社会論						担当教員	丸山 真央	
講義コード	1403250	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講		
ナンバリング番号	235S0C212								

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	ガイダンス・イントロダクション	授業の進め方、成績評価などを説明する。地域社会学の基本的な視点を学ぶ。				2	最近の新聞やテレビのニュース番組	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第2回	農村社会学の基本的視点	農村の地域社会の特質を家・村理論から理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第3回	都市社会学の基本的視点	都市の地域社会の特質を、シカゴ学派都市社会学の諸理論から理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第4回	都市・農村関係(1)	都市と農山漁村とのつながりの構造と人びとの諸実践を理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第5回	都市・農村関係(2)	都市と農山漁村とのつながりの現状と課題を理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第6回	地域住民組織	町内会・自治会などの地域住民組織の歴史と現状を理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第7回	地域社会の支配と権力	地域社会の支配と権力について、地域権力構造論以降の諸理論を通じて理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第8回	住民運動と地方自治	戦後日本の住民運動とその現在を、住民運動論の基本とともに理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第9回	グローバル化と都市・地域(1)	グローバル化が大都市にもたらす影響と課題を、世界都市論の基本とともに理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第10回	グローバル化と都市・地域(2)	グローバル化が地方都市(特に重工業都市)にもたらす影響と課題を、映像資料を通じて理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第11回	メガイメントと都市・地域	グローバル化の中での大都市とメガイメントの関係を具体例とともに理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第12回	地域社会とメディア(1)	地域社会におけるメディアの役割と課題を理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第13回	地域社会とメディア(2)	変化するメディア環境の中での地域メディア・ジャーナリズムの役割と課題を理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第14回	少子高齢化・人口変動と地域社会	「平成の大合併」を例に、少子高齢化・人口変動の中での地域社会・地方自治の現状と課題を理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
第15回	災害と地域社会	東日本大震災とその復興を例に、巨大災害が地域社会にもたらす影響を理解する。				2	前回の授業中に指示する資料等を読む	2	授業中に指示した小課題に取り組	2
担当者から										

講義名	パーソナリティ心理学						担当教員	
講義コード	1403260	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY314							

#### 授業概要

人々の持つ多様なパーソナリティ(人格)を捉え、その形成されるメカニズムを明らかにしようと、パーソナリティ心理学で行われてきた研究の方法や成果について解説する。パーソナリティの概念を扱う様々な研究アプローチについて学ぶとともに、パーソナリティの類型や特性といった考え方が、人々の生き方や社会のあり方に関する議論とどのように関わっているかを理解する。

#### 到達目標

- (1) 人のパーソナリティ概念、およびその形成過程について理解を深める。
- (2) 生き方や社会のあり方について議論するための、パーソナリティ心理学的な考え方を身に着ける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

#### 授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パーソナリティ心理学 人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード	榎本博明・堀毛一也・安藤寿康	有斐閣	978-4641123779
2	パーソナリティ心理学概論 性格理解への扉	鈴木公啓	ナカニシヤ出版	978-4779506383
3	パーソナリティ心理学 全体としての人間の理解	ミシェル, W. ショウダ, Y. アイダック, O. (著), 黒沢香・原島雅	培風館	978-4563052003

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

#### 前提学力等

「心理学基礎」を履修していることが望ましい。

#### 履修資格

講義名	パーソナリティ心理学						担当教員	
講義コード	1403260	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335PSY314							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習 / 復習	
第1回	イントロダクション	パーソナリティ心理学の特徴について学ぶ。						
第2回	パーソナリティの諸理論	パーソナリティを捉えようとする理論について学ぶ						
第3回	パーソナリティの測定	パーソナリティを測定するために用いられる手法について学ぶ						
第4回	脳とパーソナリティ	神経・生理的基盤を想定したパーソナリティの考え方について学ぶ						
第5回	Big Fiveパーソナリティ	特性論的にパーソナリティを捉える際の枠組みとしてよく参照されるBig Fiveパーソナリティについて学ぶ						
第6回	知能	知能と知能の測定に関する議論について学ぶ						
第7回	「非認知能力」という考え方	近年の教育で触れられることの多い「非認知能力」に関わるパーソナリティについて学ぶ						
第8回	遺伝と環境	パーソナリティの形成と遺伝・環境の関わりについて学ぶ						
第9回	自己とパーソナリティ	自己概念とその形成過程について学ぶ						
第10回	不安定な自己とパーソナリティ	不安定な自己概念とその働きについて学ぶ						
第11回	未来展望とパーソナリティ	未来の捉え方とパーソナリティの関わりについて学ぶ						
第12回	パーソナリティと病理	パーソナリティと心の不調や心理臨床との関わりについて学ぶ						
第13回	パーソナリティと幸福	パーソナリティと人の幸福な生き方との関わりについて学ぶ						
第14回	パーソナリティの捉え方	「パーソナリティとは何か」という考え方が人の行動や判断に与える影響について学ぶ						
第15回	まとめ	授業の内容を振り返りつつ、人のパーソナリティについての体系的な理解を試みる。						
担当者から								

講義名	教育課程論						担当教員	鎌田 祥輝
講義コード	1600251	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	304TEA204, 335EDU305							

#### 授業概要

教育課程（カリキュラム）は、「子どもの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、国が定める内容だけでなく、教室で教師が子どもたちに与える内容や、子どもたちが実際に達成した内容を含む概念である。本授業では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や理論、およびカリキュラム編成にまつわる歴史的な論点を理解することを目標としている。これらの理解を踏まえた上で、具体的な実践を取り上げながら、カリキュラム編成上の現代的課題について検討する。

#### 到達目標

(1)戦後日本の教育課程の変遷についての基礎的知識を持つとともに、求められるこれからの教育課程について現在の議論を踏まえて説明できる。(2)教育目標を明確化し、子どもたちが目標に到達できることを念頭においたカリキュラムづくりを行うことができる。(3)教育課程の変遷を踏まえて、教育課程をめぐる現代的課題の論点を理解し、それに対して妥当な主張を展開することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	(1)「逆向き設計」に基づくカリキュラム設計を行う。教育目標を明確化し、子どもたちが目標に到達できることを念頭においたカリキュラムづくりを行うことができることを観点として評価する。
上記以外	30	教育課程にまつわる基礎的知識の習得を問う、授業内課題を課す。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

#### 授業外学習

集中講義のため、講義開始前や講義終了後を中心に授業外学習を求める。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは指定しない。適宜資料を配付する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新しい時代の教育課程第4版	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣	9784641221079
2	よくわかる教育課程第2版	田中耕治	ミネルヴァ書房	9784623082698
3	よくわかる教育評価第3版	田中耕治	ミネルヴァ書房	9784623091645

適宜資料を配付する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	道徳教育論						担当教員	植田 一夫
講義コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	304TEA205, 335EDU306							

#### 授業概要

「道徳」とは何か?、「道徳教育」とは、これまでどのように行われてきたのだろうか、これからどのようにあるべきだろうか?この授業では「道徳とは何か」という問いについて受講生のみなさんの原体験を出発点に深める。そして、道徳性の発達などの視点で先行研究に学び、道徳・道徳性の概念に関する議論を深める。戦前日本の「修身」科、戦後初期の特設道徳、近年の道徳の教科化など、道徳教育のあり方について歴史的な理解を深める。現場実践の検討を通してより良い「道徳教育」のあり方・やり方を構想し追究していくためにどのようにすればよいかを考察する。以上4点を中心に展開する。

#### 到達目標

- (1)道徳(性)とは何かについて、自らの意見・考察を深めるとともに、自らの思考を他者の主張・価値観を通じて批判的に再検討することができるようになる。
- (2)道徳教育の歴史について理解することを通じて、これまでの/これからの道徳教育の課題・問題点を考えることができるようになる。
- (3)道徳教育の方法について理解を深め、現場実践の検討を通じて、道徳教育の指導力量を形成する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	学期末レポート課題
上記以外	40	毎回の授業感想や議論への参加など

5回以上欠席したら評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	学校ってボクらの力で変わるね	植田一夫	高文研	978-487498-754-4
2				
3				

その他、適宜授業資料を配付する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	子どもと学ぶ道徳教育	吉田一郎他	ミネルヴァ書房	4-623-02240-4
2				
3				

その他、講義中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



